

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	コウルリヂの文学論—その基礎概念の形成—	1	文学	I	1	1951
そうわ	ほうせい	宗和宝正	「詩」と「宗教」—T・S・エリオットの文芸批評論について—	1	文学	I	59	1951
ごとう	たつお	後藤達雄	みなおされるべきランボー	1	文学	I	91	1951
まつおか	たつや	松岡達也	ポール・エリュアールについて	1	文学	I	109	1951
おざき	さとあきら	尾崎知光	源氏物語に於ける引歌表現—国語美論の一問題に対する試みとして—	1	文学	I	125	1951
くどう	よしみ	工藤好美	国木田独歩—個性と時代との関係についての研究—	1	文学	I	161	1951
くりた	もつづぐ	栗田元次	日本における古刊都市図	1	史学	II	1	1952
なかむら	ひでたか	中村栄孝	1510年朝鮮三浦における日本人の争乱—16世紀初年の日鮮関係(1)—	1	史学	II	15	1952
しもむら	ふじお	下村富士男	戊辰戦争と対外関係	1	史学	II	77	1952
しげまつ	あきひさ	重松明久	浄土宗確立過程における法然と兼実との関係	1	史学	II	127	1952
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	史記貨殖列伝について	1	史学	II	161	1952
はたの	ぜんだい	波多野善大	中国輸出茶の生産構造—アヘン戦争前における—	1	史学	II	183	1952
はやし	?	林章	明代後期の北辺の馬市について	1	史学	II	211	1952
みながわ	おんじ	水川温二	キリスト教迫害と父祖の道 (MOS MAJORUM)	1	史学	II	225	1952
なかやま	じいち	中山治一	日清戦争と帝政ドイツの極東政策	1	史学	II	243	1952
まつい	たけとし	松井武敏	日本デンマーク地帯における商品生産的農業—昭和初年の愛知県碧海郡におけるその発展について—	1	史学	II	259	1952
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	平野の形成に関する若干の問題—東海地方の場合—	1	史学	II	291	1952
うい	はくじゅ	宇井伯寿	真理の宝環	1	哲学	III	1	1952
たけうち	よしお	武内義雄	孫子孝文	1	哲学	III	33	1952
おおはま	あきら	大濱皓	他愛と自愛—墨翟と楊朱の場合—	1	哲学	III	55	1952
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	東大寺戒壇院の四天王像—それをながめたときに憎しみと軽べつとを感じるふしぎな“リアリズム学者”への批判を中心に—	1	哲学	III	91	1952
ひらばやし	やすゆき	平林康之	富永仲基覚え書	1	哲学	III	115	1952
いのうえ	きみまさ	井上公正	ルネサンス・ヒューマニズムと理想国家の構想	1	哲学	III	127	1952
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正	心理物理同型論 (Isomorphismus) の実証的研究—形態の場の強さを求める理論式—	1	哲学	III	163	1952
ささき	ただし	佐々木理	黄金驢馬	2	文学	IV	1	1953
のむら	まさよし	野村正良	アルタイ諸語に於ける一種の母音交替について	2	文学	IV	25	1953
はやかわ	みちすけ	早川通介	北京語における音休止の考察—ひとつの場合を取って—	2	文学	IV	45	1953
まつむら	ひろし	松村博司	栄花物語異本系統本の研究	2	文学	IV	63	1953
おざき	さとあきら	尾崎知光	古事記の文體に関する序説的考察	2	文学	IV	95	1953

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
そうわ	ほうせい	宗和宝正	詩と社会—マシュー・アーノルド研究—	2	文学	IV	117	1953
いとう	たけお	伊藤武雄	ケラーの Mauser に関する研究	2	文学	IV	133	1953
くりた	もつぐ	栗田元次	新井白石の著書に就いて	2	史学	V	1	1953
なかむら	ひでたか	中村栄孝	朝鮮全州の史庫とその蔵書—壬辰丁酉の乱と典籍の保存—	2	史学	V	13	1953
しもむら	ふじお	下村富士男	岩倉交渉以前における条約問題	2	史学	V	71	1953
しげまつ	あきひさ	重松明久	織田政権の成長と長島一揆	2	史学	V	105	1953
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	僅約研究	2	史学	V	139	1953
はたの	ぜんだい	波多野善大	北洋軍閥の成立過程	2	史学	V	211	1953
みながわ	おんじ	水川温二	福音史家聖ルカの史観について—ユデア人の納税とイエズスの宗教運動—	2	史学	V	263	1953
なかやま	じいち	中山治一	揚子江協定成立前後の英独関係	2	史学	V	281	1953
まつい	たけとし	松井武敏	岐阜県名森村における地割制度—その発生・存続の理由について—	2	史学	V	299	1953
きたむら	としお	喜多村俊夫	干拓新田の歴史地理的構造—肥後国玉名郡横島新田—	2	史学	V	323	1953
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	日本の初期農業集落の立地に関する若干の問題	2	史学	V	357	1953
すみた	しょういち	澄田正一	ダニューブ新石器文化について	2	史学	V	377	1953
ひらばやし	やすゆき	平林康之	安藤昌益について	2	哲学	VI	1	1953
いのうえ	きみまさ	井上公正	プラトン「ポリティア」の教育論—性格教育—	2	哲学	VI	23	1953
おおはま	あきら	大濱皓	合と離—恵施と公孫龍の場合—	2	哲学	VI	73	1953
うい	はくじゅ	宇井伯寿	成唯識宝生論研究	2	哲学	VI	103	1953
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	和様の研究—彫刻史における国風問題の前提として—	2	哲学	VI	209	1953
おおはま	あきら	大濱皓	中の思想—中庸と荀子の場合—	3	哲学	IX	1	1954
うい	はくじゅ	宇井伯寿	仏国記に存する音訳語の字音	3	哲学	IX	27	1954
かねこ	もくぞん	金児黙存	有 (bhave) の構造としての五蘊説	3	哲学	IX	67	1954
うちやま	みちあき	内山道明	視知覚に於ける場の強さを求める実験式について	3	哲学	IX	93	1954
たけうち	よしとも	竹内良知	スピノザ哲学の歴史的意義 (翻訳)	3	哲学	IX	113	1954
いとう	たけお	伊藤武雄	わかきケラーにおける世界観の形成	3	文学	VII	1	1954
まつむら	ひろし	松村博司	栄花物語古本及び流布系統本の研究	3	文学	VII	41	1954
まえの	なおあき	前野直彬	清代志怪書解題(上)	3	文学	VII	71	1954
こもり	いくこ	小守郁子	源氏物語における史記の影響	3	文学	VII	101	1954
あさくら	たかし	朝倉剛	フランソワ・モーリヤックについて	3	文学	VII	121	1954
さとう	じろう	佐藤自郎	グリルパルツェルの「祖妣」の問題	3	文学	VII	147	1954
くりた	もつぐ	栗田元次	近世刊版の日本総図	3	史学	VIII	1	1954
しもむら	ふじお	下村富士男	条約改正史上の明治12年	3	史学	VIII	11	1954
しげまつ	あきひさ	重松明久	古事記の神系とその称呼について	3	史学	VIII	25	1954

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	劉秀と南陽	3	史学	VIII	45	1954
はたの	ぜんだい	波多野善大	民国革命運動における新軍—広東新軍の叛乱を中心として—	3	史学	VIII	63	1954
たにがわ	みちお	谷川道雄	「安史の乱」の性格について	3	史学	VIII	77	1954
みながわ	おんじ	水川温二	ローマの支配を諷刺する新約聖書の語について	3	史学	VIII	93	1954
なかやま	じいち	中山治一	ドイツ帝国主義の基本的方向	3	史学	VIII	107	1954
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	日本デンマーク地帯の農業における産業組合の役割—主に桜井村小川農業共同組合の分析—	3	史学	VIII	119	1954
のむら	まさよし	野村正良	張家口方言及包頭方言に於ける声類—いわゆる西北諸方語との一比較—	4	文学	X	1	1955
きんだいち	はるひこ	金田一春彦	日本語動詞のテンスとアスペクト	4	文学	X	63	1955
おざき	さとあきら	尾崎知光	所謂自敬表現について	4	文学	X	91	1955
いとう	たけお	伊藤武雄	ケラーにおける芸論の展開	4	文学	X	109	1955
くりた	もつづぐ	栗田元次	日本近世の年表史	4	史学	XI	1	1955
しげまつ	あきひさ	重松明久	没落期における撰閣政権の道理—愚管抄をとおして—	4	史学	XI	15	1955
たにがわ	みちお	谷川道雄	龐勛(ほうくん)の乱について	4	史学	XI	27	1955
なかやま	じいち	中山治一	ドイツ帝国主義開始期の問題	4	史学	XI	43	1955
きしだ	ゆき	岸田紀	アメリカ革命におけるジョン・ウエズリの政治的態度	4	史学	XI	53	1955
きたむら	としお	喜多村俊夫	前期藩営新田に於ける土地問題—備前国沖新田—	4	史学	XI	65	1955
すみた	しょういち	澄田正一	日本原始農業発生の問題—美濃尾張の先史考古学的研究—	4	史学	XI	87	1955
ならさき	しょういち	檜崎彰一	名古屋市熱田区高蔵第一号古墳の調査	4	史学	XI	111	1955
かわむら	みつお	河邑光夫	明治時代における先進的思想についての—考察—内村鑑三を中心にして—	4	哲学	XII	1	1955
おおはま	あきら	大濱皓	同と異—荀子(正名篇)と墨経(小取篇)の場合—	4	哲学	XII	13	1955
うい	はくじゅ	宇井伯寿	金剛般若経釈論研究	4	哲学	XII	41	1955
あとじ	よしお	阿閉吉男	日本社会学—過去と現在—	4	哲学	XII	43	1955
まつむら	ひろし	松村博司	栄花物語続篇の研究	5	文学	XIII	1	1956
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	コウルリチのシェイクスピア批評—その批評精神の形成と展開—	5	文学	XIII	31	1956
そうわ	ほうせい	宗和宝正	フィールディングの現実認識 —「トム・ジョンズ物語」における肯定と否定の関係—	5	文学	XIII	65	1956
はせがわ	たろう	長谷川太郎	フランスにおける喜劇の起源—フランス中世喜劇史の諸問題—I—	5	文学	XIII	81	1956
いとう	たけお	伊藤武雄	「緑のハインリヒ」初版本の制作と出版	5	文学	XIII	105	1956
しもむら	ふじお	下村富士男	日露戦争と満州市場	5	史学	XIV	1	1956

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しげまつ	あきひさ	重松明久	名主層の封建支配に関する試論—色成年貫・公方年貫をとおして—	5	史学	XIV	17	1956
はたの	ぜんだい	波多野善大	民国革命と新軍—武昌の新軍を中心として—	5	史学	XIV	33	1956
なかやま	じいち	中山治一	「外交革命」におけるフランスの積極的役割—国際政治と金融資本の問題—	5	史学	XIV	59	1956
みながわ	おんじ	水川温二	エフェゾ書に関する一考察	5	史学	XIV	69	1956
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	日本周辺の陸棚と沖積統基底面との関係について	5	史学	XIV	85	1956
うい	はくじゆ	宇井伯寿	荘嚴経論並びに中辺論の著者問題	5	哲学	XV	1	1956
たかはし	しんいち	高橋進一	いわゆる「農村封建性」をめぐる諸問題—社会学的概念の検討と実態把握の方法を中心として—その1	5	哲学	XV	51	1956
ひるかわ	さかえ	蛭川栄	刺激縮減下に於ける図形知覚について—主として経験効果について—	5	哲学	XV	73	1956
うちやま	みちあき	内山道明	形の場の時間的変容についての実験的研究	5	哲学	XV	91	1956
のむら	まさよし	野村正良	三河方言及び尾張方言に関する言語年代的計測値	6	文学	XVI	1	1957
ふかがや	かずお	深萱和男	「白樺」覚書	6	文学	XVI	29	1957
かとう	りゆうたろう	加藤龍太郎	シェイクスピアとその批評家たち—その一—ドライデンまで—	6	文学	XVI	43	1957
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	ANGLO-NORMAN AND ENGLISH —A Survey on their Interactions—	6	文学	XVI	73	1957
そうわ	ほうせい	宗和宝正	ワーズワスの「辺境人」—近代自我の行方—	6	文学	XVI	89	1957
やまかわ	あつし	山川篤	フローベールの非現代性	6	文学	XVI	113	1957
はせがわ	たろう	長谷川太郎	フランス中世喜劇の担い手たち—フランス中世喜劇史の諸問題—II—	6	文学	XVI	135	1957
もり	よしひろ	森昌弘	「マルテの手記」に於ける詩人像	6	文学	XVI	169	1957
しげまつ	あきひさ	重松明久	在地封建制の構造—色成年貫・公方年貫再識—	6	史学	XVII	1	1957
はたの	ぜんだい	波多野善大	清末における鉄道国有政策の背景	6	史学	XVII	29	1957
なかやま	じいち	中山治一	イギリスの「名誉ある孤立」の放棄の時期について	6	史学	XVII	67	1957
みながわ	おんじ	水川温二	小プリニウスのピティニア総督としての使命について	6	史学	XVII	75	1957
きしだ	ゆき	岸田紀	ジョン・ウェズリにおける職業倫理の一考察	6	史学	XVII	93	1957
きたむら	としお	喜多村俊夫	間作(あいさく)を廻る土地問題—愛知県海部郡十四山村神戸新田—	6	史学	XVII	115	1957
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	縄文早期ごろの海面とその相対的变化	6	史学	XVII	145	1957
たけうち	よしとも	竹内良知	フランス哲学史概説—18世紀を中心に—	6	哲学	XVIII	1	1957
ふじの	わたり	藤野渉	ヘーゲル哲学に対するマルクス主義の関係—東ドイツにおける討論について—	6	哲学	XVIII	15	1957
ひらばやし	やすゆき	平林康之	18世紀末および19世紀はじめのドイツ哲学史における欠陥と誤りについて	6	哲学	XVIII	65	1957

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かわむら	みつお	河邑光夫	デューイの「教育論」の認識的基礎について	6	哲学	XVIII	75	1957
おおはま	あきら	大濱皓	老子の論理	6	哲学	XVIII	93	1957
かねこ	もくぞん	金児黙存	四禅説の形成とその構造—原始仏教に於ける実践—	6	哲学	XVIII	123	1957
あとじ	よしお	阿閉吉男	K. マンハイムの社会学的問題意識	6	哲学	XVIII	145	1957
ほんだ	きよじ	本田喜代治	略歴・著作目録	6	哲学	XVIII	159	1957
はやかわ	みちすけ	早川通介	現代北京語の音休止—附・呼気段落の長さ—	7	文学	XIX	1	1958
まつむら	ひろし	松村博司	栄花物語と玉葉集との関係について	7	文学	XIX	107	1958
やまかわ	あつし	山川篤	「ボヴァリ夫人」における風景描写	7	文学	XIX	123	1958
はせがわ	たろう	長谷川太郎	フランス中世喜劇の成立—フランス中世喜劇史の諸問題—III—	7	文学	XIX	135	1958
いとう	たけお	伊藤武雄	ケラー叙事文学の性格	7	文学	XIX	161	1958
しげまつ	あきひさ	重松明久	妙興寺領管見	7	史学	XX	1	1958
はたの	ぜんだい	波多野善大	中国近代史に関する三つの問題—中国の近代化は何故おくれたか—	7	史学	XX	29	1958
なかやま	じいち	中山治一	帝国主義と植民地獲得—イギリスの場合—	7	史学	XX	63	1958
ならさき	しょういち	檜崎彰一	岐阜県恵那郡明智町における二古塚の調査	7	史学	XX	71	1958
うい	はくじゅ	宇井伯寿	第一部 金剛般若経和訳	7	哲学	XXI	1	1958
きたがわ	ひでのり	北川秀則	正規学派の現量(=知覚)説に対する陳那の批判	7	哲学	XXI	57	1958
あんど	けいいちろう	安藤慶一郎	同族神祭祀と同族結合—岐阜県恵那郡山村における事例—その1—	7	哲学	XXI	75	1958
ひるかわ	さかえ	蛭川栄	図—地反転現象に関する研究	7	哲学	XXI	105	1958
たかむら	?	高村正一	箏曲「六段の調べ」研究	7	哲学	XXI	119	1958
ました	しんいち	真下信一	1931?1945年における日本哲学の状況		哲学	10周年 記念論 集	1	1958
たけうち	よしとも	竹内良知	道徳についての覚書		哲学	10周年 記念論 集	11	1958
ふじの	わたり	藤野渉	「資本論」における倫理思想(一)		哲学	10周年 記念論 集	27	1958
ひらばやし	やすゆき	平林康之	日本に於ける帝国主義期の唯物論哲学 —戸坂潤と「唯研」の条件—		哲学	10周年 記念論 集	53	1958
かわむら	みつお	河邑光夫	戸坂潤の学問論—イデオロギー性と論理性の関係をめぐって—		哲学	10周年 記念論 集	61	1958

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
おおはま	あきら	大濱皓	孟子と告子の論争		哲学	10周年 記念論 集	71	1958
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	戦争詩人オウエン		文学	10周年 記念論 集	75	1958
やました	りゅうじ	山下龍二	陸象山の「心即理」説について—朱子学・陽明学との比較—		哲学	10周年 記念論 集	89	1958
こもり	いくこ	小守郁子	白楽天の限界—その否定精神の欠如—		哲学	10周年 記念論 集	111	1958
うい	はくじゅ	宇井伯寿	勝鬘經の梵文断片		哲学	10周年 記念論 集	135	1958
きたがわ	ひでのり	北川秀則	因を以て宗の法たるべしとなす陳那の見解—三支作法の基本構想—		哲学	10周年 記念論 集	161	1958
うえだ	よしふみ	上田義文	“Parin.a-ma” について		哲学	10周年 記念論 集	189	1958
ほんだ	めぐむ	本多恵	上古インドの呪文—アタルヴァ・ヴェーダ 第一章和訳—		哲学	10周年 記念論 集	211	1958
うちやま	みちあき	内山道明	形の場の衰退過程についての実験的研究 —図形消失後の場について—		哲学	10周年 記念論 集	229	1958
いちかわ	のりよし	市川典義	対人関係における認知とその変容について —学級集団における実態と考察—		哲学	10周年 記念論 集	239	1958
たかむら	?	高村正一	日本中世音楽研究覚え書—伝統論を中心に—		哲学	10周年 記念論 集	261	1958
あとじ	よしお	阿閉吉男	大衆化と大衆的人間		哲学	10周年 記念論 集	275	1958

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
あんど	けいいちろう	安藤慶一郎	近世村落における農民層の構成と展開—三州名倉の場合—		哲学	10周年 記念論 集	289	1958
なかむら	ひでたか	中村栄孝	文禄慶長の役に関する覚書—対外戦争における豊臣秀吉の目的をめぐって—		史学	10周年 記念論 集	305	1958
いやなが	ていぞう	弥永貞三	大化大宝間の造籍について		史学	10周年 記念論 集	333	1958
びとう	まさひで	尾藤正英	中江藤樹の思想形成—「翁問答」の成立まで—		文学	10周年 記念論 集	349	1958
びとう	まさひで	尾藤正英	中江藤樹の思想形成—「翁問答」の成立まで—		史学	10周年 記念論 集	349	1958
しげまつ	あきひさ	重松明久	尾張における織田氏の消長		史学	10周年 記念論 集	373	1958
はたの	ぜんだい	波多野善大	西原借款の基本的構想		史学	10周年 記念論 集	393	1958
たにがわ	みちお	谷川道雄	北魏官界における門閥主義と賢才主義		史学	10周年 記念論 集	417	1958
みながわ	おんじ	水川温二	平和 (PAX) と協和 (CONCORDEA)—キリスト教に於けるローマ的伝統に関する考察—		史学	10周年 記念論 集	437	1958
きしだ	ゆき	岸田紀	ウェズリとホイットフィールド—ウェーバーのメソダイズム論をめぐって—		史学	10周年 記念論 集	453	1958
すみた	しょういち	澄田正一、諏訪兼位	濃飛山地に出土する石皿の研究		史学	10周年 記念論 集	465	1958
すわ	かねのり	澄田正一、諏訪兼位	濃飛山地に出土する石皿の研究		史学	10周年 記念論 集	465	1958

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ならさき	しょういち	檜崎彰一	後期古墳時代の諸段階		史学	10周年 記念論 集	499	1958
まつい	たけとし	松井武敏	日本における耕地集団化の事例研究		史学	10周年 記念論 集	535	1958
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	伊勢湾北部海岸地域の地形構造—とくに沖積統基底面の地盤変動量について—		史学	10周年 記念論 集	557	1958
やもり	かずひこ	矢守一彦	近世城下町の町割と屋敷割に関する若干の覚書		史学	10周年 記念論 集	573	1958
ささき	ただし	佐々木理	アルケースティス		文学	10周年 記念論 集	597	1958
くれ	しげいち	呉茂一	ギリシア叙事詩, ことに《イーリアス》形成の問題について		文学	10周年 記念論 集	613	1958
のむら	まさよし	野村正良	モンゴル方言の長母音と原蒙古語に於ける長母音存在の可能性に就いて		文学	10周年 記念論 集	621	1958
はやかわ	みちすけ	早川通介	東京・鳥取両方言アクセントの共通度 —国語アクセント計量的比較のための一つの試み—		文学	10周年 記念論 集	633	1958
まつむら	ひろし	松村博司	小林本栄花物語について—異本系統本及び流布系統本に対する再考察—		文学	10周年 記念論 集	665	1958
きんだいち	はるひこ	金田一春彦	熊野灘沿岸諸方言のアクセント—北牟婁郡の部—		文学	10周年 記念論 集	681	1958
ごとう	しげお	後藤重郎	烏丸本新古今和歌集の奥書に関する一考察		文学	10周年 記念論 集	703	1958
ふかがや	かずお	深萱和男	白樺の作家—郡虎彦—		文学	10周年 記念論 集	725	1958

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いりや	よしたか	入矢義高	義山雑纂について		文学	10周年 記念論 集	737	1958
みずたに	しんじょう	水谷真成	Brahmi 文字転写「羅什訳金剛経」の漢字音		文学	10周年 記念論 集	749	1958
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	コウルリヂのミルトン批評		文学	10周年 記念論 集	775	1958
おいた	さぶろう	老田三郎	Matthew Arnold と T.S.Eliot—覚書—Eliot の Arnold 批判—		文学	10周年 記念論 集	795	1958
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	Old Norse Reflexive Verbs		文学	10周年 記念論 集	829	1958
そうわ	ほうせい	宗和宝正	「ベーオウルフ」の構成の二元性をめぐって		文学	10周年 記念論 集	851	1958
やまかわ	あつし	山川篤	フローベールのブルジョワ観		文学	10周年 記念論 集	871	1958
ひらた	じょうじ	平田襄治	モーパッサンの小説観について		文学	10周年 記念論 集	887	1958
いとう	たけお	伊藤武雄	「ケラー叙事文学の研究」序論		文学	10周年 記念論 集	905	1958
もり	よしひろ	森昌弘	リルケとばら		文学	10周年 記念論 集	925	1958
のむら	まさよし	野村正良	蒙古語音韻史から見たハラチン方言とダグール方言との 並行性に就いて	8	文学	XXII	1	1960
うめだ	ひろゆき	梅田博之	On the Phonemes of Cheju Dialect of Korean	8	文学	XXII	17	1960
ごとう	しげお	後藤重郎	歌合より見た新古今和歌集撰者選定に関する一考察	8	文学	XXII	47	1960
おかむら	しげる	岡村繁	後漢末期の評論的気風について	8	文学	XXII	67	1960
ひらた	じょうじ	平田襄治	Maupassant の戯曲作品について	8	文学	XXII	113	1960
いとう	たけお	伊藤武雄	「緑のハインリヒ」の理念と構成 前篇	8	文学	XXII	133	1960

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しげまつ	あきひさ	重松明久	往生伝の研究—平安時代の7往生伝について—	8	史学	XXIII	1	1960
ふじの	わたり	藤野涉	「資本論」における倫理思想(二)	8	哲学	XXIV	1	1960
きたがわ	ひでのり	北川秀則	集量論為自比量品前段の研究	8	哲学	XXIV	25	1960
ほんだ	めぐむ	本多恵	サーンキヤ・ストラ解説	8	哲学	XXIV	77	1960
あんど	けいいちろう	安藤慶一郎	庚申・念仏講集団と村落組織	8	哲学	XXIV	161	1960
くれ	しげいち	呉茂一	ラテン語における重母音の消長について	9	文学	XXV	1	1961
うめだ	ひろゆき	梅田博之	慶尚北道漆谷方言(朝鮮語)のアクセント	9	文学	XXV	11	1961
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集恋部の配列に関する一考察	9	文学	XXV	29	1961
おかむら	しげる	岡村繁	人物志劉注校箋	9	文学	XXV	59	1961
やまかわ	あつし	山川篤	草稿との比較による「ボヴァリ夫人」の自由間接話法について	9	文学	XXV	121	1961
ひらた	じょうじ	平田襄治	<Bel-Ami>の現実性	9	文学	XXV	143	1961
いとう	たけお	伊藤武雄	「緑のハインリヒ」の理念と構成 後篇	9	文学	XXV	167	1961
MUSSLE	Hans Petter	MUSSLE, Hans Petter	Humanitat in Goethes Iphigenie	9	文学	XXV	243	1961
なかむら	もとやす	中村元保	シラーの「群盗」における Rauber モチーフと Raches モチーフ	9	文学	XXV	313	1961
たにがわ	みちお	谷川道雄	北齊政治史と漢人貴族	9	史学	XXVI	1	1961
すみた	しょういち	澄田正一	木曾川流域の先史考古学的研究—恵那地方の石皿について—	9	史学	XXVI	37	1961
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	沖積平野研究の基礎的問題点	9	史学	XXVI	51	1961
やもり	かずひこ	矢守一彦	城下町プランにおける「地域制」の明治以降における変化と作用—東海地方を事例として—	9	史学	XXVI	75	1961
やました	りゅうじ	山下龍二	羅欽順と気の哲学	9	哲学	XXVII	1	1961
きたがわ	ひでのり	北川秀則	集量論観過類品前段の研究	9	哲学	XXVII	55	1961
いちかわ	のりよし	市川典義	三次元視空間におよぼす図形の効果について—円面図形と小点の変位—	9	哲学	XXVII	125	1961
あんど	けいいちろう	安藤慶一郎	東美濃における屋敷神の祭祀形態に関する一考察—村落および家との関係について—	9	哲学	XXVII	141	1961
ごとう	しげお	後藤重郎	勅撰和歌集序に関する一考察	10	文学	XXVIII	1	1962
ふかがや	かずお	深萱和男	「荒野」の頃	10	文学	XXVIII	15	1962
おかむら	しげる	岡村繁	「才性四本論」の性格と成立	10	文学	XXVIII	29	1962
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	Some Notes on Coleridge's Early Reputation in America, 1800-1830	10	文学	XXVIII	43	1962
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	Palsgrave の Cotgrave—近世初期イギリスのフランス語学者達—	10	文学	XXVIII	65	1962
そうわ	ほうせい	宗和宝正	「ベーオウルフ」の構成とフィン挿話	10	文学	XXVIII	89	1962

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ひらた	じょうじ	平田襄治	Zola 初期の文学観について	10	文学	XXVIII	107	1962
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァの完成期の作品研究—悲劇の構成と問題性—	10	文学	XXVIII	121	1962
こもり	いくこ	小守郁子	「もののあはれ」論—源氏物語における—	10	哲学	XXX	1	1962
うちやま	みちあき	内山道明	面図形上の場の強さについて	10	哲学	XXX	37	1962
あとじ	よしお	阿閉吉男	闘争の社会(I)—ゲオルグ・ジンメル のばあい—	10	哲学	XXX	49	1962
あんどう	けいいちろう	安藤慶一郎	東美濃山村の同族団と祭祀組織—岐阜県恵那郡山岡町釜屋の調査報告—	10	哲学	XXX	67	1962
ふじむら	みちお	藤村道生	条約励行論の前提	10	史学	XXIX	1	1963
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	管子弟子職篇によせて—古代専制体制と社会諸集団との関係に就いての考察—	10	史学	XXIX	21	1963
たにがわ	みちお	谷川道雄	慕容燕の権力構造—とくに前燕を中心として—	10	史学	XXIX	51	1963
きしだ	ゆき	岸田紀	産業革命期のウェズリ運動	10	史学	XXIX	77	1963
いせき	ひろたろう	松井武敏、井関弘太郎	第2室戸台風による高潮と海岸地形—とくに紀伊水道沿岸を中心に—	10	史学	XXIX	93	1963
まつい	たけとし	松井武敏、井関弘太郎	第2室戸台風による高潮と海岸地形—とくに紀伊水道沿岸を中心に—	10	史学	XXIX	93	1963
ごとう	しげお	後藤重郎	風雅和歌集撰定に関する一考察	11	文学	XXXI	1	1963
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	言語研究資料としての Domesday Book—第一部	11	文学	XXXI	21	1963
そうわ	ほうせい	宗和宝正	「ベーオウルフ」の後半部について	11	文学	XXXI	33	1963
やまかわ	あつし	山川篤	七月革命とフローベール	11	文学	XXXI	45	1963
ひらた	じょうじ	平田襄治	Zola 初期の文学観について (II)	11	文学	XXXI	55	1963
なかむら	もとやす	中村元保	シラーの「ドン・カルロス」—ドイツ啓蒙主義者の悲劇	11	文学	XXXI	75	1963
かざま	きよぞう	風間喜代三	PIE. e, a, o の仮定について	11	文学	XXXI	97	1963
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正	形の心理的ポテンシャル場の理論の妥当性について	11	哲学	XXXIII	1	1963
いくた	ひろゆき	横瀬善正、内山道明、生田博之	視覚現象と脳波—視覚残像について—	11	哲学	XXXIII	15	1963
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明	視覚現象と脳波—視覚残像について—	11	哲学	XXXIII	15	1963
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、内山道明、生田博之	視覚現象と脳波—視覚残像について—	11	哲学	XXXIII	15	1963
いとう	みつよ	伊東三四	視覚場における明るさの要因について —輪廓線図形の場合(I)—	11	哲学	XXXIII	29	1963
あとじ	よしお	阿閉吉男	闘争の社会学(II)—ゲオルグ・ジンメル のばあい—	11	哲学	XXXIII	45	1963
ふじむら	みちお	藤村道生	初期議会のいわゆる対外硬派について—条約改正史の研究(その二)—	11	史学	XXXII	1	1964
たにがわ	みちお	谷川道雄	北魏研究の方法と課題	11	史学	XXXII	15	1964

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
すみた	しょういち	澄田正一	濃飛山地に分布する石皿の機態について	11	史学	XXXII	33	1964
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	四日市海岸部の自然条件と埋立地の適正規模 ソ連地理学界における一つの問題	11	史学	XXXII	53	1964
おの	きくお	小野菊雄	ソ連地理学界における一つの問題 —ヴェ・ア・アヌーチンの著書をめぐってのモスクワ大学における討論—	11	史学	XXXII	61	1964
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集撰者名註記に関する一考察(上)	12	文学	XXXIV	1	1964
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	言語資料としての Domesday Book—第二部	12	文学	XXXIV	71	1964
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	ホプキンス研究とエリオット	12	文学	XXXIV	93	1964
よしはら	まさひろ	芳原政弘	シエウルム・ウント・ドラング期(1770—1775)におけるゲーテの芸術観—特に自然観との関連において—	12	文学	XXXIV	115	1964
いやなが	ていぞう	弥永貞三	「彌移居」・「官家」考	12	史学	XXXV	1	1964
ふじむら	みちお	藤村道生	朝鮮における日本特別居留地の起源	12	史学	XXXV	21	1964
たにがわ	みちお	谷川道雄	南匈奴の国家前後両趙政権の性格について	12	史学	XXXV	77	1964
みながわ	おんじ	水川温二	ユリウス・カエサルの寛容とキケロー—ローマ帝政初期の仁政思想研究への序説—	12	史学	XXXV	115	1964
たけうち	よしとも	竹内良知	スピノザ哲学の内的矛盾についての素描	12	哲学	XXXVI	1	1964
ふじの	わたり	藤野渉	「資本論」における倫理思想(三)	12	哲学	XXXVI	21	1964
ひらばやし	やすゆき	平林康之	現代の科学的思考と哲学—サイバネティックスの定義問題をめぐって—	12	哲学	XXXVI	47	1964
やました	りゅうじ	山下龍二	明代思想研究はどう進められてきたか	12	哲学	XXXVI	59	1964
いとう	みつよ	横瀬善正、伊東三四	円および円弧図形の場の強さについての実験および理論的展開	12	哲学	XXXVI	93	1964
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、伊東三四	円および円弧図形の場の強さについての実験および理論的展開	12	哲学	XXXVI	93	1964
いくた	ひろゆき	生田博之	精神外科的治療—Cingulectomy—の効果についての心理学的検討	12	哲学	XXXVI	105	1964
あとじ	よしお	阿閉吉男	ジンメル社会学文献解題	12	哲学	XXXVI	123	1964
ふじの	わたり	藤野渉	「資本論」における倫理思想(四)	13	哲学	XXXIX	1	1965
ひらばやし	やすゆき	平林康之	現代の科学的思考と哲学(II)	13	哲学	XXXIX	17	1965
おおはま	あきら	大濱皓	〈無用之用〉の思想	13	哲学	XXXIX	27	1965
やました	りゅうじ	山下龍二	黄綰〈明道編〉について(続)	13	哲学	XXXIX	37	1965
いとう	みつよ	伊東三四	視覚場における明るさの要因について —輪廓線図形の場合(II)—	13	哲学	XXXIX	53	1965
すずき	まさや	鈴木正弥	間隔距離知覚に関する一研究	13	哲学	XXXIX	67	1965
あとじ	よしお	阿閉吉男	ジンメル社会学方法論の再検討(I)	13	哲学	XXXIX	77	1965
のむら	まさよし	野村正良	原蒙古語の母音体系に就いての研究	13	文学	XXXVII	1	1965
うめだ	ひろゆき	梅田博之	朝鮮語のソナグラム	13	文学	XXXVII	41	1965

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集撰者名註記に関する一考察(中)—撰者名註記一覧表—	13	文学	XXXVII	91	1965
けいや	としのぶ	慶谷壽信	入声韻尾消失の過程についての—仮説—「蒙古字韻」からのアプローチ—	13	文学	XXXVII	149	1965
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	啓蒙の文学批評—トマス・ライマーの批評学—	13	文学	XXXVII	187	1965
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	「荒地再訪」再考	13	文学	XXXVII	209	1965
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Beowulf の Ingeld Episode について	13	文学	XXXVII	223	1965
いとう	たけお	伊藤武雄	Moglichkeitsgrenze der Prädikatskonstruktion	13	文学	XXXVII	243	1965
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァの「ザッフォー」研究—問題性の萌芽—	13	文学	XXXVII	267	1965
よしはら	まさひろ	芳原政弘	ゲーテの自然研究(一)	13	文学	XXXVII	287	1965
なかむら	ひでたか	中村栄孝	朝鮮役の投降倭将金忠善—その文集と伝記の成立—	13	史学	XXXVIII	1	1965
はたの	ぜんだい	波多野善大	ある東洋史研究者の世界像	13	史学	XXXVIII	31	1965
もり	まさお	森正夫	十五世紀前半太湖周辺地帯における国家と農民	13	史学	XXXVIII	51	1965
ならさき	しょういち	檜崎彰一	岐阜市長良龍門寺古墳群	13	史学	XXXVIII	127	1965
きたむら	としお	喜多村俊夫	神戸新田(尾張海西部)に於ける農家と耕地の変遷 (I)	13	史学	XXXVIII	157	1965
のむら	まさよし	野村正良	原蒙古語の母音体系に就いての研究 II	14	文学	XL	1	1966
うちだ	さたろう	打田佐太郎	音韻識別の鍵としての母音の継続時間—破裂音よりのアプローチ—	14	文学	XL	11	1966
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集撰者名註記に関する一考察(下)	14	文学	XL	25	1966
けいや	としのぶ	慶谷壽信	「北音入声演變政」附説	14	文学	XL	45	1966
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	Layamon-Grammar in Outline	14	文学	XL	111	1966
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Widsid の技巧	14	文学	XL	143	1966
やまかわ	あつし	山川篤	フローベール作品批評史	14	文学	XL	159	1966
なかむら	ひでたか	中村栄孝	略歴・著作目録	14	史学	XLI	1	1966
いやなが	ていぞう	弥永貞三	「拾芥抄」及び「海東諸国記」にあらわれた諸国の田積史料に関する覚え書—中村教授「海東諸国記の撰修と印刷」の脚注として—	14	史学	XLI	11	1966
ふじむら	みちお	藤村道生	明治維新外交の旧国際関係への対応—日清修好条規の成立をめぐる—	14	史学	XLI	29	1966
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	北斎書文宛伝中顔之推伝の一節について	14	史学	XLI	47	1966
はたの	ぜんだい	波多野善大	The Background of the Railway-Nationalization Policy in the Late Ch'ing Period: The Reason Why the Policy Was Taken Up	14	史学	XLI	65	1966
すみた	しょういち	澄田正一	第四紀考古学の研究 (I) —岐阜県八百津町定屋敷遺跡の第一号炉址—	14	史学	XLI	81	1966

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
たにがわ	みちお	谷川道雄	五胡十六国および北周の諸君主における天王の称号について	14	史学	XLI	91	1966
もり	まさお	森正夫	十五世紀前半蘇州府における徭役労働制の改革	14	史学	XLI	105	1966
みながわ	おんじ	水川温二	カエサルスの寛容とその帝国政策	14	史学	XLI	125	1966
きたむら	ただお	北村忠夫	Koln 司教・Kunibert (c. 626-nach 648) 小論—7世紀前期・Merowinger 政治史覚書—	14	史学	XLI	139	1966
はっとり	はるひこ	服部春彦	産業革命期におけるノルマンディ綿織物業の構造変革	14	史学	XLI	153	1966
きしだ	ゆき	岸田紀	ジョン・ウェズリとゴードン暴動	14	史学	XLI	169	1966
おおみ	ぎいち	大参義一	尾張出土古瓦の編年的考察	14	史学	XLI	191	1966
まつい	たけとし	松井武敏	Hettner の地理学の見解に関する断想	14	史学	XLI	207	1966
きたむら	としお	喜多村俊夫	神戸新田(尾張海西部)に於ける農家と耕地の変遷(II)	14	史学	XLI	217	1966
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	濃尾地震(1891年)にみられた濃尾平野の活断層	14	史学	XLI	231	1966
おうじ	としあき	応地利明	西パキスタンの農業に関する二、三の考察—とくに集約化実現と家畜の厩肥的機能との結合関係をめぐって—	14	史学	XLI	245	1966
たけうち	よしとも	竹内良知	「善の研究」が生まれるまで	14	哲学	XLII	1	1966
うちやま	みちあき	生田博之、内山道明、鈴木正弥	精神身体症患者の知覚に関する研究	14	哲学	XLII	31	1966
すずき	まさや	内山道明、鈴木正弥	精神身体症患者の知覚に関する研究	14	哲学	XLII	31	1966
いとう	みつよ	伊東三四	視覚場における明るさの要因について—輪廓線図形の場合(III)—	14	哲学	XLII	45	1966
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	バーミヤーン35メートル大佛の佛龕大構図の図像について	14	哲学	XLII	59	1966
たかむら	?	高村正一	ばしょ踊の歌	14	哲学	XLII	77	1966
あとじ	よしお	阿閉吉男	ジンメル社会学方法論の再検討(II)	14	哲学	XLII	105	1966
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	顔氏家訓帰心篇覚書き	15	史学	VLIV	27	1967
かざま	きよぞう	風間喜代三	Homer に於ける $K\alpha\kappa o s$ について	15	文学	XLIII	1	1967
けいや	としのぶ	慶谷壽信	音節構成と音韻変化—湖北方言における入声韻尾消失の過程—	15	文学	XLIII	17	1967
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	啓蒙の文学批評(その二)—John Dennis の文学論—(その一)	15	文学	XLIII	51	1967
まえじま	ぎいちろう	前島儀一郎	Layamon-Grammar in Outline Part(II)	15	文学	XLIII	63	1967
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	'Victorian Hopkins' 再考—一つの 'inscape' 論—	15	文学	XLIII	75	1967
そうわ	ほうせい	宗和宝正	OE 詩 Wanderer と Seafarer—主題と構成の関係—	15	文学	XLIII	89	1967
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァの「主人の忠実な下僕」研究—歴史劇との関連—	15	文学	XLIII	103	1967

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
たじま	のりお	田島範男	ローベルト・ムジール—その出発点をもとめて—	15	文学	XLIII	121	1967
やまかわ	あつし	山川篤	フローベール作品批評史(2)	15	文学	XLIII	129	1967
みながわ	おんじ	水川温二	略歴・主要論文	15	史学	XLIV	1	1967
ふじむら	みちお	藤村道生	明治初年におけるアジア政策の修正と中国—日清修好条規草案の検討—	15	史学	XLIV	3	1967
はたの	ぜんだい	波多野善大	中山艦事件おぼえがき	15	史学	XLIV	35	1967
たにがわ	みちお	谷川道雄	蘇綽の六条詔書について	15	史学	XLIV	53	1967
もり	まさお	森正夫	十四世紀後半浙西地方の地主制に関する覚書	15	史学	XLIV	67	1967
はっとり	はるひこ	服部春彦	アルザスにおける近代綿業の形成過程	15	史学	XLIV	89	1967
きしだ	ゆき	岸田紀	ジョン・ウェズリのアルミニウム系譜	15	史学	XLIV	111	1967
おおみ	ぎいち	澄田正一、大参義一	酒呑しやちのみジュリンナ遺跡—わが国土器文化発生期の様相—	15	史学	XLIV	129	1967
すみた	しょういち	澄田正一、大参義一	酒呑しやちのみジュリンナ遺跡—わが国土器文化発生期の様相—	15	史学	XLIV	129	1967
ならさき	しょういち	檜崎彰一	彩釉陶器製作技法の伝播	15	史学	XLIV	153	1967
きたむら	としお	喜多村俊夫	「地方書」に見る江戸期治水論・治水技術の段階	15	史学	XLIV	171	1967
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	木曾・長良・揖斐川の河床高変化	15	史学	XLIV	197	1967
こもり	いくこ	小守郁子	陶淵明と白楽天—その人間性と文学性について—	15	哲学	XLV	1	1967
うみの	たかのり	海野孝憲	弥勒の唯識思想について (1) —安慧造「経莊嚴釈疏」求法品第13偈～29偈の解説を通して—	15	哲学	XLV	19	1967
ごとう	たくお	横瀬善正、後藤倬男	円および円弧図形の場の力の大きさの測定	15	哲学	XLV	35	1967
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、後藤倬男	円および円弧図形の場の力の大きさの測定	15	哲学	XLV	35	1967
うちやま	みちあき	内山道明	視覚場の時間的変容過程に関する研究	15	哲学	XLV	45	1967
すずき	まさや	鈴木正弥	円心円錯視と注視点—短時間提示の場合—	15	哲学	XLV	87	1967
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	バーミヤーンN洞発見報告	15	哲学	XLV	93	1967
たかむら	?	高村正一	地方神社拝殿の機能について—とくに芸能空間として—岐阜県郡上郡北部の場合—	15	哲学	XLV	121	1967
かとう	りゅうたろう	加藤龍太郎	略歴・著作目録	16	文学	XLVI	1	1968
ごとう	しげお	後藤重郎	勅撰和歌集を中心とした和歌史研究をめぐり—考察	16	文学	XLVI	5	1968
ふかがや	かずお	深萱和男	明治の国文学雑誌—「皇典講研究講演」と「国学院雑誌」—	16	文学	XLVI	21	1968
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	「スプラング・リズム」について	16	文学	XLVI	35	1968
そうわ	ほうせい	宗和宝正	OE 詩 'Wife's Lament' の Gnomonic Conclusion をめぐって—君が命は長き夜の、月にはとても寝られぬに、いざ衣擣たうよ—『砧』	16	文学	XLVI	51	1968

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やまかわ	あつし	山川篤	フローベール作品批評史(3)	16	文学	XLVI	61	1968
たじま	のりお	田島範男	クラウディオとテルスームジール『生徒テルレスの惑乱』私考—	16	文学	XLVI	83	1968
ふじむら	みちお	藤村道生	明治初期における日清交渉の一断面—琉球分島条約をめぐる—(上)	16	史学	XLVII	1	1968
はたの	ぜんだい	波多野善大	国民革命期における馮玉祥とソ連の関係について	16	史学	XLVII	9	1968
きしだ	ゆき	岸田紀	ジョン・ウェズリの高教会主義の一背景	16	史学	XLVII	45	1968
おおみ	ぎいち	大参義一	弥生式土器から土師器へ—東海地方西部の場合—	16	史学	XLVII	65	1968
いしはら	ひろし	石原潤	世界各地における定期市の発生とその機能について	16	史学	XLVII	99	1968
おおはま	あきら	大濱皓	略歴・著作目録	16	哲学	XLVIII	1	1968
うえだ	よしふみ	上田義文	略歴・著作目録	16	哲学	XLVIII	3	1968
やました	りゅうじ	山下龍二	中国思想研究はどう進められてきたか	16	哲学	XLVIII	5	1968
こもり	いくこ	小守郁子	陶淵明の享年—五十二歳説の可能性—	16	哲学	XLVIII	27	1968
きたがわ	ひでのり	北川秀則	Arthasam.graha 和訳解説(I)	16	哲学	XLVIII	37	1968
まえだ	ひさし	前田恒	Effects of the Distribution of Extincting Trials on Extinction and Spontaneous Recovery of a Running Response (II)	16	哲学	XLVIII	63	1968
うちやま	みちあき	内山道明	視覚場の時間的変容過程に関する研究(その2)	16	哲学	XLVIII	81	1968
ごとう	たくお	後藤倬男	分割錯視に関する実験的研究—線分の明るさを変化させた場合—	16	哲学	XLVIII	93	1968
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	バーミヤーンにおける千体佛的世界の展開—第1部—	16	哲学	XLVIII	101	1968
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	略歴・著作目録		史学	20周年 記念論 集	1	1968
たけうち	よしとも	竹内良知	スピノザ哲学研究序説(その1)		哲学	20周年 記念論 集	1	1968
しんむら	たけし	新村猛	略歴・著作目録		文学	20周年 記念論 集	3	1968
あかまつ	つねひろ	赤松常弘	独断的理性への懐疑—先批判期カントの最初の転回について—		哲学	20周年 記念論 集	11	1968
かわむら	みつお	河邑光夫	ジョン・ロック「人間悟性論」について(その一)		哲学	20周年 記念論 集	29	1968

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やました	りゅうじ	山下龍二	論語における《鬼神》について—儒教の宗教的性格—		哲学	20周年 記念論 集	43	1968
きたがわ	ひでのり	北川秀則	Arthasam.graha 和訳解説(II)		哲学	20周年 記念論 集	69	1968
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正	心理的ポテンシャル場の理論による文字パターンの研究		哲学	20周年 記念論 集	89	1968
うちやま	みちあき	内山道明、鈴木 正弥	精神身体症患者の知覚に関する研究(2)		哲学	20周年 記念論 集	101	1968
すずき	まさや	内山道明、鈴木 正弥	精神身体症患者の知覚に関する研究(2)		哲学	20周年 記念論 集	101	1968
ごとう	たくお	後藤倬男	間隔距離の知覚に関する測定条件の実験的研究 (II)		哲学	20周年 記念論 集	121	1968
いとう	ほうずい	伊藤法瑞	時間錯誤についての一考察		哲学	20周年 記念論 集	135	1968
まえだ	ひさし	前田恒	Group Cohesiveness, Conflicting Induction, and Productivity		哲学	20周年 記念論 集	147	1968
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	バーミヤーンにおける千体佛的世界の展開—第2部—		哲学	20周年 記念論 集	173	1968
あとじ	よしお	阿閉吉男	マックス・ウェーバーにおける社会学の意味		哲学	20周年 記念論 集	199	1968
たなか	せいすけ	田中清助	Association の概念の系譜(1)		哲学	20周年 記念論 集	215	1968
さの	かつたか	佐野勝隆	「社会調査」研究に対する二つの立場 —ソヴェト社会学とアメリカ社会学—		哲学	20周年 記念論 集	231	1968

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
あみの	よしひこ	網野善彦	中世寺院における自治の発展—東寺学衆方の機構を中心に—		史学	20周年 記念論 集	245	1968
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	朝鮮役における水軍編成について		史学	20周年 記念論 集	267	1968
たまい	ちから	玉井力	天平期における女官の動向について		史学	20周年 記念論 集	287	1968
うつのみや	きよよし	宇都宮清吉	顔氏家訓解題		史学	20周年 記念論 集	305	1968
はたの	ぜんだい	波多野善大	袁世凱の帝制と段祺瑞・馮国璋		史学	20周年 記念論 集	321	1968
たにがわ	みちお	谷川道雄	五胡十六国史上における符堅の位置		史学	20周年 記念論 集	341	1968
にわ	たいこ	丹羽兌子	荀彧の生涯—清流士大夫の生き方をめぐって—		史学	20周年 記念論 集	355	1968
きしだ	ゆき	岸田紀	オックスフォード・メソジズムの起源		史学	20周年 記念論 集	373	1968
すみた	しょういち	澄田正一	濃・飛・越山地に出土する石皿の研究 —九頭竜川上流域と庄川上・中流域—		史学	20周年 記念論 集	395	1968
ならさき	しょういち	檜崎彰一	瓷器の道(1)—信濃における灰釉陶器の分布—		史学	20周年 記念論 集	415	1968
のむら	まさよし	野村正良	形態的過程に係る蓋然性のある原蒙古語に於ける長母音に就いて —原蒙古語の母音体系に就いての研究(III)—		文学	20周年 記念論 集	433	1968
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	濃尾平野南部の地盤沈下と地下水利用		史学	20周年 記念論 集	437	1968

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かとう	ひでお	加藤英生	都市の人口規模と Basic-Nonbasic Ratio		哲学	20周年 記念論 集	459	1968
かざま	きよぞう	風間喜代三	ホーマーにおける $\varepsilon \sigma \theta \lambda o s$ について		文学	20周年 記念論 集	491	1968
うちだ	さたろう	打田佐太郎	Logograms of Japanese Vowels—A Preliminary Study—		文学	20周年 記念論 集	505	1968
まつむら	ひろし	松村博司	安和の変に関する大鏡・栄花物語の記述について		文学	20周年 記念論 集	513	1968
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集板本考		文学	20周年 記念論 集	527	1968
ふかがや	かずお	深萱和男	戦後文学運動史素描		文学	20周年 記念論 集	549	1968
みずたに	しんじょう	水谷真成	梵語音を表わす漢字に於ける聲調の機能—聲調史研究 の一資料—		文学	20周年 記念論 集	561	1968
やまだ	ひでお	山田英雄	陶淵明の隠逸について		文学	20周年 記念論 集	585	1968
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	『一族再会』の弁護—T.S.—エリオットの詩劇観管見—		文学	20周年 記念論 集	611	1968
そうわ	ほうせい	宗和宝正	OE 詩 'Deor' について—その構造と Refrain—		文学	20周年 記念論 集	637	1968
しんむら	たけし	新村猛	例文《faire que sage (S)》における que について		文学	20周年 記念論 集	649	1968
やまかわ	あつし	山川篤	フローベール作品批評史(4)		文学	20周年 記念論 集	661	1968

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
はらだ	くにお	原田邦夫	ボードレールにおける「数」について		文学	20周年 記念論 集	679	1968
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァ「海の波、恋の波」研究—悲劇 性と詩人—		文学	20周年 記念論 集	693	1968
たじま	のりお	田島範男	ムジール『魅せられた家』について		文学	20周年 記念論 集	711	1968
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	プロペルティウスの詩と真実		文学	20周年 記念論 集	721	1968
HOLZEN	Edmund	HOLZEN, Edmund	Religion und Philosophie im Denken Max Schelers—Zu seinem virzigsten Todesjahr—		文学	20周年 記念論 集	747	1968
たまい	ちから	玉井力	光仁朝における女官の動向について	17	史学	L	1	1970
はたの	ぜんだい	波多野善大	民国軍閥の形成過程	17	史学	L	33	1970
にわ	たいこ	丹羽兌子	皇甫謐と高士伝—隱逸者の生涯—	17	史学	L	49	1970
きしだ	ゆき	岸田紀	高教会派の社会倫理とウヱズリ(1)	17	史学	L	67	1970
とくだ	なおひろ	徳田直宏	Gunthramuns の統一政策と聖俗両貴族権力	17	史学	L	93	1970
おおみ ました	ぎいち しんいち	大参義一 真下信一	酒呑しやちのみジュリンナ遺跡(2) 略歴	17	史学 哲学	L LI	117 1	1970 1970
うねべ	としひで	畝部俊英	竺仏念の研究—漢訳『増壹阿含經』の訳出をめぐって —	17	哲学	LI	3	1970
ごとう	たくお	後藤倬男	分割錯視に関する実験的研究(II)—図形の大きさ及び配 置を変化させた場合—	17	哲学	LI	39	1970
ごとう	しげお	後藤重郎	建礼門院右京大夫集に関する一考察—俊成九十賀の記 事をめぐって—	17	文学	XLIX	1	1970
やまだ	ひでお	山田英雄	阮籍の韜晦について	17	文学	XLIX	21	1970
そうわ	ほうせい	宗和宝正	The Battle of Maldon の主人公—潮と祈りの剣戟—	17	文学	XLIX	51	1970
あらき	かずお	荒木一雄	英語学の仕事と方法	17	文学	XLIX	65	1970
いとう	たけお	伊藤武雄	ケラー文献学の問題点	17	文学	XLIX	77	1970
のむら	まさよし	野村正良	原蒙古語の母音体系に就いての研究 IV	18	文学	LII	1	1971
ごとう	しげお	後藤重郎	建礼門院右京大夫集七夕歌に関する一考察	18	文学	LII	31	1971
やまだ	ひでお	山田英雄	呉均の文学について—森野繁夫氏の『梁の文学集団と 個人(二)—呉均について』を読み	18	文学	LII	53	1971
かわさき	としひこ	川崎寿彦	マーヴェルの庭(1)	18	文学	LII	75	1971

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Beowulf と Aeneid の文体—Pietas と Irony—	18	文学	LII	93	1971
やまかわ	あつし	山川篤	フローベールにおける官能描写・特に嗅覚について	18	文学	LII	109	1971
いとう	たけお	伊藤武雄	文献学の方法とケラーの様式意志	18	文学	LII	121	1971
いとう	ひろし	伊藤寛	ヘッセの「内面への道」—「クラインとヴァーグナー」—	18	文学	LII	161	1971
FAURE	Pierre	FAURE, Pierre	Etudes Sur Nagai Kafu (LA SUMIDA)	18	文学	LII	175	1971
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	田麦年貢三分一徴収と荒田対策—豊臣政権末期の動向をめぐって—	18	史学	LIII	1	1971
はたの	ぜんだい	波多野善大	孫文北上の背景—孫文の晩年における「和平会議」の構想—	18	史学	LIII	19	1971
きしだ	ゆき	岸田紀	高教会派の社会倫理とウヰズリ(2)	18	史学	LIII	35	1971
とくだ	なおひろ	徳田直宏	コルムバヌス修道院運動—メロヴィンガー・フランクの政治史的・教会史的転換期に関する—考察—	18	史学	LIII	65	1971
かじ	のぶゆき	加地伸行	名実論争における公孫竜(その二)—《公孫竜子》「白馬論」解釈—	18	哲学	LIV	1	1971
きたがわ	ひでのり	北川秀則	Arthasam.graha 和訳解説(III)	18	哲学	LIV	27	1971
ごとう	たくお	後藤倬男	等長平行線分図形の場の力についての実験的研究—図形の配置条件の影響について—	18	哲学	LIV	67	1971
つじ	けいいちろう	前田恒、辻敬一郎、前川純孝	シロネズミの遅延強化に関する実験的研究(1)—遅延時間の効果を中心として—	18	哲学	LIV	79	1971
まえかわ	すみたか	前田恒、辻敬一郎、前川純孝	シロネズミの遅延強化に関する実験的研究(1)—遅延時間の効果を中心として—	18	哲学	LIV	79	1971
まえだ	ひさし	前田恒、辻敬一郎、前川純孝	シロネズミの遅延強化に関する実験的研究(1)—遅延時間の効果を中心として—	18	哲学	LIV	79	1971
かしわせ	せいいちろう	柏瀬清一郎	ストゥーパの起源について—インド美術史論に関する覚え書より—	18	哲学	LIV	97	1971
いたくら	たつぶん	板倉達文	社会有機体論の今日的意義	18	哲学	LIV	107	1971
いとう	たけお	伊藤武雄	略歴・主要論文	19	文学	LV	1	1972
のむら	まさよし	野村正良	原蒙古語の母音体系に就いての研究 V	19	文学	LV	5	1972
ふくよし	えいこ	福吉瑛子	バラッドにおける `Popularity' の概念 (I)—「起源」「作者」をめぐる論争にふれて—	19	文学	LV	19	1972
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	エリオットとイエイツ—或る反省—	19	文学	LV	37	1972
かわさき	としひこ	川崎寿彦	マーヴェルの庭(2)	19	文学	LV	51	1972
あらか	かずお	荒木一雄	ME/i/, /u/の発達過程について	19	文学	LV	103	1972
よねくら	ひろし	米倉綽	Malory の関係詞構文—関係詞節における人称代名詞の冗語的使用—	19	文学	LV	125	1972
やまかわ	あつし	山川篤	フローベールにおける結婚式の描写について	19	文学	LV	137	1972

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	騎士道物語の世俗化—クレチアン・ド・トロワからジャンルナールへ—	19	文学	LV	149	1972
はらだ	くにお	原田邦夫	ボードレールと“死”	19	文学	LV	169	1972
いとう	たけお	伊藤武雄	ケラーの様式意志	19	文学	LV	187	1972
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァ「オットカル王の幸福と最後」研究	19	文学	LV	243	1972
いとう	ひろし	伊藤寛	ヘッセの「内面への道」—「シッダールタ」—	19	文学	LV	261	1972
FAURE	Pierre	FAURE, Pierre	Etudes Sur Nagai Kafu (LA SUMIDA)-II	19	文学	LV	281	1972
やまだ	ひでお	山田英雄	何遜の詩風	19	文学	LV	362	1972
ふかがや	かずお	深萱和男	明治の国文学雑誌—東洋学芸雑誌—(その一)	19	文学	LV	376	1972
ごとう	しげお	後藤重郎	建礼門院右京大夫集題詠歌群に関する一考察	19	文学	LV	396	1972
まつむら	ひろし	松村博司	栄花物語<たまのむらぎ>・大鏡<太政大臣道長(上)>の一節について	19	文学	LV	406	1972
はたの	ぜんだい	波多野善大	略歴・主要論文	19	史学	LVI	1	1972
はたの	ぜんだい	波多野善大	西安事変における張学良と中共の関係について	19	史学	LVI	5	1972
たにがわ	みちお	谷川道雄	北朝郷兵再論—波多野教授の軍閥研究に寄せて—	19	史学	LVI	51	1972
もり	まさお	森正夫	元代浙西地方の官田の貧難佃戸に関する一検討	19	史学	LVI	69	1972
にわ	たいこ	丹羽兌子	蔡邕伝おぼえがき	19	史学	LVI	95	1972
きしだ	ゆき	岸田紀	高教会派の社会倫理とウェズリ(3)	19	史学	LVI	111	1972
とくだ	なおひろ	徳田直宏	教皇グレゴリウス一世のゲルマン政策—とくにメロヴィンガー・フランクにおける教皇・Primatusに関する政治史的考察—(その1)—	19	史学	LVI	141	1972
おおみ	ぎいち	大参義一	縄文式土器から弥生式土器へ—東海地方西部の場合—(I)	19	史学	LVI	159	1972
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	北西ヨーロッパにおけるダンケルク海進	19	史学	LVI	193	1972
もりかわ	しげる	森川滋	大都市における工業立地の動向—名古屋市を事例として—	19	史学	LVI	207	1972
きたむら	としお	喜多村俊夫	治水と灌漑—開発—備中沢所組における用・悪水問題—	19	史学	LVI	264	1972
たまい	ちから	玉井力	女御・更衣制度の成立	19	史学	LVI	284	1972
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	豊臣政権の市場構造	19	史学	LVI	304	1972
あみの	よしひこ	網野善彦	真継文書にみえる平安末?南北朝期の文書について—解説と紹介—	19	史学	LVI	364	1972
よしかわ	いつじ	吉川逸治	略歴・主要論文	19	哲学	LVII	1	1972
こもり	いくこ	小守郁子	「風骨」論—文心雕龍における—	19	哲学	LVII	5	1972
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明、後藤倬男	視覚場に関する心理生理学的研究 I —鯉の遊離網膜における表面電位について—	19	哲学	LVII	25	1972

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ごとう	たくお	横瀬善正、内山道明、後藤倬男	視覚場に関する心理生理学的研究 I—鯉の遊離網膜における表面電位について—	19	哲学	LVII	25	1972
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、内山道明、後藤倬男	視覚場に関する心理生理学的研究 I—鯉の遊離網膜における表面電位について—	19	哲学	LVII	25	1972
つじ	けいいちろう	前田恒、辻敬一郎、前川純孝	シロネズミの遅延強化に関する実験的研究(2)—遅延箱の位置および先行訓練の効果—	19	哲学	LVII	39	1972
まえかわ	すみたか	前田恒、辻敬一郎、前川純孝	シロネズミの遅延強化に関する実験的研究(2)—遅延箱の位置および先行訓練の効果—	19	哲学	LVII	39	1972
まえだ	ひさし	前田恒、辻敬一郎、前川純孝	シロネズミの遅延強化に関する実験的研究(2)—遅延箱の位置および先行訓練の効果—	19	哲学	LVII	39	1972
いとう	もとお	伊藤元雄	図—地反転におよぼす連続加算作業の効果	19	哲学	LVII	53	1972
いたくら	たつぶん	板倉達文	社会有機体論の新しい展開(一) —エ・エス・マルカリヤンの所説によせて—	19	哲学	LVII	69	1972
もり	まさお	森正夫	十七世紀の福建寧化県における黄通の抗租反乱(一)	20	史学	LIX	1	1973
はっとり	はるひこ	服部春彦	フランス第二帝政下の貿易自由化と経済発展	20	史学	LIX	33	1973
きしだ	ゆき	岸田紀	高教会派の社会倫理とウェズリ(4)	20	史学	LIX	59	1973
きたむら	としお	喜多村俊夫	備中高梁川八ヶ郷における分水を中心とする井郷組織の特質	20	史学	LIX	106	1973
たまい	ちから	玉井力	成立期蔵人所の性格について—補任者の検討を中心として—	20	史学	LIX	132	1973
あみの	よしひこ	網野善彦	真継文書にみえる室町期の文書—解説と紹介—	20	史学	LIX	148	1973
まつむら	ひろし	松村博司	略歴・主要論文	20	文学	LVIII	1	1973
のむら	まさよし	野村正良	原蒙古語の母音体系に就いての研究 VI	20	文学	LVIII	5	1973
かざま	きよぞう	風間喜代三	古典語の頭韻について	20	文学	LVIII	35	1973
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	ホプキンスの沈黙「ホプキンス研究」第4章 補遺	20	文学	LVIII	49	1973
かわさき	としひこ	川崎寿彦	マーヴェルの庭(III) 第3章 庭を賛える	20	文学	LVIII	61	1973
やまかわ	あつし	山川篤	L'age des personnages dans les oeuvres de jeunesse de Flaubert	20	文学	LVIII	103	1973
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	Chretien de Troyes: Chevalier de la Charretteにおける二重のプロット	20	文学	LVIII	109	1973
たかはし	よしたか	高橋義孝	Über das Wesen des Noh-Spiels	20	文学	LVIII	123	1973
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	PROPERTIANA (1)	20	文学	LVIII	129	1973
SCHMIDT	Bertrand	SCHMIDT, Bertrand	Une Lecture de Jean Cocteau	20	文学	LVIII	171	1973
HOLZEN	Edmund	HOLZEN, Edmund	Marcuses Politische Eschatologie	20	文学	LVIII	185	1973
むらせ	のりお	村瀬憲夫	「日本挽歌」試考	20	文学	LVIII	216	1973

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集における萬葉時代歌人の歌に関する一考察—撰者名註記をめぐって—	20	文学	LVIII	232	1973
かみや	のぶあき	神谷信明	Vijnanaparinama について—『唯識三十頌釈論』を中心にして—	20	哲学	LX	1	1973
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 II —鯉の遊離網膜上の表面電位の変化について—	20	哲学	LX	15	1973
こうむら	かずみ	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 II —鯉の遊離網膜上の表面電位の変化について—	20	哲学	LX	15	1973
ごとう	たくお	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 II—鯉の遊離網膜上の表面電位の変化について—	20	哲学	LX	15	1973
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 II—鯉の遊離網膜上の表面電位の変化について—	20	哲学	LX	15	1973
いとう	もとお	伊藤元雄	図—地反転図形の長時間持続観察	20	哲学	LX	25	1973
こうむら	かずみ	甲村和三	時間評価に及ぼす先行作業の効果	20	哲学	LX	41	1973
みやじ	あきら	宮治昭	バーミヤンF洞の涅槃図	20	哲学	LX	51	1973
つじ	さほこ	辻佐保子	ラブラ福音書「聖母子」像の研究	20	哲学	LX	96	1973
のむら	まさよし	野村正良	モンゴル方言の長母音と原蒙古語に於ける長母音存在の可能性—「原蒙古語の母音体系に就いての研究」第1章—	21	文学	LXI	1	1974
そうわ	ほうせい	宗和宝正	OE 詩における格言詩の伝統	21	文学	LXI	17	1974
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァの「夢は人生」研究—その背景と構成—	21	文学	LXI	37	1974
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	PROPERTIANA (2)	21	文学	LXI	57	1974
SCHMIDT	Bertrand	SCHMIDT, Bertrand	Sur la recherche des sources dans la poesie francaise du debut du seizieme siecle	21	文学	LXI	107	1974
みずたに	しんじょう	水谷真成	大唐西域記敬播序訓注稿	21	文学	LXI	134	1974
むらせ	のりお	村瀬憲夫	万葉集巻七譬喩歌と巻十一・十二	21	文学	LXI	150	1974
ごとう	しげお	後藤重郎	建礼門院右京大夫集に関する一考察	21	文学	LXI	162	1974
まつい	たけとし	松井武敏	略歴・著作主要論文	21	史学	LXII	1	1974
きたむら	としお	喜多村俊夫	略歴・著作主要論文	21	史学	LXII	7	1974
もり	まさお	森正夫	十七世紀の福建寧化県における黄通の抗租反乱(二)	21	史学	LXII	13	1974
にわ	たいこ	丹羽兌子	漢代における豪傑について その1	21	史学	LXII	37	1974

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
はっとり	はるひこ	服部春彦	19世紀中葉におけるフランスの貿易構造	21	史学	LXII	51	1974
きしだ	ゆき	岸田紀	高教会派の社会倫理とウェズリ(5)	21	史学	LXII	77	1974
とくだ	なおひろ	徳田直宏	教皇グレゴリウス一世のゲルマン政策—とくにメロヴィンガー・フランクにおける教皇・Primatusに関する政治史的考察—(その2)—	21	史学	LXII	105	1974
おおみ	ぎいち	大参義一	カフアン文化研究—石器文化の始源をめぐって—	21	史学	LXII	125	1974
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	日本における2,000年B. P. ころの海水準	21	史学	LXII	155	1974
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	朝鮮役における国際条件について	21	史学	LXII	192	1974
あみの	よしひこ	網野善彦	真継文書にみえる戦国期の文書(一)—解説と紹介—	21	史学	LXII	218	1974
たちかわ	むさし	立川武蔵	A Study of Buddhapalita's Mulamadhyamakavrtti (1)	21	哲学	LXIII	1	1974
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 III —鯉の遊離網膜における網膜電図の変化について—	21	哲学	LXIII	21	1974
こうむら	かずみ	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 III—鯉の遊離網膜における網膜電図の変化について—	21	哲学	LXIII	21	1974
ごとう	たくお	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 III —鯉の遊離網膜における網膜電図の変化について—	21	哲学	LXIII	21	1974
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 III—鯉の遊離網膜における網膜電図の変化について—	21	哲学	LXIII	21	1974
まえかわ	すみたか	前川純孝	ゴキブリの行動研究—優劣順位の発見過程を中心に—	21	哲学	LXIII	31	1974
いたくら	たつぶん	板倉達文	システム概念と学働社会学	21	哲学	LXIII	41	1974
つじ	さほこ	辻佐保子	舗床モザイクをめぐる試論(第一部—上—)	21	哲学	LXIII	90	1974
こもり	いくこ	小守郁子	曹植詩所感	21	哲学	LXIII	114	1974
のむら	まさよし	野村正良	蒙古諸語に於ける一種の母音交替 /a/?/i/ に就いて —「原蒙古語の母音体系に就いての研究」第II章—	22	文学	LXIV	1	1975
ふくよし	えいこ	福吉瑛子	バラッドにおける `Popularity' の概念 (II)—'Edward' の Percy's version と Motherwell's version とをめぐって—	22	文学	LXIV	7	1975
あらき	かずお	荒木一雄	ME/ε/の発達過程について	22	文学	LXIV	35	1975
いいだ	ひでとし	飯田秀敏	MEaとMEe, の同音化に関する生成音韻論的考察	22	文学	LXIV	61	1975
やまかわ	あつし	山川篤	「ボヴァリ夫人」の章分けについて	22	文学	LXIV	79	1975
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	Chevalier au lion (Yvain) の《sen》について	22	文学	LXIV	85	1975
はらだ	くにお	原田邦夫	テクスト／トランス—ラングエイスティク	22	文学	LXIV	101	1975
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Shakespeare, Handel, and the Nature of the Artist	22	文学	LXIV	117	1975

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やました	ひろあき	山下宏明	「自由狼籍の世界」と徒然草—第一三七段をめぐる—	22	文学	LXIV	137	1975
むらせ	のりお	村瀬憲夫	国栄えむと月は照るらし—万葉集編纂の痕跡—	22	文学	LXIV	149	1975
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	カエサルの内乱誌1の34のコーラスについて—「ローマ共和政末期のスリエンテラ・前編・第四章・第四節」—	22	史学	LXV	1	1975
きしだ	ゆき	岸田紀	高教会派の社会倫理とウヰズリ(6)	22	史学	LXV	43	1975
もりかわ	しげる	森川滋	高度成長期における大都市の地価上昇と工業立地の変動—名古屋市を事例として—	22	史学	LXV	75	1975
あみの	よしひこ	網野善彦	中世中期における鋳物師の存在形態—鎌倉後期?室町期の燈炉供御人を中心に—	22	史学	LXV	97	1975
ふじの	わたり	藤野渉	カント『純粹理性批判』復習ノート(一)	22	哲学	LXVI	1	1975
やました	りゅうじ	山下龍二	NAKAE TO-JU'S OKINA MONDO AND JITSUGAKU	22	哲学	LXVI	21	1975
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 IV —鯉の遊離網膜への光刺激呈示に伴う表面電位の変化について—	22	哲学	LXVI	41	1975
こうむら	かずみ	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 IV—鯉の遊離網膜への光刺激呈示に伴う表面電位の変化について—	22	哲学	LXVI	41	1975
ごとう	たくお	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 IV—鯉の遊離網膜への光刺激呈示に伴う表面電位の変化について—	22	哲学	LXVI	41	1975
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 IV—鯉の遊離網膜への光刺激呈示に伴う表面電位の変化について—	22	哲学	LXVI	41	1975
いとう	もとお	伊藤元雄	図—地反転図形の長時間反復観察	22	哲学	LXVI	49	1975
まえかわ	すみたか	前川純孝	ゴキブリの行動研究(II)—長期明・暗飼育条件下の活動量の比較—	22	哲学	LXVI	61	1975
ふじの	わたり	藤野渉	学風あるいは学問研究のモラル	22	哲学	LXVI	67	1975
ふじの	わたり	藤野渉	学風あるいは学問研究のモラル(承前)	22	哲学	LXVI	111	1975
おおしか	かずまさ	大鹿一正	トマス・アクイナスの認識理論における「レフレクシオ」と「コンパラチオ」の意味	22	哲学	LXVI	147	1975
かじ	のぶゆき	加地伸行	明人朱鴻の『孝経輯録』について	22	哲学	LXVI	173	1975
つじ	さほこ	辻佐保子	舗床モザイクをめぐる試論(第一部—中—)	22	哲学	LXVI	183	1975
やました	りゅうじ	山下龍二	董(蘿石)『從吾道人語録』について	23	哲学	LXIX	229	1976
ふじの	わたり	藤野渉	略歴・著作主要論文	23	哲学	LXIX	1	1976
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正	略歴・著作主要論文	23	哲学	LXIX	5	1976
ふじの	わたり	藤野渉	学風あるいは学問研究のモラル(補遺)	23	哲学	LXIX	9	1976

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
たけうち	よしとも	竹内良知	欲求と意識—藤野教授にこたえる—	23	哲学	LXIX	21	1976
ありふく	こうがく	有福孝岳	方法論と思惟的自我の問題—デカルトとカント—	23	哲学	LXIX	67	1976
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正	文字パターン認識に関する発達的研究	23	哲学	LXIX	105	1976
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	ラットの Open-field behavior の観測に関する問題	23	哲学	LXIX	129	1976
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 V—順応光変化に伴なう鯉の遊離網膜諸単位の電氣的応答について—	23	哲学	LXIX	137	1976
こうむら	かずみ	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 V—順応光変化に伴なう鯉の遊離網膜諸単位の電氣的応答について—	23	哲学	LXIX	137	1976
ごとう	たくお	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 V—順応光変化に伴なう鯉の遊離網膜諸単位の電氣的応答について—	23	哲学	LXIX	137	1976
よこせ	ぜんしょう	横瀬善正、内山道明、後藤倬男、甲村和三	視覚場に関する心理生理学的研究 V—順応光変化に伴なう鯉の遊離網膜諸単位の電氣的応答について—	23	哲学	LXIX	137	1976
いとう	もとお	内山道明、鈴木正弥、伊藤元雄、中村和三	眠け事態における知覚傾向についての実験的研究	23	哲学	LXIX	147	1976
うちやま	みちあき	横瀬善正、内山道明、伊藤元雄、甲村和三	眠け事態における知覚傾向についての実験的研究	23	哲学	LXIX	147	1976
こうむら	かずみ	内山道明、鈴木正弥、伊藤元雄、甲村和三	眠け事態における知覚傾向についての実験的研究	23	哲学	LXIX	147	1976
すずき	まさや	内山道明、鈴木正弥、伊藤元雄、甲村和三	眠け事態における知覚傾向についての実験的研究	23	哲学	LXIX	147	1976
みやじ	あきら	宮治昭	バーミヤン研究史(上)—先学の諸研究の紹介とその問題点—	23	哲学	LXIX	161	1976
かわむら	みつお	河邑光夫	西周における哲学の問題	23	哲学	LXIX	195	1976
おおた	なおみち	太田直道	カントにおける個と普遍—叡知界概念を中心に—	23	哲学	LXIX	211	1976
こもり	いくこ	小守郁子	曹植論	23	哲学	LXIX	267	1976
つじ	さほこ	辻佐保子	舗床モザイクをめぐる試論(第一部—下の1—)	23	哲学	LXIX	303	1976
たかはし	よしたか	高橋義孝	略歴・著作主要論文	23	文学	LXVII	1	1976
のむら	まさよし	野村正良	種々な条件の推定されるモンゴル方言の長母音—「原蒙古語の母音体系に就いての研究」第IV章第4節—	23	文学	LXVII	5	1976

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	PROPERTIANA (3)	23	文学	LXVII	11	1976
やまかわ	ひでひこ	山川英彦	元朝秘史総訳語法礼記	23	文学	LXVII	63	1976
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	ディラン・トマス詩抄(一)「十八篇の詩」より—訳註の試み—	23	文学	LXVII	81	1976
やまかわ	あつし	山川篤	「ボヴァリ夫人」の語彙索引	23	文学	LXVII	95	1976
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァ「金羊皮」研究—愛について—	23	文学	LXVII	123	1976
しみず	すみお	清水純夫	『ローマの悲歌』への道—欲望と理性—	23	文学	LXVII	149	1976
HOLZEN	Edmund	HOLZEN, Edmund	Wissen und Glaube bei Kant	23	文学	LXVII	163	1976
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集撰者名註記をめぐって(一)	23	文学	LXVII	177	1976
やました	ひろあき	山下宏明	『増鏡』の世界	23	文学	LXVII	191	1976
あんど	しげかず	安藤重和	桐壺院の霊による源氏救出をめぐって	23	文学	LXVII	203	1976
かわさき	としひこ	川崎寿彦	雪の降りつむ森—文学作品の深層構造(その一)—	23	文学	LXVII	219	1976
しまの	としお	嶋野敏夫	『わたしはロカタンだった』	23	文学	LXVII	243	1976
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	Cicero の法延弁論にあらわれる colonus—「colonus と clientela」より—	23	史学	LXVIII	1	1976
いしぐろ	まさのり	石黒正紀	名古屋都市圏内市町村における財政状況の推移と人口増加—昭年39年度から48年度の場合—	23	史学	LXVIII	39	1976
さとう	しんいち	佐藤進一、三鬼清一郎	名古屋大学文学部所蔵瀧川文書…<史料紹介>	23	史学	LXVIII	57	1976
みき	せいいちろう	佐藤進一、三鬼清一郎	名古屋大学文学部所蔵龍川文書…<史料紹介>	23	史学	LXVIII	57	1976
あみの	よしひこ	網野善彦	真継文書にみえる戦国期の文書(二)—解説と紹介	23	史学	LXVIII	79	1976
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	略歴・著作主要論文	24	文学	LXX	1	1977
のむら	まさよし	野村正良	岐阜県揖斐郡徳山村戸入方言の記述的報告及び成立過程に就いての二三の考察—付アクセントの分布と変遷—	24	文学	LXX	3	1977
やの	みちお	矢野通生	スラヴ語名詞アクセント論序説	24	文学	LXX	19	1977
のだ	けいごう	野田恵剛	古代ペルシア語 mana krtam とその展開	24	文学	LXX	51	1977
やまかわ	ひでひこ	山川英彦	<老朴集覧>覚え書	24	文学	LXX	61	1977
やすだ	しょういちろう	安田章一郎	ディラン・トマスの詩—訳註の試み(その二)—	24	文学	LXX	73	1977
あらき	かずお	荒木一雄	近代標準英語母音組織の発達(1)	24	文学	LXX	93	1977
たかやす	かずこ	高安和子	It- 分裂文と左方並べ換え変形	24	文学	LXX	125	1977
やまかわ	あつし	山川篤	「ボヴァリ夫人」の語彙索引(二)	24	文学	LXX	145	1977
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	《couple courtois et royal》の探索—Erec et Enide の世界—	24	文学	LXX	153	1977

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しみず	すみお	清水純夫	『親和力』の世界	24	文学	LXX	177	1977
ごと	しげお	後藤重郎	新古今和歌集撰者名註記をめぐって(二)	24	文学	LXX	193	1977
やました	ひろあき	山下宏明	『平家物語』構想論のために—「得長寿院供養事」をめぐって—	24	文学	LXX	207	1977
すぎと	きよあき	杉戸清彬	『源氏物語』もののはれ論の再検討	24	文学	LXX	219	1977
かわさき	としひこ	川崎寿彦	遠い島、はるかな想い—イメージでたどる想像力の軌跡—	24	文学	LXX	231	1977
しみず	みのる	清水稔	捻軍の叛乱について	24	史学	LXXI	1	1977
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	ローマ共和政期の養子縁組と奴隷制	24	史学	LXXI	21	1977
いしぐろ	まさのり	石黒正紀	名古屋都市地域における人口の動向分析, 1950-1975	24	史学	LXXI	71	1977
あみの	よしひこ	網野善彦	真継文書にみえる戦国期?江戸初期の文書—解説と紹介	24	史学	LXXI	91	1977
きんりゅう	しずか	金龍静	戦国時代の本願寺内衆下間氏	24	史学	LXXI	135	1977
あとじ	よしお	阿閉吉男	略歴・著作主要論文	24	哲学	LXXII	1	1977
きたがわ	ひでのり	北川秀則	故北川秀則教授略歴・著作主要論文	24	哲学	LXXII	7	1977
いしぐろ	あつし	石黒淳	Wall Paintings of Alch Monastery in Ladakh	24	哲学	LXXII	9	1977
うちやま	みちあき	内山道明、鈴木正弥、甲村和三	抗不安薬が反応時間に及ぼす効果についての実験的研究	24	哲学	LXXII	15	1977
こうむら	かずみ	内村道明、鈴木正弥、甲村和三	抗不安薬が反応時間に及ぼす効果についての実験的研究	24	哲学	LXXII	15	1977
すずき	まさや	内山道明、鈴木正弥、甲村和三	抗不安薬が反応時間に及ぼす効果についての実験的研究	24	哲学	LXXII	15	1977
いしい	きよし	石井澄	動物の形態弁別に関する研究の概観と問題	24	哲学	LXXII	25	1977
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	動物心理学における実験動物の問題	24	哲学	LXXII	37	1977
おおしか	かずまさ	大鹿一正	普遍の問題 (一)	24	哲学	LXXII	45	1977
やました	りゅうじ	山下龍二	徂徠「論語微」について(一)	24	哲学	LXXII	57	1977
つじ	さほこ	辻佐保子	舗床モザイクをめぐる試論(第一部—下の2—)	24	哲学	LXXII	67	1977
いたくら	たつぶん	板倉達文	ダーヴィンとマルクスにおける方法的類似について	24	哲学	LXXII	95	1977
のむら	まさよし	野村正良	略歴・著作主要論文	25	文学	LXXIII	1	1978
やまかわ	あつし	山川篤	略歴・主要業績目録	25	文学	LXXIII	5	1978
のむら	まさよし	野村正良	北方ユーラシア諸言語と日本語、その二三の語彙の比較に就いて—久良多尔、久治良(鯨)考覚書—	25	文学	LXXIII	9	1978
やの	みちお	矢野通生	ロシア語の派生動詞のアクセント	25	文学	LXXIII	13	1978
のだ	けいごう	野田恵剛	ペルシア語の不定詞の歴史によせて	25	文学	LXXIII	87	1978
やまかわ	ひでひこ	山川英彦	「華夷譯語」の総訳—元明期白話研究の資料として—	25	文学	LXXIII	103	1978
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Sir Gawain and the Green Knight 批評の方法	25	文学	LXXIII	113	1978

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
あらか	かずお	荒木一雄	近代標準英語母音組織の発達(2)	25	文学	LXXIII	123	1978
やまかわ	あつし	山川篤	「ボヴァリ夫人」の語彙索引(了)	25	文学	LXXIII	155	1978
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	Chretien de Troyes におけるトリスタン神話—Cligesについて—	25	文学	LXXIII	163	1978
たじま	のりお	田島範男	ムジールのブリュン時代	25	文学	LXXIII	187	1978
かぶたん	よういち	株丹洋一	『ツアラトウストラ』研究—『夜の歌』を手がかりにして—	25	文学	LXXIII	197	1978
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Image Patterns in Samuel Richardson's Clarissa	25	文学	LXXIII	209	1978
ごとう	しげお	後藤重郎	新勅撰和歌集賀部に関する一考察	25	文学	LXXIII	233	1978
やました	ひろあき	山下宏明	平家物語の流伝—諸本と説話—	25	文学	LXXIII	243	1978
かわさき	としひこ	川崎寿彦	バラをして語らしめよ	25	文学	LXXIII	257	1978
しまの	としお	嶋野敏夫	「わたしには現実感覚が欠けていた」	25	文学	LXXIII	287	1978
すみた	しょういち	澄田正一	略歴・著作目録	25	史学	LXXIV	1	1978
たにがわ	みちお	谷川道雄	河朔三鎮における節度使権力の性格	25	史学	LXXIV	5	1978
もり	まさお	森正夫	十七世紀の福建寧化県における黄通の抗租反乱(三)	25	史学	LXXIV	25	1978
さきま	のぞみ	佐喜真望	第二次選挙法改革運動とグラッドストーン	25	史学	LXXIV	67	1978
ならさき	しょういち	檜崎彰一	初期中世陶における三筋文の系譜—第1部 三筋文系陶器とその編年—	25	史学	LXXIV	99	1978
おおみ	ぎいち	大参義一	東海地方西部における縄文時代後期前半期の土器について—法仙寺遺跡・西北出遺跡の土器を中心として—	25	史学	LXXIV	147	1978
いしはら	ひろし	石原潤	定期市の時間的・空間的配置に関する若干の検討—インド、マハラシュトラ州のデータをもとに—	25	史学	LXXIV	169	1978
あみの	よしひこ	網野善彦	中世の桑名について	25	史学	LXXIV	187	1978
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	水戸藩家臣団の形成過程	25	史学	LXXIV	207	1978
きよた	よしき	清田善樹	平安後期における没収と追放刑	25	史学	LXXIV	227	1978
しげまつ	しんじ	重松伸司	前近代インドの共同体秩序(一)—インド共同体の思想構造—	25	史学	LXXIV	237	1978
いしい	きよし	辻敬一郎、石井澄	近交系マウス(C57BL/6J)における造巣行動の分析(1)	25	哲学	LXXV	1	1978
つじ	けいいちろう	辻敬一郎、石井澄	近交系マウス(C57BL/6J)における造巣行動の分析(1)	25	哲学	LXXV	1	1978
おおしか	かずまさ	大鹿一正	普遍の問題(二)	25	哲学	LXXV	17	1978
やました	りゅうじ	山下龍二	徂徠「論語徴」について(二)	25	哲学	LXXV	35	1978
こもり	いくこ	小守郁子	曹植論(承前)	25	哲学	LXXV	45	1978
つじ	さほこ	辻佐保子	舗床モザイクをめぐる試論(第一部—下の3—)	25	哲学	LXXV	73	1978

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かわむら	えいすけ	川村栄助	故 川村栄助助教授略歴・主要業績		哲学	30周年 記念論 集	1	1978
かわむら	えいすけ	川村栄助	Hegels Kritik an der Spinozistischen Substanzlehre		哲学	30周年 記念論 集	3	1978
やまだ	ひろあき	山田弘明	Descartes, Studium bonae mentis 論考 —テキスト・クリ ティイクの試み—		哲学	30周年 記念論 集	15	1978
みやさか	ゆうしょう	宮坂宥勝	Urubilva-pratiharga の偈頌の伝承形態		哲学	30周年 記念論 集	33	1978
すずき	まさや	内山道明、鈴木 正弥	知覚における主体的要因の研究についての覚え書き		哲学	30周年 記念論 集	57	1978
いしい	きよし	石井澄	ネコの形態弁別における刺激要因の効果—四角形の内 角比弁別能力におよぼす図形オリエンテーションの影響 —		哲学	30周年 記念論 集	67	1978
おおや	かずお	大屋和夫	加算的尺度を構成する方法について(その1)		哲学	30周年 記念論 集	73	1978
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	『平面図形の奥行視における, みえの大きさ, みえの距 離, 図形の場合強の関係の実験的検討』		哲学	30周年 記念論 集	83	1978
うちやま	みちあき	内山道明、原政 敏	小光点点減法による形の場の力の測定		哲学	30周年 記念論 集	109	1978
はら	まさとし	内山道明、原政 敏	小光点点減法による形の場の力の測定		哲学	30周年 記念論 集	109	1978
いしぐろ	あつし	石黒淳	水牛の魔神を殺す女神 (Mahisasuramardini) —神話と 図像の形成をめぐる—		哲学	30周年 記念論 集	117	1978
もり	まさお	森正夫	明末の社会関係における秩序の変動について		史学	30周年 記念論 集	135	1978

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しげまつ	しんじ	重松伸司	16-18世紀の南インドに関するイエズス会史料—フランス版イエズス会文書を中心に—		史学	30周年記念論集	161	1978
つづき	あきこ	都築晶子	「逸民的人士」小論		史学	30周年記念論集	171	1978
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	Politor 考—ローマ農業と自由労働者・各論I—		史学	30周年記念論集	183	1978
いしみず	てるお	石水照雄	地理的場の理論		史学	30周年記念論集	205	1978
いしはら	ひろし	石原潤	西ベンガル州フーグリー地区の市 (Markets)		史学	30周年記念論集	225	1978
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	自然堤防の形成について		史学	30周年記念論集	245	1978
よしづ	なおき	吉津直樹	明治期～第二次大戦前における銀行の立地と金融網の空間的展開過程 —岐阜県の事例—		史学	30周年記念論集	261	1978
やの	みちお	矢野通生	ロシア語の派生動詞のアクセント(2)		文学	30周年記念論集	297	1978
のだ	けいごう	野田恵剛	Midle Persian Transitive Preterite		文学	30周年記念論集	327	1978
あらき	かずお	荒木一雄	母音の分析について		文学	30周年記念論集	335	1978
かわさき	としひこ	川崎寿彦	17世紀の<田舎屋敷文学>—ジョンソンからマーヴェルまで—		文学	30周年記念論集	335	1978
はっとり	よしひろ	服部義弘	新しい音変化理論を求めて		文学	30周年記念論集	369	1978

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	中世文学における文学的肖像—個性描写の変遷—		文学	30周年 記念論 集	385	1978
たじま	のりお	田島範男	ウルリヒ考(I)		文学	30周年 記念論 集	399	1978
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	Vergilius: Georgica 序論		文学	30周年 記念論 集	411	1978
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Shakespeare and "Sense of an Opening"		文学	30周年 記念論 集	429	1978
おおた	なおみち	太田直道	カントとヘーゲルにおける学の問題 —ヘーゲルのカント 批判(一)—		哲学	30周年 記念論 集	462	1978
くろずみ	としお	黒積俊夫	先験的対象の意味		哲学	30周年 記念論 集	478	1978
やました	りゅうじ	山下龍二	徂徠「論語徴」について(三)		哲学	30周年 記念論 集	502	1978
かじ	のぶゆき	加地伸行	家蔵本『孝経啓蒙』について		哲学	30周年 記念論 集	522	1978
こもり	いくこ	小守郁子	曹植と屈原賦		哲学	30周年 記念論 集	534	1978
たちかわ	むさし	立川武蔵	『中論』における縁起		哲学	30周年 記念論 集	550	1978
つじ	さほこ	辻佐保子	舗床モザイクをめぐる試論(第一部—最終編—)		哲学	30周年 記念論 集	572	1978
こばやし	ただし	小林忠	池大雅研究ノート・寛延元年の東遊について		哲学	30周年 記念論 集	586	1978

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
あみの	よしひこ	網野善彦	日本中世における「平民」について		史学	30周年 記念論 集	600	1978
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	朝鮮役における兵糧米調達について		史学	30周年 記念論 集	614	1978
ごとう	しげお	後藤重郎	新古今和歌集擣衣歌群に関する一考察		文学	30周年 記念論 集	628	1978
やました	ひろあき	山下宏明	世阿弥と『平家物語』—「忠度」をめぐる—		文学	30周年 記念論 集	640	1978
たじま	いくどう	田島毓堂	法華経為字訓序説—付, 為字索引—		文学	30周年 記念論 集	668	1978
いまたか	まこと	今鷹眞	後漢における七言の人物評語について		文学	30周年 記念論 集	676	1978
やの	みちお	矢野通生	リトアニア語アクセントの基礎的研究—指小名詞および 指小形容詞—	26	文学	LXXVI	1	1980
つのだ	たさく	角田太作	Djaru Syntax and Relational Grammar	26	文学	LXXVI	77	1980
のだ	けいごう	野田恵剛	Sogdian Grammatical Note	26	文学	LXXVI	87	1980
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	「ケムブリジ歌謡」考	26	文学	LXXVI	95	1980
かわさき	としひこ	川崎寿彦	ポウプの庭	26	文学	LXXVI	113	1980
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Sir Gawain and the Green Knight における Courtesy — あるいは女性憎悪のこと—	26	文学	LXXVI	143	1980
かとう	まさはる	加藤正治	左方転位と話題化の派生に関する一試案	26	文学	LXXVI	157	1980
たじま	のりお	田島範男	ウルリヒ考(II)その現実観及びノヴェレ『黒つぐみ』につ いて	26	文学	LXXVI	175	1980
HOLZEN	Edmund	HOLZEN, Edmund	Ilomo Natura. Fragwürdigkeiten von Nietzsches Naturalismus	26	文学	LXXVI	191	1980
やました	ひろあき	山下宏明	平家物語諸本の諸相—巻一巻末から巻二への構造を探 るために—	26	文学	LXXVI	222	1980
たじま	いくどう	田島毓堂	法華経為字和訓考(一)—由・求・当—	26	文学	LXXVI	256	1980
おかだ	みつひろ	岡田充博	中晩唐期に見られる詩文学への没頭的風潮について— 詩人たちの文学的自覚の問題を中心として—	26	文学	LXXVI	284	1980
さとう	まこと	佐藤誠	パスカルにおける「習慣」の問題	26	文学	LXXVI	296	1980

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
さきま	のぞみ	佐喜真望	第二次選挙法改革と議席再分配問題	26	史学	LXXVII	1	1980
いしみず	てるお	石水照雄	都市の居住環境認知と居住地移動志向:静岡市の事例	26	史学	LXXVII	27	1980
あみの	よしひこ	網野善彦	「外財」について	26	史学	LXXVII	76	1980
にしだ	まさき	西田真樹	明和期農民闘争と幕藩権力	26	史学	LXXVII	98	1980
もり	まさお	森正夫	明代の郷紳—士大夫と地域社会との関連についての覚書—	26	史学	LXXVII	116	1980
かじ	のぶゆき	加地伸行	名実論争における公孫竜(その三)—『公孫竜子』堅白論解釈—	26	哲学	LXXVIII	1	1980
きたがわ	たかよし	北川隆吉	「栄光」と「忘却」のはざま. H. スペンサー社会学考—イギリス社会学史研究(一)—	26	哲学	LXXVIII	25	1980
いしい	きよし	石井澄	C57BL/6J系マウスの弁別逆転学習における過剰訓練の効果—位置課題の場合—	26	哲学	LXXVIII	33	1980
おおや	かずお	大屋和夫	加算的尺度を構成する方法について(その2)	26	哲学	LXXVIII	41	1980
いしぐろ	あつし	石黒淳	エローラ, ヒンドゥー教石窟寺院の考察—第21窟をめぐって—	26	哲学	LXXVIII	51	1980
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルトにおける「魂の不死」(承前)	26	哲学	LXXVIII	84	1980
おおた	なおみち	太田直道	認識論と意識論—ヘーゲルのカント批判(二)—	26	哲学	LXXVIII	112	1980
くろずみ	としお	黒積俊夫	経験の成立—ロックからカントへ—	26	哲学	LXXVIII	136	1980
かわむら	みつお	河邑光夫	和辻倫理学の原理についての覚え書(その1)	26	哲学	LXXVIII	152	1980
やました	りゅうじ	山下龍二	中江藤樹の思想形成と漢詩	26	哲学	LXXVIII	168	1980
つじ	さほこ	辻佐保子	中世美術における「光と闇」あるいは「晝と夜」に関する二, 三の考察	26	哲学	LXXVIII	200	1980
きたがわ	たかよし	北川隆吉	スペンサーとポッター家. H. スペンサー社会学考—イギリス社会学史研究(二)—	26	哲学	LXXXI	5	1980
あらき	かずお	荒木一雄	近代標準英語母音組織の発達(3)	27	文学	LXXIV	69	1981
しのだ	ちわき	篠田知和基	アルトーの反キリスト幻想	27	文学	LXXIV	111	1981
のだ	けいごう	野田恵剛	中世ペルシア語の付属代名詞	27	文学	LXXIX	1	1981
やました	ひろあき	山下宏明	軍記物語の“語り”覚書—『ローランの歌』と比較して—	27	文学	LXXIX	11	1981
かわさき	としひこ	川崎寿彦	庭をにくんだ人びと—スペンサー, マーヴェル, ミルトン—	27	文学	LXXIX	19	1981
やまだ	こうし(みきお)	山田耕士(幹郎)	ディアナの薔薇とロバート・グリーン(グリーンの)亡霊	27	文学	LXXIX	41	1981
HORNE	Michael	HORNE, Michael	“The Merry Wives of Windsor” and the Drama of the 1590's.	27	文学	LXXIX	55	1981
かとう	まさはる	加藤正治	付帯状況を表わす句についての一考察	27	文学	LXXIX	97	1981
ごとう	しげお	後藤重郎	懸詞に関する一考察	27	文学	LXXIX	131	1981
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考(二)—得・被—	27	文学	LXXIX	145	1981

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やすだ	のりこ	安田徳子	勅撰集と「万代集」—『続後撰集』以後の勅撰集との共通歌をめぐって—	27	文学	LXXIX	175	1981
おかだ	みつひろ	岡田充博	王昌齡「箜篌引」考(上)	27	文学	LXXIX	195	1981
わたなべ	まこと	渡辺誠	編み物用錘具としての自然石の研究	27	史学	LXXX	1	1981
いしはら	ひろし	石原潤	西ベンガル州の市(markets)に関する若干の検討—1961年 District Census Handbook をもとに—	27	史学	LXXX	47	1981
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉期の興福寺寺院組織について—政所系殊を中心に—	27	史学	LXXX	85	1981
もり	まさお	森正夫	十七世紀初頭の「織傭の変」をめぐる二、三の資料について	27	史学	LXXX	107	1981
いとう	ひろあき	伊藤宏明	五代楚政権の性格	27	史学	LXXX	129	1981
まえだ	ひさし	前田恒	略歴・著作主要論文	27	哲学	LXXXI	1	1981
たぐち	すみかず	田口純一	在日コリアン研究の成果と問題点	27	哲学	LXXXI	15	1981
うちやま	みちあき	原政敏、内山道明	小光点点滅法による形の場の力の測定(2)—測定装置ならびに技法についての検討—	27	哲学	LXXXI	31	1981
はら	まさとし	原政敏、内山道明	小光点点滅法による形の場の力の測定(2)—測定装置ならびに技法についての検討—	27	哲学	LXXXI	31	1981
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	実験室における動物行動研究の若干の問題—スンクス(Suncus murinus)の場合を例として—	27	哲学	LXXXI	37	1981
いしい	きよし	石井澄	C57BL/6J系マウスの弁別逆転学習における過剰訓練の効果—明暗弁別における課題の難易度の影響—	27	哲学	LXXXI	53	1981
おおや	かずお	大屋和夫	加算的尺度を構成する方法について(その3)	27	哲学	LXXXI	61	1981
くろずみ	としお	黒積俊夫	先験的観念論の構造	27	哲学	LXXXI	71	1981
やました	りゅうじ	山下龍二	李氏蔵書について(二)	27	哲学	LXXXI	97	1981
かじ	のぶゆき	加地伸行	道蔵本『公孫竜子』について	27	哲学	LXXXI	127	1981
こうべ	ひろかず	神戸博一	ウェーバー・ラッハネール論争について	27	哲学	LXXXI	137	1981
つじ	さほこ	辻佐保子	光背の形成に関する覚書	27	哲学	LXXXI	151	1981
やの	みちお	矢野通生	リトアニア語の動詞のアクセント記述	28	文学	LXXXII	1	1982
かわさき	としひこ	川崎寿彦	形而上詩人とミルトン	28	文学	LXXXII	125	1982
やまだ	こうし(みきお)	山田耕士(幹郎)	ロバート・グリーンと庇護者たち	28	文学	LXXXII	147	1982
あらか	かずお	荒木一雄	初期近代英語の強勢	28	文学	LXXXII	167	1982
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	《口誦詩オーラル・ポエトリー》理論と武勲詩研究(一)	28	文学	LXXXII	193	1982
しのだ	ちわき	篠田知和基	象徴の幻想—フランス世紀末文学の象徴主義的幻想小説, ゲールモン, レニエ, シュオップ—	28	文学	LXXXII	221	1982
たじま	のりお	田島範男	ウルリヒと『別の状態』	28	文学	LXXXII	253	1982
やました	ひろあき	山下宏明	『平家物語』の生成—「抜書」ということ—	28	文学	LXXXII	263	1982
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考(三)—定—	28	文学	LXXXII	279	1982

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やすだ	のりこ	安田徳子	「弘長百首」について	28	文学	LXXXII	309	1982
すぎやま	ひろゆき	杉山寛行	洪亮吉「意言」について(上)	28	文学	LXXXII	323	1982
おかだ	みつひろ	岡田充博	王昌齡「箜篌引」考(下)	28	文学	LXXXII	335	1982
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	カルタゴの国制とハンニバル—前196年の国制改革への道—	28	史学	LXXXIII	1	1982
さきま	のぞみ	佐喜真望	保守党の労働者向け宣伝活動1867—1874	28	史学	LXXXIII	43	1982
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	甲州における近世焼畑村落の研究	28	史学	LXXXIII	75	1982
やまぐち	けいじ	山口啓二	武蔵—農村の京銭高について	28	史学	LXXXIII	109	1982
いなば	のぶみち	稲葉伸道	東大寺領伊賀国名張郡築瀬庄・黒田新庄について	28	史学	LXXXIII	121	1982
さかもと	しょうじ	笹本正治	近世真継家配下鑄物師人名録(1)	28	史学	LXXXIII	139	1982
もり	まさお	森正夫	中国前近代史研究における地域社会の視点—中国史シンポジウム「地域社会の視点—地域社会とリーダー」基調報告—	28	史学	LXXXIII	201	1982
たちかわ	むさし	立川武蔵	清弁著『智恵のともしび』第Ⅱ章和訳・解説(I)	28	哲学	LXXXIV	1	1982
きたがわ	たかよし	北川隆吉	「産業型社会」の意味。H・スペンサー社会学考—イギリス社会学史研究(三)—	28	哲学	LXXXIV	27	1982
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	鏡像描写における両側性転移の発達曲線	28	哲学	LXXXIV	35	1982
いしい	きよし	石井澄	C57BL/6J系マウスの弁別逆転学習における過剰訓練の効果(3)—原学習時の課題を逆転時に比べて困難にした場合の影響—	28	哲学	LXXXIV	45	1982
おおや	かずお	大屋和夫	微小仮現運動について	28	哲学	LXXXIV	53	1982
つじ	さほこ	辻佐保子	《ベアトウス》黙示録註解書の挿絵に関する試論—吉川逸治先生に—	28	哲学	LXXXIV	65	1982
おおしか	かずまさ	大鹿一正	普遍の問題(三)	28	哲学	LXXXIV	91	1982
つだ	まさお	津田雅夫	マルクスの宗教理解について(一)	28	哲学	LXXXIV	109	1982
やました	りゅうじ	山下龍二	李氏蔵書について(三)	28	哲学	LXXXIV	125	1982
ごとう	しげお	後藤重郎	建礼門院右京大夫集に関する一考察—俊成九十賀記再考—	29	文学	LXXXV	1	1983
やました	ひろあき	山下宏明	読みの文体—延慶本平家物語論のために—	29	文学	LXXXV	15	1983
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考(四)—作・成—(承前)	29	文学	LXXXV	25	1983
やすだ	のりこ	安田徳子	資子内親王の生涯—円融朝歌稿の一側面—	29	文学	LXXXV	55	1983
おかだ	みつひろ	岡田充博	李賀の「箜篌引」について	29	文学	LXXXV	69	1983
かわさき	としひこ	川崎寿彦	テキストの〈読み〉について—『草枕』と『雪国』を中心に—	29	文学	LXXXV	85	1983
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Layamon における騎士と運命—もう一つのアーサー王宮廷—	29	文学	LXXXV	101	1983
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(1)	29	文学	LXXXV	115	1983

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しのだ	ちわき	篠田知和基	鏡花の作品における自己像幻視と分身像—比較文学的アプローチ—	29	文学	LXXXV	141	1983
さとう	じろう	佐藤自郎	フランツ・グリルパルツァと民衆劇—『祖先の女』, 『夢は人生』を中心に—	29	文学	LXXXV	183	1983
つちや	まさひこ	土屋勝彦	R.M.リルケの『ドゥイノの悲歌』ノート—第一悲歌—	29	文学	LXXXV	195	1983
ささもと	しょうじ	笹本正治	近世真継家配下鑄物師人名録(2)	29	史学	LXXXVI	1	1983
しげまつ	しんじ	重松伸司	マレーシアにおける南インド系タミル移民集団とその特質—Pahang 州・Boh Tea Plantation の事例研究—	29	史学	LXXXVI	65	1983
いとう	ひろあき	伊藤宏明	唐末五代政治史に関する諸問題—とくに藩鎮研究をめぐって—	29	史学	LXXXVI	121	1983
さきま	のぞみ	佐喜真望	労働貴族とサミュエル・スマイルズ	29	史学	LXXXVI	141	1983
さいとう	たかまさ	斎藤孝正	猿投窯成立期様相	29	史学	LXXXVI	169	1983
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	更新世・完新世の境界について	29	史学	LXXXVI	205	1983
いしはら	ひろし	石原潤	インドおよびバングラディッシュにおける市 (markets) の分布について	29	史学	LXXXVI	221	1983
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	甲州における近世焼畑村落の生業	29	史学	LXXXVI	273	1983
やまだ	ひろあき	山田弘明	Ambivalence of Sense in Descartes.	29	哲学	LXXXVII	1	1983
つだ	まさお	津田雅夫	マルクスの宗教理解について(二)	29	哲学	LXXXVII	11	1983
たちかわ	むさし	立川武蔵	清弁著『智恵のともしび』第II章和訳・解説(II)	29	哲学	LXXXVII	31	1983
しま	いわお	島 岩	『バーマティー』I, 1, 1—4和訳 (I)	29	哲学	LXXXVII	59	1983
ひろせ	ゆきお	広瀬幸雄	共有地の悲劇状況としての環境問題についてのゲーム論的分析	29	哲学	LXXXVII	79	1983
つじ	さほこ	辻佐保子	Vergilius Vaticanus (vat. lat. 3225) の諸挿絵における大気現象と幻影の表現—「部分的モノクロミー」と「技法としてのモノクロミー」—	29	哲学	LXXXVII	89	1983
よねだ	よりつぐ	米田頼司	科学社会学研究 (1)—R. マートンの科学の構造分析の視点の検討—	29	哲学	LXXXVII	129	1983
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	Calles 考—移牧と国家ローマ—	30	史学	LXXXIX	1	1984
いしみず	てるお	石水照雄、R. S. Mydel	本邦大都市圏の空間構造と空間的過程	30	史学	LXXXIX	37	1984
Mydel	R. S.	石水照雄、R. S. Mydel	本邦大都市圏の空間構造と空間的過程	30	史学	LXXXIX	37	1984
いしはら	ひろし	石原潤	インドにおける市 (market) とその若干の特性の分布を規定する要因について—試論—	30	史学	LXXXIX	107	1984
きたむら	しゅうじ	北村修二	愛知県における酪農業の展開—大府市を事例として—	30	史学	LXXXIX	119	1984
はやかわ	しょうはち	早川庄八	任僧綱儀と任僧綱告牒	30	史学	LXXXIX	153	1984
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	近世初期における普請について	30	史学	LXXXIX	173	1984

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ささと	しょうじ	笹本正治	近世初期における真継家の鋳物師支配—宗弘と真継家—	30	史学	LXXXPX	187	1984
ごとう	しげお	後藤重郎	略歴・業績目録	30	文学	LXXXVIII	1	1984
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(I)	30	文学	LXXXVIII	1	1984
つのだ	たさく	角田太作	Verbal Inflectional Morphology in Historical Linguistics — A Case Study in the Herbert-Burdekin Languages of North Queensland	30	文学	LXXXVIII	21	1984
かみお	みつお	神尾美津雄	アルプス越とスノードン登攀—ワーズワス『序曲』—	30	文学	LXXXVIII	35	1984
そうわ	ほうせい	宗和宝正	Chaucer: Troilus and Criseide — あるいは Troilus and Pandarus	30	文学	LXXXVIII	61	1984
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Observations on the Structure of Hardy's "The Woodlanders"	30	文学	LXXXVIII	81	1984
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(2)	30	文学	LXXXVIII	93	1984
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	《口誦 詩オーラル・ポエトリー》理論と武勲詩研究(二)	30	文学	LXXXVIII	109	1984
しのだ	ちわき	篠田知和基	第二のフランス文学—流謫者の夢と絶望—ケベックの民譚と小説	30	文学	LXXXVIII	121	1984
さとう	まこと	佐藤誠	La methode de Montaigne devant la peinture de "moi"	30	文学	LXXXVIII	143	1984
KOENIGUER	Andre	KOENIGUER, Andre	Venise femme fatale	30	文学	LXXXVIII	175	1984
HOLZEN	Edmund	HOLZEN, Edmund	Hegels Begriff der romantischen Kunst	30	文学	LXXXVIII	185	1984
やました	ひろあき	山下宏明	鎮魂の物語としての『曾我物語』	30	文学	LXXXVIII	199	1984
ごとう	しげお	後藤重郎	続後撰和歌集に関する一考察—巻十七(雑歌中) 巻末部につき—	30	文学	LXXXVIII	211	1984
たじま	いどう	田島毓堂	法華経為字和訓考(五)—是・名—(承前)	30	文学	LXXXVIII	227	1984
やすだ	のりこ	安田徳子	「春雨」歌考—「玉葉集」表現の形式をめぐって—	30	文学	LXXXVIII	259	1984
かわさき	としひこ	川崎寿彦	「美しい日本」を継ぐ者は誰か?—『山の音』をめぐるとの比較文学的考察—	30	文学	LXXXVIII	275	1984
ふじい	たぎる	藤井たぎる	変装の論理—ホフマンスタール試論(II)—	30	文学	LXXXVIII	303	1984
たちかわ	むさし	立川武蔵	清弁著『智恵のともしび』第II章和訳・解説(IV—1)	30	哲学	XC	1	1984
しま	いわお	島岩	The Relationship between Brahman and the Phenomenal World in S' an.kar's Philosophy.	30	哲学	XC	23	1984
いしい	きよし	石井澄	C57BL/6J 系マウスの複合弁別訓練における手掛り次元の選択—刺激の明瞭度と先行訓練の影響—	30	哲学	XC	49	1984
くろずみ	としお	黒積俊夫	批判哲学と知識学との差異	30	哲学	XC	59	1984
つだ	まさお	津田雅夫	マルクスの宗教理解について(三)	30	哲学	XC	81	1984

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ふくしま	ひとし	福島仁	「天命圖」の成立と変遷—尊経閣文庫蔵『天命圖解』と内閣文庫蔵『天命圖説』をめぐって—	30	哲学	XC	101	1984
つじ	さほこ	辻佐保子	「ウィーン創世記」(Codex vindobonensis theol. graecus. 31)に関する覚書(上)	30	哲学	XC	119	1984
うちやま	みちあき	内山道明	知覚系—行動系の統一的理解への基礎的研究 —その背景的構想—	30	哲学	XD	37	1984
あらき	かずお	荒木一雄	略歴・主要著作目録	31	文学	XCI	1	1985
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(II)	31	文学	XCI	5	1985
かわさき	としひこ	川崎寿彦	緑の英雄ロビン・フッド	31	文学	XCI	37	1985
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(3)	31	文学	XCI	63	1985
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	《口 誦 詩オーラル・ポエトリー》理論と武勲詩研究(三)	31	文学	XCI	81	1985
さとう	まこと	佐藤誠	モンテニユにおける政治と倫理	31	文学	XCI	97	1985
やました	ひろあき	山下宏明	“原態”, “古態” ということ—「都落ち」をめぐって—(その1)	31	文学	XCI	135	1985
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考(六)—以—(承前)	31	文学	XCI	149	1985
やすだ	のりこ	安田徳子	建長三年九月十三日夜影供歌合について	31	文学	XCI	173	1985
かみお	みつお	神尾美津雄	言葉, 物, そして狂気—『トリストラム・シャンディ』—	31	文学	XCI	191	1985
しのだ	ちわき	篠田知和基	近代文学における日本的「分身」像の表現 その一	31	文学	XCI	211	1985
たじま	のりお	田島範男	ブライとムジール	31	文学	XCI	237	1985
もり	まさお	森正夫	中国歴史学界との十ヶ月	31	史学	XCII	1	1985
こんどう	かずひこ	近藤和彦	A List of English and Welsh Towns in Order of the First Publication of their Local Directories, 1677-1822	31	史学	XCII	47	1985
きたむら	しゅうじ	北村修二	大都市近郊地域の高度経済成長期以降の農業変容—名古屋市近郊の大府市の場合—	31	史学	XCII	57	1985
たかはし	きみあき	高橋公明	慶長十二年の回答兼刷還使の来日についての—考察— 近藤守重説の再検討—	31	史学	XCII	93	1985
いとう	ひろあき	伊藤宏明	唐代における莫徭について—中国南部少数民族に関する研究ノート—	31	史学	XCII	105	1985
みやさか	ゆうしょう	宮坂宥勝	略歴・主要著作目録	31	哲学	XCIII	1	1985
みやさか	ゆうしょう	宮坂宥勝	Saptotsada の語義について	31	哲学	XCIII	11	1985
たちかわ	むさし	立川武蔵	清弁著『智恵のともしび』第II章和訳・解説(V)	31	哲学	XCIII	21	1985
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	近交系マウスの行動の系統特性の検討—光刺激による活動変化を中心に—	31	哲学	XCIII	43	1985
うちやま	みちあき	後藤倬男、内山道明、鈴木正弥、辻敬一郎、広瀬幸雄	等質色視野における色光応答の分析 —色名呼称 (Stroop 課題) に及ぼす背景色光刺激および呼称方法の効果—	31	哲学	XCIII	59	1985

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ごとう	たくお	後藤倬男、内山道明、鈴木正弥、辻敬一郎、広瀬幸雄	等質色視野における色光応答の分析—色名呼称 (Stroop 課題) に及ぼす背景色光刺激および呼称方法の効果—	31	哲学	XCIII	59	1985
すずき	まさや	後藤倬男、内山道明、鈴木正弥、辻敬一郎、広瀬幸雄	等質色視野における色光応答の分析—色名呼称 (Stroop 課題) に及ぼす背景色光刺激および呼称方法の効果—	31	哲学	XCIII	59	1985
つじ	けいいちろう	後藤倬男、内山道明、鈴木正弥、辻敬一郎、広瀬幸雄	等質色視野における色光応答の分析—色名呼称 (Stroop 課題) に及ぼす背景色光刺激および呼称方法の効果—	31	哲学	XCIII	59	1985
ひろせ	ゆきお	後藤倬男、内山道明、鈴木正弥、辻敬一郎、広瀬幸雄	等質色視野における色光応答の分析—色名呼称 (Stroop 課題) に及ぼす背景色光刺激および呼称方法の効果—	31	哲学	XCIII	59	1985
ひろせ	ゆきお	広瀬幸雄	渇水事態における地域住民の態度と行動—河内長野市における水使用調査報告—	31	哲学	XCIII	75	1985
おおや	かずお	大屋和夫	多連仮現運動刺激の観察(その1)	31	哲学	XCIII	93	1985
いしい	きよし	石井澄	C57BL/6J 系マウスの複合弁別訓練における手掛り次元の選択 —隠ぺい現象 (Overshadowing) における試行数の影響—	31	哲学	XCIII	101	1985
つだ	まさお	津田雅夫	マルクスの宗教理解について(四)	31	哲学	XCIII	111	1985
うの	しげひこ	宇野茂彦	子貢像の變遷	31	哲学	XCIII	131	1985
つじ	さほこ	辻佐保子	「ウィーン創世記」に関する覚書(下)	31	哲学	XCIII	143	1985
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Structuralism and the Problem of "Our Mutual Friend"	32	文学	XCIV	19	1986
もり	ゆうじ	森祐司	傍観者たち—「Hemingway の世界」の内と外—	32	文学	XCIV	39	1986
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	《口 誦 詩オーラル・ポエトリー》理論と武勲詩研究(四)	32	文学	XCIV	57	1986
KOENIGUER	Andre	KOENIGUER, Andre	A propos de Fanny et Alexandre d'Inhmar Bergman — Quelques reflexions d'esthetique comparee sur un film et un roman	32	文学	XCIV	69	1986
さとう	まこと	佐藤誠	モンテーニュとパスカル—『ド・サン氏との対話』における懐疑論の基本的問題—	32	文学	XCIV	79	1986
やました	ひろあき	山下宏明	“原態”, “古態”ということ—「都落ち」をめぐって—(その2)	32	文学	XCIV	115	1986
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考(七)—与—(承前)	32	文学	XCIV	129	1986

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やすだ	のりこ	安田徳子	為兼の表現—「玉葉集」中の為兼歌をめぐって—	32	文学	XCIV	157	1986
どうけ	はるよ	道家春代	阮籍五言「詠懐詩」の表現について	32	文学	XCIV	169	1986
かわさき	としひこ	川崎寿彦	緑の森のシェイクスピア	32	文学	XCIV	185	1986
かみお	みつお	神尾美津雄	無限空間と想像カー—十八世紀イギリスにおける崇高の変容—	32	文学	XCIV	209	1986
しのだ	ちわき	篠田知和基	近代文学における日本的「分身」像の表現 その二	32	文学	XCIV	231	1986
のだ	けいごう	野田恵剛	ヨーイシュト・イー・フリヤーンの書	32	文学	XCIX	1	1986
もり	まさお	森正夫	明初江南における籍没田の形成	32	史学	XCV	1	1986
えむら	はるき	江村治樹	戦国三晋都市の性格	32	史学	XCV	33	1986
まつづか	しゅんぞう	松塚俊三	タインサイドの資本家家族	32	史学	XCV	67	1986
わたなべ	まこと	渡辺誠	韓国におけるドングリ食—韓国における考古民族学的研究・I—	32	史学	XCV	111	1986
さいとう	たかまさ	斎藤孝正	灰釉陶器の研究I—岐阜県・愛知県下の集落址出土例の分析—	32	史学	XCV	131	1986
いしみず	てるお	石水照雄、R. S. Mydel	本邦大都市圏の人口密度分布変化の空間的秩序—C. クラーク・モデルの適用と拡張—	32	史学	XCV	173	1986
Mydel	R. S.	石水照雄、R. S. Mydel	本邦大都市圏の人口密度分布変化の空間的秩序—C. クラーク・モデルの適用と拡張—	32	史学	XCV	173	1986
きたむら	しゅうじ	北村修二	愛知県における養鶏業の地域的展開	32	史学	XCV	215	1986
はやかわ	しょうはち	早川庄八	寛元二年の石清水八幡宮神殿汚穢事件—平戸記の関連記事・試読—	32	史学	XCV	237	1986
いなば	のぶみち	稲葉伸道	公家新制と寺辺新制—興福寺寺辺新制を中心に—	32	史学	XCV	303	1986
しま	いわお	島岩	『バーマティー』和訳I, 1—4 (VII)	32	哲学	XCVI	1	1986
ひろせ	ゆきお	広瀬幸雄	洗剤汚染事態における地域住民の態度と行動—草津市における洗剤使用調査報告—	32	哲学	XCVI	19	1986
つだ	まさお	津田雅夫	マルクスの宗教理解について(五)	32	哲学	XCVI	53	1986
うの	しげひこ	宇野茂彦	周易正義序 譯注	32	哲学	XCVI	71	1986
つじ	さほこ	辻佐保子	「ヨシュア画卷」に関する覚書	32	哲学	XCVI	85	1986
おおくぼ	じゅんいち	大久保純一	広重風景版画における種本利用の諸相について	32	哲学	XCVI	105	1986
さの	かつたか	佐野勝隆	故佐野勝隆助教授略歴・業績目録	33	哲学	XCIX	1	1987
ふくしま	ひとし	福島仁	『新編天主實録』とその改訂に関する資料の諸問題	33	哲学	XCIX	3	1987
しま	いわお	島岩	『バーマティー』I, 1, 1—4 和訳(X)	33	哲学	XCIX	19	1987
くろだ	よしひこ	黒田由彦	地域社会の統合をめぐる—試論—四全総と地域社会—	33	哲学	XCIX	33	1987
ごとう	たくお	後藤倬男	大きさの円対比錯視 (Ebbinghaus 錯視) に関する実験的研究 (IV)—付加円と中央円の直径比・付加円数・両円間距離等の刺激条件および観察回数の効果について—	33	哲学	XCIX	53	1987

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いしい	きよし	石井澄、辻敬一郎	スキスの学習能力の検討(1) —位置弁別課題の連続逆転学習について—	33	哲学	XCIX	77	1987
つじ	けいいちろう	石井澄、辻敬一郎	スキスの学習能力の検討(1)—位置弁別課題の連続逆転学習について—	33	哲学	XCIX	77	1987
いしい	きよし	石井澄、辻敬一郎	スキスのドメスティケーションに伴う行動変性に関する研究	33	哲学	XCIX	85	1987
つじ	けいいちろう	辻敬一郎、石井澄	スキスのドメスティケーションに伴う行動変性に関する研究	33	哲学	XCIX	85	1987
やまだ	ひろあき	山田弘明	「われ疑う、故にわれ在り」—デカルト『省察』(一及び二)の解釈—	33	哲学	XCIX	93	1987
つだ	まさお	津田雅夫	マルクスにおける宗教と文明—マルクスの宗教理解について(六)—	33	哲学	XCIX	129	1987
やました	りゅうじ	山下龍二	明代思想研究史	33	哲学	XCIX	147	1987
うの	しげひこ	宇野茂彦	隆賈新語札記—思想史の観点より見たる—	33	哲学	XCIX	179	1987
みやじ	あきら	宮治昭	インド仏伝図像の研究(一)—「兜率天上の菩薩」「白象降下」—	33	哲学	XCIX	189	1987
おおくぼ	じゅんいち	大久保純一	浮世絵における透視画法—浮絵から広重まで—	33	哲学	XCIX	215	1987
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(III)	33	文学	XCVII	1	1987
つのだ	たさく	角田太作	Counter-Command Condition in the Japanese Reflexive Constructions	33	文学	XCVII	23	1987
もり	ゆうじ	森祐司	メルヴィルの『タイピー』試論—「文明」か「野生」か—	33	文学	XCVII	27	1987
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(4)	33	文学	XCVII	41	1987
あまの	まさちよ	天野政千代	倒置文の派生構造について—特に空範疇原理との関連で—	33	文学	XCVII	59	1987
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	救済物語としての『聖アレクシス伝』—写本〔L〕について—	33	文学	XCVII	75	1987
ふくやま	さとる	福山悟	『夢遊の人々』における語り手について (I)	33	文学	XCVII	103	1987
やました	ひろあき	山下宏明	『平家物語』における東国圏視点	33	文学	XCVII	109	1987
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考(八)—助・向—(完)	33	文学	XCVII	133	1987
やすだ	のりこ	安田徳子	『とほがたり』の虚構—物語摂取を中心として—	33	文学	XCVII	147	1987
かみお	みつお	神尾美津雄	分類と統語—イギリスにおける普遍言語のエピステーメ—	33	文学	XCVII	161	1987
しのだ	ちわき	篠田知和基	近代文学における日本的「分身」像の表現 その三	33	文学	XCVII	185	1987
こんどう	かずひこ	近藤和彦	The Workhouse Issue at Manchester: Selected Documents, 1729-1735. Part One	33	史学	XCVIII	1	1987

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
わたなべ	まこと	渡辺誠	日韓におけるドングリ食と縄文土器の起源—韓国における考古民族学的研究・II—	33	史学	XCVIII	97	1987
さいとう	たかまさ	斎藤孝正	猿投窯IV期における須恵器生産の様相—杯類・椀類・盤類の変遷に関する予察—	33	史学	XCVIII	113	1987
きたむら	しゅうじ	北村修二	わが国における養鶏業の地域的展開	33	史学	XCVIII	149	1987
たかはし	きみあき	高橋公明	中世東アジア海域における海民と交流—濟州島を中心として—	33	史学	XCVIII	175	1987
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	豊国社の造営に関する一考察	33	史学	XCVIII	195	1987
つのだ	たさく	角田太作	Ergativity, Accusativity and Topicality	34	文学	C	1	1988
かわさき	としひこ	川崎寿彦	鳥の目, 虫の目, マーヴェルの目	34	文学	C	73	1988
しのだ	ちわき	篠田知和基	フランスにおける人狼伝承についての考察	34	文学	C	85	1988
やました	ひろあき	山下宏明	『平家物語』当道系本文異同の意味—『平家物語』成立論のために—	34	文学	C	105	1988
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(一)	34	文学	C	145	1988
やすだ	のりこ	安田徳子	旅人のいる風景—羈旅歌の変遷をめぐって—	34	文学	C	201	1988
かみお	みつお	神尾美津雄	阿片と闇のラビリンス—キーツ, コールリッジ, そしてド・クインシー—	34	文学	C	215	1988
いせき	ひろたろう	井関弘太郎	略歴・業績目録	34	史学	CI	1	1988
もり	まさお	森正夫	顧炎武の官田論における土地所有思想とその背景	34	史学	CI	5	1988
しげまつ	しんじ	重松伸司	カースト・階級・市—南インド内陸部農村における農家経済と流通機構(1)—	34	史学	CI	31	1988
えむら	はるき	江村治樹	青銅礼器から見た春秋時代の社会変動	34	史学	CI	55	1988
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	移牧をめぐる二・三の問題—原初形態・Ver Sacrum・信仰—	34	史学	CI	99	1988
さとう	彰一	佐藤彰一	ル・マン司教ベルトラムヌスの遺言状(616年)—ある聖界貴族を通して見たフランク社会(1)—	34	史学	CI	139	1988
わたなべ	まこと	渡辺誠	高麗瓦の製作技法について—韓国における考古民族学的研究・III—	34	史学	CI	181	1988
さいとう	たかまさ	斎藤孝正	中世猿投窯の研究—編年に関する一考察—	34	史学	CI	193	1988
いしみず	てるお	石水照雄, R. S. Mydel	本邦主要大都市圏の空間構造と空間的過程—居住機能および就業機能の空時的動態の展望—	34	史学	CI	251	1988
Mydel	R. S.	石水照雄, R. S. Mydel	本邦主要大都市圏の空間構造と空間的過程—居住機能および就業機能の空時的動態の展望—	34	史学	CI	251	1988
うみつ	まさもと	海津正倫	濃尾平野における縄文海進以降の海水準変動と地形変化	34	史学	CI	285	1988
たかぎ	あきひこ	高木彰彦	衆議院総選挙結果の地域的動向—第28回?第38回総選挙を中心として—	34	史学	CI	305	1988

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
はやかわ	しょうはち	早川庄八	天智の初め定めた「法」についての覚え書き	34	史学	CI	325	1988
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	豊臣秀吉文書に関する基礎的研究	34	史学	CI	341	1988
いとう	ひろあき	伊藤宏明	呉・南唐政権の諸問題	34	史学	CI	359	1988
やました	りゅうじ	山下龍二	略歴・業績目録	34	哲学	CII	1	1988
うちやま	みちあき	内山道明	略歴・業績目録	34	哲学	CII	7	1988
やまだ	ひろあき	山田弘明	コギトの明証性—デカルト『省察』の研究(2)—	34	哲学	CII	13	1988
わだ	としひろ	和田壽弘	Delimitor(Avacchedaka)in Navya-Nya-ya Philosophy (1)	34	哲学	CII	31	1988
うちやま	みちあき	後藤倬男、内山道明、辻敬一郎	等質色視野における色光応答の分析(2) —色名呼称(Stroop 課題)に及ぼす背景色光刺激の感情喚起効果について—	34	哲学	CII	45	1988
ごとう	たくお	後藤倬男、内山道明、辻敬一郎	等質色視野における色光応答の分析(2)—色名呼称(Stroop 課題)に及ぼす背景色光刺激の感情喚起効果について—	34	哲学	CII	45	1988
つじ	けいいちろう	後藤倬男、内山道明、辻敬一郎	等質色視野における色光応答の分析(2)—色名呼称(Stroop 課題)に及ぼす背景色光刺激の感情喚起効果について—	34	哲学	CII	45	1988
いしい	きよし	石井澄、辻敬一郎	スキンスの学習能力の検討(2) —嫌悪事態からの脱出行動の習得に見られるドメスティケーションの影響—	34	哲学	CII	59	1988
つじ	けいいちろう	石井澄、辻敬一郎	スキンスの学習能力の検討(2)—嫌悪事態からの脱出行動の習得に見られるドメスティケーションの影響—	34	哲学	CII	59	1988
おおや	かずお	大屋和夫	多連仮現運動刺激の観察(その2)	34	哲学	CII	65	1988
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	等質視野における外界と自己—ガンツフェルト実験の再吟味—	34	哲学	CII	75	1988
ひろせ	ゆきお	広瀬幸雄	社会的ジレンマゲームの実験研究(2)—いつマキアヴェリストはフリーライダーとなるのか—	34	哲学	CII	89	1988
きまた	もとかず	木俣元一	Les fragments de colonnettes sculptees de Saint-Denis	34	哲学	CII	107	1988
くろずみ	としお	黒積俊夫	行為の哲学とその限界—前期フィヒテ知識学の一考察—	34	哲学	CII	125	1988
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーにおける芸術と真理	34	哲学	CII	147	1988
やました	りゅうじ	山下龍二	「心」の哲学	34	哲学	CII	161	1988
うの	しげひこ	宇野茂彦	賈誼新書札記	34	哲学	CII	177	1988
ふくしま	ひとし	福島仁	『中国人の宗教の諸問題』訳注(上)	34	哲学	CII	189	1988
つじ	さほこ	辻佐保子	「偶像の失墜」あるいは「異教の敗北とキリスト教の勝利」—Paris, B. N. gr.510を中心に—	34	哲学	CII	212	1988
みやじ	あきら	宮治昭	「託胎霊夢」—インド仏伝図像の研究(二)—	34	哲学	CII	255	1988

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
くにはら	きちのすけ	國原吉之助	略歴・業績目録	35	文学	40周年 記念論 集	1	1988
ならさき	しょういち	檜崎彰一	略歴・業績目録	35	史学	40周年 記念論 集	1	1988
やまぐち	ずいほう	山口瑞鳳	略歴・業績目録	35	哲学	40周年 記念論 集	1	1988
たじま	のりお	田島範男	故 田島範男助教授略歴・主要業績	35	文学	40周年 記念論 集	3	1988
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(IV)	35	文学	40周年 記念論 集	7	1988
もり	まさお	森正夫	グエン・カック・ヴィエンに関する若干の研究—論文「ヴェトナムにおける儒教とマルクス主義」に寄せて—	35	史学	40周年 記念論 集	7	1988
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルト『省察』の研究(3)—レス・コギタンス, 明晰判明—	35	哲学	40周年 記念論 集	7	1988
みやじ	あきら	宮治昭	ガンダーラ涅槃図の読解	35	哲学	40周年 記念論 集	17	1988
つのだ	たさく	角田太作	Typological Study of Word Order in Languages of the Pacific Region(2) Djaru (Australia)	35	文学	40周年 記念論 集	19	1988
わだ	としひろ	和田壽弘	インド新論理学派における制限者(Avacchedaka)(2)	35	哲学	40周年 記念論 集	25	1988
えむら	はるき	江村治樹	春秋時代青銅器銘文の書式と用語の時代的変遷	35	史学	40周年 記念論 集	35	1988
おおや	かずお	後藤倬男、大屋和夫	大きさの円対比錯視の呈示条件に関する実験的研究	35	哲学	40周年 記念論 集	37	1988

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
ごとう	たくお	後藤倬男、大屋和夫	大きさの円対比錯視の呈示条件に関する実験的研究	35	哲学	40周年記念論集	37	1988
のだ	けいごう	野田恵剛	中世ペルシア語の付属代名詞のつなぎ母音	35	文学	40周年記念論集	49	1988
わたなべ	まこと	渡辺誠	トチのコザワシ	35	史学	40周年記念論集	53	1988
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Musical Adaptations of Shakespeare since 1945	35	文学	40周年記念論集	57	1988
ひろせ	ゆきお	広瀬幸雄	模擬社会ゲームとは何か	35	哲学	40周年記念論集	61	1988
こぐち	いちろう	小口一郎	監禁と解放の力学—Keats の Endymion—	35	文学	40周年記念論集	71	1988
こめだ	きみのり	米田公則	現代文化理論の再構成のために—シュッツ理論の批判的検討—	35	哲学	40周年記念論集	77	1988
さいとう	たかまさ	斎藤孝正	灰釉陶器の研究II—猿投窯第V期椀・皿類の型式編年—	35	史学	40周年記念論集	79	1988
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(5)	35	文学	40周年記念論集	85	1988
まつもと	やすし	松本康	都市コミュニティとライフスタイル—東京都品川区の事例から—	35	哲学	40周年記念論集	95	1988
あまの	まさちよ	天野政千代	現代英語におけるV移動について	35	文学	40周年記念論集	103	1988
いしみず	てるお	石水照雄	大都市圏の規模・密度法則について	35	史学	40周年記念論集	113	1988

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
くろずみ	としお	黒積俊夫	統覚中心のカント解釈の検討	35	哲学	40周年 記念論 集	113	1988
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	Yvain と Iwein: 二つの世界	35	文学	40周年 記念論 集	125	1988
いしはら	ひろし	石原潤、溝口常 俊	インド、西ベンガル州タムルク地域における市の分布と 特性	35	史学	40周年 記念論 集	133	1988
みぞぐち	つねとし	石原潤、溝口常 俊	インド、西ベンカル州タムルク地域における市の分布と 特性	35	史学	40周年 記念論 集	133	1988
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーのニーチェ解釈	35	哲学	40周年 記念論 集	133	1988
REYNAUD	Denis	REYNAUD, Denis	COROLLA, CORONA...(les nomenclateurs du dix- huitieme siecle ont-ils quelque chose a nous apprendre?)	35	文学	40周年 記念論 集	143	1988
うの	しげひこ	宇野茂彦	淮南子の総合とその整合管見	35	哲学	40周年 記念論 集	149	1988
ゆはず	かずより	弐和順	賈誼『新書』の成立をめぐる問題点—道術・六術・道徳 説篇を中心として—	35	哲学	40周年 記念論 集	161	1988
うえだ	ひろし	植田裕志	アーサー王と聖杯—二つの散文聖杯物語から—	35	文学	40周年 記念論 集	165	1988
はやかわ	しょうはち	早川庄八	承和十三年弁官罷免事件の審理経過についての覚え書 き	35	史学	40周年 記念論 集	173	1988
しむら	めぐみ	志村恵	ゴットヘルフ像の変遷—ゴットヘルフ研究史序説—	35	文学	40周年 記念論 集	179	1988
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	豊臣秀吉文書に関する基礎的研究(続)	35	史学	40周年 記念論 集	193	1988

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やました	ひろあき	山下宏明	いくさ物語表現史(一) — 『古事記』と『日本書記』 —	35	文学	40周年 記念論 集	195	1988
たじま	いくどう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(二)	35	文学	40周年 記念論 集	209	1988
きまた	もとかず	木俣元一	サン＝タルヌー＝ニヴリーヌの十二世紀の彫刻	35	哲学	40周年 記念論 集	211	1988
いまたか	まこと	今鷹眞	『三國志集解』補(一)	35	文学	40周年 記念論 集	249	1988
むらかみ	きみかず	村上公一	「三言・二拍」の判語・判決	35	文学	40周年 記念論 集	259	1988
かわさき	としひこ	川崎寿彦	静 止 点スタイル・ポイントとしての十七世紀カントリー ハウス	35	文学	40周年 記念論 集	269	1988
かみお	みつお	神尾美津雄	シニフィアンの解体—シェリー「モンブラン」—	35	文学	40周年 記念論 集	299	1988
しのだ	ちわき	篠田知和基	人狼伝承の起源を求めて	35	文学	40周年 記念論 集	321	1988
さとう	じろう	佐藤自郎	略歴・業績目録	36	文学	106	1	1990
かわさき	としひこ	川崎寿彦	略歴・業績目録	36	文学	106	5	1990
つのだ	たさく	角田太作	Typological Study of Word Order in Languages of the Pacific Region(5) Warrungu (Australia)	36	文学	106	13	1990
HORNE	Michael	HORNE, Michael	Pathways of the Sun: Death as Transition and Transfiguration in the Plays of Wole Soyinka	36	文学	106	49	1990
こばやし	とおる	小林徹	ゲームの規則—コールリッジ『老水夫の歌』(1798) —	36	文学	106	63	1990
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(6)	36	文学	106	81	1990
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格に関する通時的・共時的考察(1) — 属格付与 の方法—	36	文学	106	99	1990
REYNAUD	Denis	REYNAUD, Denis	Figures du Japon en France au XVIIIe siecle	36	文学	106	119	1990
しみず	すみお	清水純夫	マカーリエと古典主義	36	文学	106	133	1990

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
JUNGMANN	Albert	JUNGMANN, Albert	TRANSPARENZ UND INTENTIONALITAT : Bemerkungen zur angelsächsisch philosophisch-theoretischen Diskussion über das Phänomen Photographie	36	文学	106	147	1990
しむら	めぐみ	志村恵	“Die Armennot”あるいは貧困の神学	36	文学	106	159	1990
やました	ひろあき	山下宏明	いくさ物語表現史(二) —陸奥話記の叙法—	36	文学	106	173	1990
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(三)	36	文学	106	187	1990
むらかみ	きみかず	村上公一	中国の書籍流通と貸本屋(二)	36	文学	106	229	1990
たかはし	きみあき	高橋公明	済州島出身の官僚高得宗について	36	史学	107	1	1990
もり	まさお	森正夫	1988年夏江南デルタ小城镇紀行—科学研究費(国際学術研究)大学間(名古屋大学・南京大学)協力研究「江南デルタの中小都市—市鎮—の社会経済構造に関する歴史学的地理学的研究」第1年度調査の記録—	36	史学	107	23	1990
さとう	彰一	佐藤彰一	メロヴィング期ベリイ地方における空間組織—古代的都市=農村関係の存続と展開—	36	史学	107	69	1990
すなだ	とおる	砂田徹	P. クロディウスをめぐる最近の諸研究—ローマ共和政末期の「都市民衆」とのかかわりで—	36	史学	107	87	1990
わかお	ゆうじ	若尾祐司	ドイツの統一国家形成と婚姻の「世俗化」・1848—1875年	36	史学	107	103	1990
わたなべ	まこと	渡辺誠	滴水瓦の製作技法について—韓国における考古民族学的研究・IV—	36	史学	107	131	1990
さいとう	たかまさ	斎藤孝正	尾張における飛鳥時代須恵器生産の様相—篠岡2号窯出土資料を中心として—	36	史学	107	149	1990
おかもと	こうへい	岡本耕平	ケヴィン=リンチの都市論	36	史学	107	187	1990
いしはら	ひろし	石原潤	インド、西ベンガル州タムルク地域における市購買者の属性と行動	36	史学	107	201	1990
うみつ	まさもと	海津正倫	中国江南デルタの地形形成	36	史学	107	231	1990
おおしか	かずまさ	大鹿一正	略歴・業績目録	36	哲学	108	1	1990
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルト『省察』の研究(4)—デカルト的循環, 神の存在証明へ—	36	哲学	108	5	1990
たなか	すえお	田中末男	初期ハイデッガーと論理学	36	哲学	108	33	1990
たむら	ひとし	田村均	確率論的因果説に関する覚書	36	哲学	108	49	1990
わだ	としひろ	和田壽弘	インド哲学における言語分析(1)	36	哲学	108	73	1990
ごとう	たくお	後藤倬男	反復観察にもとづく大きさ錯視(Size illusions)の刺激条件に関する実験的研究	36	哲学	108	93	1990
おおや	かずお	大屋和夫	ブックレット法による錯視の分析—モデル構成を目指して(その1)—	36	哲学	108	111	1990

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いしい	きよし	石井澄	ラットの条件性抑制における刺激選択 —複合条件づけの試行数の関数としての隠蔽現象 (overshadowing) —	36	哲学	108	123	1990
ひろせ	ゆきお	広瀬幸雄	模擬世界ゲーム	36	哲学	108	133	1990
くろずみ	としお	黒積俊夫	言表としての経験—ロゴス中心のカント解釈の試み—	36	哲学	108	165	1990
みやじ	あきら	宮治昭	ガンダーラの弥勒菩薩の図像について	36	哲学	108	185	1990
きまた	もとかず	木俣元一	初期ゴシック彫刻における天蓋 (キャノピー) モティーフについて (上)	36	哲学	108	215	1990
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(V)	37	文学	109	1	1991
やなぎさわ	たみお	柳沢民雄	リトアニア語動詞の活用	37	文学	109	27	1991
すずき	ひろみつ	鈴木広光	キリシタン宗教書における仏教語の問題	37	文学	109	47	1991
HORNE	Michael	HORNE, Michael	The Permanence of Hardy	37	文学	109	59	1991
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(7)	37	文学	109	69	1991
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格に関する通時的・共時的考察 (2) —内在格の本質—	37	文学	109	89	1991
REYNAUD	Denis	REYNAUD, Denis	UN PAYS A IMAGES: Quatre auteurs francais du XIXe siecle et le Japon	37	文学	109	111	1991
うえだ	ひろし	植田裕志	聖杯ロマンスにおける隠者について	37	文学	109	123	1991
JUNGMANN	Albert	JUNGMANN, Albert	Eine Verborgene Tradition —Goethe und Moses Mendelssohn	37	文学	109	135	1991
おがわ	まさひろ	小川正廣	叙事詩人のエートス—ホメロスとウェルギリウス—	37	文学	109	149	1991
やました	ひろあき	山下宏明	いくさ物語表現史 (三) —保元物語における登場人物—	37	文学	109	191	1991
たじま	いくどう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(四)	37	文学	109	203	1991
かみお	みつお	神尾美津雄	他者のエピファニー—絵画美 対 想像力—	37	文学	109	257	1991
しのだ	ちわき	篠田知和基	異類婚説話の比較	37	文学	109	285	1991
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	略歴・業績目録	37	史学	110	1	1991
もり	まさお	森正夫	「寇変紀」の世界—李世熊と明末清初福建寧化県の地域社会—	37	史学	110	9	1991
えむら	はるき	江村治樹	春秋時代青銅器銘文の書式と用語の時代的変遷 (続)	37	史学	110	49	1991
さとう	彰一	佐藤彰一	7世紀後半のトゥール司教座とサン＝マルタン修道院 —司教クロドベルトウスをめぐる—	37	史学	110	71	1991
はせがわ	ひろたか	長谷川博隆	カエサルの寛恕 (clementia Caesaris)	37	史学	110	95	1991
わたなべ	まこと	渡辺誠	郡谷里貝塚出土のト骨の研究—韓国における考古民族学的研究・V—	37	史学	110	127	1991
おかもと	こうへい	岡本耕平	活動別滞留人口からみた名古屋市の時空間構造	37	史学	110	161	1991

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いしはら	ひろし	石原潤	中国の自由市場について—蘇州地域の事例を中心に—	37	史学	110	175	1991
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉後期の「国衙興行」・「国衙勘落」—王朝と幕府の国衙興行政策—	37	史学	110	207	1991
いとう	ゆきお	伊藤之雄	第一議会期の立憲自由党—組織と政策の形成—	37	史学	110	231	1991
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーと論理学批判	37	哲学	111	1	1991
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルト『省察』の研究(5)—観念をめぐって—	37	哲学	111	17	1991
もり	まさひで	森雅秀	インド密教における建築儀礼—Vajravali-nama-mandalopayika 和訳(1)—	37	哲学	111	53	1991
ごとう	たくお	後藤倬男	Ebbinghaus 錯視の反復観察にもとづく Delboeuf 錯視の錯視量変化に関する実験的研究	37	哲学	111	75	1991
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	研究ノート:『意識心理学・行動心理学におけるエコロジカルな立場の素描』	37	哲学	111	87	1991
いまい	あきら	今井章	定位反応に及ぼす内示反応と外示反応の課題教示の効果 —単一モダリティでの刺激提示事態について—	37	哲学	111	103	1991
くろずみ	としお	黒積俊夫	行為の自由とその基礎づけ	37	哲学	111	113	1991
よしだ	じゅん	吉田純	劉台拱論—汪中と劉台拱—	37	哲学	111	125	1991
ゆはず	かずより	弐和順	『鹽鐵論』に見える對匈奴政策論争をめぐって	37	哲学	111	143	1991
きまた	もとかず	木俣元一	初期ゴシック彫刻における天蓋(キャンピー)モチーフについて(下)	37	哲学	111	155	1991
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(VI)	38	文学	112	1	1992
やなぎさわ	たみお	柳沢民雄	現代ロシア語動詞の語彙的意味とアスペクト	38	文学	112	31	1992
つねがわ	まさみ	恒川正巳	The Consumption of Absence in The Secret Agent	38	文学	112	53	1992
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格に関する通時的・共時的考察(3)—構格格付与の方法—	38	文学	112	69	1992
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	L'adaptation courtoise について—Hartmann von Aue の場合—	38	文学	112	87	1992
FEUILLAS	Stephane	FEUILLAS, Stephane	LES MEDITATIONS CHINOISES DE HENRI MICHAUX	38	文学	112	97	1992
うえだ	ひろし	植田裕志	「ペルレスヴォー」における人物の指示表現について	38	文学	112	117	1992
かねこ	しょう	金子章	パウル・ツェラーン詩集>Schneepart<(雪の部位)注釈の試み—その—	38	文学	112	127	1992
しみず	すみお	清水純夫	『晩夏』と『ヴィルヘルム・マイスター』	38	文学	112	147	1992
おがわ	まさひろ	小川正廣	叙事詩における神々—ウェルギリウスの「アエネイス」について—	38	文学	112	165	1992
やました	ひろあき	山下宏明	いくさ物語表現史(四)—平治物語のモチーフ—	38	文学	112	195	1992
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(五)	38	文学	112	211	1992

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いまたか	まこと	今鷹眞	『三國志集解』補(二)	38	文学	112	255	1992
わたなべ	ゆきひこ	渡辺幸彦	史記にみられる「三段表現」	38	文学	112	273	1992
かみお	みつお	神尾美津雄	プロットの運命、運命のプロット—アン・ラドクリフ「森のロマンス」—	38	文学	112	293	1992
しのだ	ちわき	篠田知和基	鳥女房・白鳥の騎士	38	文学	112	309	1992
きたに	つとむ	木谷勤	略歴・業績目録	38	史学	113	1	1992
もり	まさお	森正夫	1930・40年代の上海平原農村における宅地所有について	38	史学	113	5	1992
すなだ	とおる	砂田徹	選挙買収禁止法とローマ共和政末期の政治—A. W. リントットの近業にふれて—	38	史学	113	23	1992
さとう	彰一	佐藤彰一	7世紀後半トゥールの「会計文書」—パリ国立図書館新収ラテン写本2654番について—	38	史学	113	41	1992
わかお	ゆうじ	若尾祐司	第一次世界大戦前ドイツの市民女性運動—1894—1908年の急進派を中心に—	38	史学	113	57	1992
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代の下呂石の交易	38	史学	113	83	1992
むらかみ	やすゆき	村上恭通	シベリア・中央アジアにおける漢代以前の鏡について	38	史学	113	105	1992
たかはし	まこと	高橋誠	わが国の地理学における「混住化」研究の視点と課題—村落社会変動に関連して—	38	史学	113	125	1992
いしはら	ひろし	石原潤、溝口常俊	北インド、ウツタルプラデシ州、サンディラ地域における伝統的市の分布と特性	38	史学	113	141	1992
みぞぐち	つねとし	石原潤、溝口常俊	北インド、ウツタルプラデシ州サンディラ地域における伝統的市の分布と特性	38	史学	113	141	1992
うみつ	まさもと	海津正倫	沖積層上部砂層の形成とその地域的特色	38	史学	113	171	1992
はやかわ	しょうはち	早川庄八	行立の序次と署所の序次—天承元年の明法勘文をめぐって—	38	史学	113	187	1992
いなば	のぶみち	稲葉伸道	南北朝期の奈良の検断—「大乘院奉行引付」の世界—	38	史学	113	209	1992
たかはし	きみあき	高橋公明	外交称号、日本国源某	38	史学	113	239	1992
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	陣立書の成立をめぐって	38	史学	113	253	1992
いとう	ゆきお	伊藤之雄	第二次伊藤内閣期の政党の藩閥官僚	38	史学	113	271	1992
いとう	ひろあき	伊藤宏明	唐五代の都將に関する覚書(上)	38	史学	113	301	1992
きたに	つとむ	木谷勤	「一八一三—一九一三年」—解放戦争百周年記念式典をめぐる国家と国民	38	史学	113	325	1992
きたがわ	たかよし	北川隆吉	北川隆吉教授略歴・業績目録	38	哲学	114	1	1992
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーと根拠の問題	38	哲学	114	17	1992
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルト『省察』の研究・6—「第三省察」から「第五省察」へ—	38	哲学	114	35	1992

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
もり	まさひで	森雅秀	インド密教における結界法—Vajravali-nama-mandalopayika 和訳(2)—	38	哲学	114	89	1992
ごとう	たくお	後藤倬男	Baldwin錯視の刺激条件に関する一考察	38	哲学	114	111	1992
いしい	きよし	石井澄	動物の学習行動のモデル論 I—1970年代の認知論的モデルの発展とその特質—	38	哲学	114	123	1992
おおや	かずお	大屋和夫	幾何学的錯視のコンピュータ・モデル構成の試み(その1) —オブジェクト指向言語によるモデルの枠組みと方向づけ—	38	哲学	114	137	1992
いまい	あきら	今井章	定位反応に及ぼす内示反応と外示反応の課題教示の効果(2) —複数モダリティでの刺激提示事態について—	38	哲学	114	151	1992
まつもと	やすし	松本康	アーバニズムと社会的ネットワーク—名古屋調査による「下位文化」理論の検証—	38	哲学	114	161	1992
よしだ	じゅん	吉田純	劉台拱論—乾嘉の学問観と劉台拱—	38	哲学	114	187	1992
やの	みちお	矢野通生	バルト・スラヴ語アクセント史研究序説(VII)	39	文学	115	1	1993
やなぎさわ	たみお	柳沢民雄	低地リトアニア方言のアクセント法について	39	文学	115	25	1993
HORNE	Michael	HORNE, Michael	"Play's the Thing": Hamlet as 'Mytheme' in Finnegans Wake	39	文学	115	49	1993
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(8)	39	文学	115	65	1993
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格に関する通時的・共時的研究(4) —自動詞の格付与能力について—	39	文学	115	83	1993
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	《ロランの死》の場面について—写本 O, C, P の比較—	39	文学	115	103	1993
FEUILLAS	Stephane	FEUILLAS, Stephane	UN BARBARE EN ASIE A LA LUMIERE DE SES PREFACES	39	文学	115	127	1993
かねこ	しょう	金子章	パウル・ツェラーン詩集 SCHNEEPART (雪の部位)注釈の試み—その二—	39	文学	115	139	1993
しみず	すみお	清水純夫	『魔の山』に到るヒューマンティの軌跡	39	文学	115	157	1993
JUNGMANN	Albert	JUNGMANN, Albert	VOM WIDERSTAND DES RAUMES GEGEN DIE ZEIT: Peter Handkes philosophische Phantasie	39	文学	115	175	1993
かめい	はじめ	亀井一	半＝対話篇の詩学—ジャン・パウルの「コルディー論」の成立史をめぐって—	39	文学	115	197	1993
おがわ	まさひろ	小川正廣	ウェルギリウス評価の変遷—古代から現代まで—	39	文学	115	215	1993
やました	ひろあき	山下宏明	頼朝物幸若舞曲の『平家物語』の受容と変容—いくさ物語表現史(五)—	39	文学	115	235	1993
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(六)	39	文学	115	247	1993
いまたか	まこと	今鷹眞	『三國志集解』補(三)	39	文学	115	275	1993
かみお	みつお	神尾美津雄	反復と相互参照—マシュー・ルイス「修道士」—	39	文学	115	293	1993

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しのだ	ちわき	篠田知和基	熊のフォークロア	39	文学	115	313	1993
わたなべ	まこと	渡辺誠	縄文時代の片口付き土器	39	史学	116	1	1993
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代の乳植状敲石	39	史学	116	15	1993
むらかみ	やすゆき	村上恭通	黒海北岸地域における中国製長剣 —ボルガ河流域・ス ラドコフスキー古墳の出土遺跡から—	39	史学	116	31	1993
えむら	はるき	江村治樹	日本における先秦史の研究動向と課題	39	史学	116	43	1993
おかじま	けん	岡島建	近代大阪における都市内水運の発達過程	39	史学	116	57	1993
いしはら	ひろし	石原潤	北インド, ウッタールプラデシ州, サンディアラ地域における 市購買者の属性と行動	39	史学	116	77	1993
たかはし	まこと	高橋誠	都市近郊農村における住民自治組織の機能的特性—新 潟県黒埼町におけるアンケート調査の結果から—	39	史学	116	97	1993
はやかわ	しょうはち	早川庄八	齋宮寮の成立とその財政	39	史学	116	121	1993
あおやま	みきや	青山幹哉	中世系図学構築の試み	39	史学	116	145	1993
いとう	ゆきお	伊藤之雄	日清戦後の自由党の政革と星亨	39	史学	116	161	1993
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーと事実性の問題	39	哲学	117	1	1993
わだ	としひろ	和田壽弘	インド哲学における言語分析(3)— Nyayasiddhantamuktavali「言語論の章」和訳研究—	39	哲学	117	17	1993
もり	まさひで	森雅秀	護摩修法と火炉に関する一考察	39	哲学	117	35	1993
かぬま	じゅん	貝沼洵	A. ギデンスのモダニティー論と情報、空間、そして権力 —現代社会の再生産メカニズムに関する批判的視角を もとめて—	39	哲学	117	53	1993
かわむら	のりゆき	河村則行	現代社会における調整・統合とその問題—市場、国家と 日常世界—	39	哲学	117	83	1993
ごとう	たくお	後藤倬男	Baldwin 錯視の反復長時間連続観察に関する一考察	39	哲学	117	93	1993
いしい	きよし	石井澄	動物の学習行動のモデル論 II—従来の認知論的モデ ルにおける問題点—	39	哲学	117	103	1993
おおや	かずお	大屋和夫	幾何学的錯視のコンピュータ・モデル構成の試み(その 2) —モデル化すべき現象の検討とモデルの方向づけ —	39	哲学	117	117	1993
いまい	あきら	今井章	課題教示における定位反応の指標としての凝視時間	39	哲学	117	135	1993
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	略歴・業績目録	40	文学	118	1	1994
やの	みちお	矢野通生	古プロシア語の動詞のアクセント(1)	40	文学	118	5	1994
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	ON THE DEFAULT THEME IN THE FINNISH LANGUAGE	40	文学	118	25	1994
すがい	かずみ	菅井三実	助詞「は」の意味機能に関する認知言語学的考察	40	文学	118	39	1994
すずき	ひろみつ	鈴木広光	漢訳聖書に於ける agape の翻訳に就いて	40	文学	118	53	1994

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
にしむら	さとし	西村智	物語行為のミメシス—Sherwood Anderson の “Death in the Woods” と “I want to Know Why” における一人称形式—	40	文学	118	63	1994
つねがわ	まさみ	恒川正巳	“Psychoanalysis and Revision of Oedipal Reality”	40	文学	118	77	1994
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(9)	40	文学	118	87	1994
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格に関する通時的・共時的的研究(5) —目的格の照合—	40	文学	118	113	1994
かみざわ	えいぞう	神沢栄三	ヴィヨン『昔日の美姫の譜』を読む	40	文学	118	133	1994
FEUILLAS	Stephane	フィヤ, ステ ファヌ フランソ ワ・ジュリアン著	『「易経」の哲学的読解への序説』に寄せて	40	文学	118	151	1994
うえだ	ひろし	植田裕志	中世ロマンにおける一騎討ち描写について	40	文学	118	161	1994
しみず	すみお	清水純夫	アイヒェンドルフの『大理石像』について	40	文学	118	181	1994
かめい	はじめ	亀井一	アルカディアのはずれに—ジャン・パウル『巨人』論(1)—	40	文学	118	191	1994
やました	ひろあき	山下宏明	近松『薩摩守忠度』の作劇—いくさ物語表現史(五)—	40	文学	118	209	1994
たじま	いくどう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(七)	40	文学	118	221	1994
いまたか	まこと	今鷹眞	『三國志集解』補(四)	40	文学	118	255	1994
わたなべ	ゆきひこ	渡辺幸彦	「史記」廉頗藺相如列傳の構成について	40	文学	118	275	1994
しのだ	ちわき	篠田知和基	犬聳入考	40	文学	118	293	1994
もり	まさお	森正夫	十五世紀江南デルタの済農倉をめぐる資料について	40	史学	119	1	1994
かとう	くみこ	加藤久美子	Muang Polities in Sipsongpanna: A Comparison of the Categories of Land and People among the Muang	40	史学	119	25	1994
すとう	よしゆき	周藤芳幸	アッティカにおける「統合」と「連続」—ミケーネ時代の集落パタンからの考察—	40	史学	119	51	1994
やまもと	なおと	山本直人	絵巻物による建物の一考案	40	史学	119	77	1994
むらかみ	やすゆき	村上恭通	ロシア極東初期鉄器文化における外来系文物 —クロウノフカ文化・ポリツェ文化について—	40	史学	119	107	1994
いしみず	てるお	石水照雄	都市内居住地移動の空間構造とその分析: 金沢市の事例	40	史学	119	123	1994
のなか	けんいち	野中健一	沖縄県, 先島諸島における食用内陸小動物	40	史学	119	169	1994
いしはら	ひろし	石原潤	「中国集市大観」に見る中国の自由市場	40	史学	119	183	1994
たかはし	まこと	高橋誠	新潟県黒埼町における住民自治組織の再編成と機能的特性	40	史学	119	215	1994
はやかわ	しょうはち	早川庄八	宣旨補考三題	40	史学	119	247	1994
いとう	ゆきお	伊藤之雄	日清戦争以後の中国・朝鮮認識と外交論	40	史学	119	263	1994

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かなやま	やすひら	金山弥平	実体 (ousia) 探究におけるアリストテレスの照準—『形而上学』Z巻1章における《ti esti》の問い—	40	哲学	120	1	1994
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーと真理の問題(1)—『存在と時間』における—	40	哲学	120	35	1994
やまだ	ひろあき	山田弘明	真理基準をめぐって(上)—スピノザとデカルト—	40	哲学	120	49	1994
たむら	ひとし	田村均	所与を越える道—ジョン・ロックとベーコン主義—	40	哲学	120	65	1994
えんどう	こう	遠藤康	THE FOURTH CHAPTER OF NARAYANA TIRTHA'S YOGASIDDHANTACANDRIKA(1)	40	哲学	120	87	1994
ごとう	たくお	後藤倬男	大きさの円対比錯視 (Ebbinghaus 錯視) に関する実験的研究 (V)—Ebbinghaus 錯視と Delboeuf 錯視の関係についての—考察—	40	哲学	120	101	1994
つじ	けいいちろう	辻敬一郎	PSYCHOLOGICAL COPING WITH ELEVATION: PRELIMINARY APPROACHES TO THE EFFECT OF RESIDENCE IN MULTISTORIED HOUSING	40	哲学	120	113	1994
いまい	あきら	今井章	定位反応研究の歴史と展望—誘発モデルの展開を中心として—	40	哲学	120	129	1994
たかはし	しんや	高橋晋也	主観的輪郭の微小生成過程	40	哲学	120	155	1994
きまた	もとかず	木俣元一	シャルトル大聖堂「王の扉口」装飾小円柱—修復と変更の歴史—	40	哲学	120	165	1994
くろずみ	としお	黒積俊夫	「カント解釈の問題」をめぐって	40	哲学	120	179	1994
みやじ	あきら	宮治昭	インド古代初期美術の「降魔成道」の諸相	40	哲学	120	189	1994
やました	ひろあき	山下宏明	略歴・主要業績目録	41	文学	121	1	1995
やの	みちお	矢野通生	古プロシア語の動詞のアクセント(2)	41	文学	121	11	1995
すがい	かずみ	菅井三実	助詞「ガ」の総記性に関する—考察	41	文学	121	35	1995
もり	ありのり	森有礼	永劫の悪夢—Absalom, absalom! における制度解体のプログラム—	41	文学	121	53	1995
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味論(10)	41	文学	121	69	1995
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格標識に関する通時的・共時的研究(6) —二重目的語構文の構造—	41	文学	121	85	1995
かめい	はじめ	亀井一	表現としての解剖学—ジャン・パウル「カツエンベルガー博士の温泉旅行」をめぐって—	41	文学	121	113	1995
うえだ	ひろし	植田裕志	中世ロマンと地理—「イポメドン」をめぐって	41	文学	121	131	1995
やました	ひろあき	山下宏明	「レイテ戦記」論—いさ物語表現史(七)—	41	文学	121	147	1995
たじま	いこう	田島毓堂	法華経為字和訓考 資料篇(八)	41	文学	121	173	1995
くぎぬき	とおる	釘貫亨	古代日本語における形容詞造語法に関する—考察	41	文学	121	199	1995
いまたか	まこと	今鷹眞	『三國志集解』補(五)	41	文学	121	215	1995

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かみお	みつお	神尾美津雄	知覚と想起—イギリス・ロマン主義における精神現象論—	41	文学	121	229	1995
しのだ	ちわき	篠田知和基	猪の歳時記	41	文学	121	249	1995
いしみず	てるお	石水照雄	略歴・業績目録	41	史学	122	1	1995
えむら	はるき	江村治樹	中国古代都市遺跡の現状と問題点 —1993年, 陝西, 山東, 山西, 河南, 河北省の都市遺跡を見学して—	41	史学	122	9	1995
もり	まさお	森正夫	「錫金識小録」の性格について	41	史学	122	29	1995
わだ	みつひろ	和田光弘	南部植民地における生活水準—実像・比較・変容—	41	史学	122	49	1995
わたなべ	まこと	渡辺誠	中国新石器時代における編布圧痕の研究—中国における民族考古学的調査・1—	41	史学	122	71	1995
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代における野生根茎類食糧化の基礎的研究	41	史学	122	83	1995
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカにおけるオルメカ文化の広がりとその定義	41	史学	122	131	1995
おかもと	こうへい	岡本耕平	The Quality of Life in Metropolitan Suburbs of Japan: The Availability of Private Cars and the Daily Activities of Married Women	41	史学	122	155	1995
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉末期の興福寺大乗院家—坊官を中心に—	41	史学	122	167	1995
あおやま	みきや	青山幹哉	「公方」論について	41	史学	122	187	1995
かけひ	としお	箕敏生	班田収授制と畿内	41	史学	122	199	1995
すずき	まさや	鈴木正彌	故鈴木正彌教授略歴・業績目録	41	哲学	123	1	1995
くろずみ	としお	黒積俊夫	確実性の問題—デカルト—カント—ヴァイトゲンシュタイン—	41	哲学	123	5	1995
かなやま	やすひら	金山弥平	理論と経験—古代医学における経験派の方法論—	41	哲学	123	27	1995
たなか	すえお	田中末男	ハイデッガーと他者の問題	41	哲学	123	51	1995
やまだ	ひろあき	山田弘明	真理基準をめぐって(下)—ライプニッツとデカルト—	41	哲学	123	67	1995
たむら	ひとし	田村均	感覚と知識—ジョン・ロックとトーマス・シドナム—	41	哲学	123	105	1995
えんどう	こう	遠藤康	THE FOURTH CHAPTER OF NARAYANA TIRTHA'S YOGASIDDHANTACANDRIKA(2)	41	哲学	123	133	1995
まつもと	やすし	松本康	現代大都市におけるパーソナルネットワークの変容—コミュニティ解放仮説の検証—	41	哲学	123	143	1995
いしい	きよし	石井澄	学習行動のモデル論 III—動物の認知過程についての包括的理解の方略—	41	哲学	123	169	1995
おおや	かずお	大屋和夫	幾何学的図形の対比と同化について	41	哲学	123	187	1995
きまた	もとかず	木俣元一	シャルトル大聖堂のステンド・グラスにおける分節システムとクロノロジー: 今後の研究に向けての覚え書き	41	哲学	123	197	1995
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	Possessiivisuffiksien levinneisyys suomen kielessa(Distribution of Possessive Suffixes in the Finnish Language)	42	文学	124	1	1996

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
すがい	かずみ	菅井三実	現代日本語における(非)主題化文の構文的アスペクトについて	42	文学	124	11	1996
もり	ありのり	森有礼	大衆の肅清: Sanctuary における知識階級と社会決定論	42	文学	124	29	1996
GRUNDY	Thomas E.	GRUNDY, Thomas E.	"An Eye of gifts & graces": A Reading of Blake's The Book of Thel	42	文学	124	49	1996
なかの	ひろぞう	中野弘三	定形節の意味分析	42	文学	124	79	1996
あまの	まさちよ	天野政千代	英語の格に関する通時的・共時的研究(7)—純粹格標示領域仮説—	42	文学	124	89	1996
STRUVE- DEBEAUX	Anne	STRUVE- DEBEAUX, Anne	La lutte de Jacob et de l'Ange: Etude sur la signification du mythe dans la poesie francaise moderne	42	文学	124	113	1996
かねこ	しょう	金子章	コトバの可能性とくもの>	42	文学	124	131	1996
しみず	すみお	清水純夫	シラーの『ドン・カルロス』について	42	文学	124	147	1996
かめい	はじめ	亀井一	Leibgebers philosophische Dichtung: Uber Jean Pauls Clavis Fichtiana seu Leibgeberiana	42	文学	124	165	1996
おがわ	まさひろ	小川正廣	民話から叙事詩へ—アキレウスの選択とポイニクスの訓話(「イリアス」第9巻)—	42	文学	124	183	1996
むらかみ	まなぶ	村上學	「平家物語」のくかたり>表現ノート	42	文学	124	219	1996
たじま	いくどう	田島毓堂	法華經訓読史研究の諸問題	42	文学	124	233	1996
くぎぬき	とおる	釘貫亨	日本文法学における「規範」の問題—学説史的考察—	42	文学	124	251	1996
すぎやま	ひろゆき	杉山寛行	項羽本紀を読む	42	文学	124	289	1996
かみお	みつお	神尾美津雄	氾濫する自意識—イギリス・ロマン主義における人間像—	42	文学	124	301	1996
しのだ	ちわき	篠田知和基	『転落』を神話批評から読む	42	文学	124	317	1996
わだ	みつひろ	和田光弘	南部植民地における階層構造と衣服	42	史学	125	1	1996
わたなべ	まこと	渡辺誠	クリの穴貯蔵	42	史学	125	35	1996
やまもと	なおと	山本直人	野生根茎類食糧化に関する事例研究—クズとワラビを中心に—	42	史学	125	43	1996
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	マヤ南部地域に於ける石彫の一生に関する一考察—グアテマラ高地からグアテマラ太平洋岸まで—	42	史学	125	101	1996
いしはら	ひろし	石原潤	中国における自由市場の発展と現況	42	史学	125	125	1996
おかもと	こうへい	岡本耕平	わが国の都市住民による自家用車利用の活動空間	42	史学	125	141	1996
おおひら	あきお	大平明夫	新潟平野北東部における縄文海進に関する資料—新発田市と水原町における沖積層の珪藻群集と AMS14C年代—	42	史学	125	159	1996
うみつ	まさもと	海津正倫	熱田台地・熱田層の形成に関する若干の問題	42	史学	125	169	1996

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
はやかわ	しょうはち	早川庄八	続日本紀宣命詔・三題について	42	史学	125	183	1996
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	海賊禁止命をめぐって	42	史学	125	209	1996
はが	しょうじ	羽賀祥二	城郭公園のなかの神社—十九世紀日本の地域史像について—	42	史学	125	221	1996
かけひ	としお	笈敏生	藤原仲麻呂政権期の尊号について	42	史学	125	243	1996
くろずみ	としお	黒積俊夫	「何故？」と「何のために？」—アンスコム「実践知」論の検討—	42	哲学	126	1	1996
かなやま	やすひら	金山弥平	ピュロン主義, 経験主義, 方法主義—ガノレス『入門者のために諸学派を論ずる』(序論および翻訳と訳註)—	42	哲学	126	25	1996
やまだ	ひろあき	山田弘明	マルブランシュ「観念の本性について」	42	哲学	126	53	1996
たむら	ひとし	田村均	人格の同一性について—人類学的視点と哲学的視点—	42	哲学	126	89	1996
にべ	のぶひこ	丹辺宣彦	後期資本主義社会における階級関係の「階層的転位」—属性諸階層の存在をめぐって—	42	哲学	126	117	1996
いしい	きよし	石井澄、辻敬一郎	Effects of Stimulus Preexposure upon Sexual Imprinting in the Japanese Quail	42	哲学	126	131	1996
つじ	けいいちろう	辻敬一郎、石井澄	Effects of Stimulus Preexposure upon Sexual Imprinting in the Japanese Quail	42	哲学	126	131	1996
のなみ	ひろし	野波寛	環境配慮行動を普及させるアクティヴ・マイナリティー地域住民の認知プロセスに及ぼす影響—	42	哲学	126	141	1996
きまた	もとかず	木俣元一	シャルトル大聖堂におけるステンド・グラスの配置に関する試論—分節システムと幾何学的構成の観点から—	42	哲学	126	155	1996
よしだ	じゅん	吉田純	読翁方綱『復初齋文書』小記	42	哲学	126	173	1996
いまたか	まこと	今鷹眞	略歴・業績目録	43	文学	127	1	1997
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	The Permissive Construction in the Finnish Language	43	文学	127	5	1997
すがい	かずみ	菅井三実	格助詞「で」の意味特性に関する一考察	43	文学	127	23	1997
たじま	いくどう	田島毓堂	比較語彙研究の提案とその構想	43	文学	127	41	1997
GRUNDY	Thomas E.	GRUNDY, Thomas Edward	The Same Dull Round: On Tennyson's "The Voyage"	43	文学	127	59	1997
なかの	ひろぞう	中野弘三	英語法助動詞の意味変化のメカニズム	43	文学	127	71	1997
うえだ	ひろし	植田裕志	聖ベルナルの「雅歌についての説教」とその古フランス語訳について	43	文学	127	87	1997
しみず	すみお	清水純夫	ヘッベルの『ユーディット』について	43	文学	127	103	1997
かめい	はじめ	亀井一	ジャン・パウルのテキストの速度と機知	43	文学	127	115	1997
SCHLARB	H. M.	SCHLARB, H. M.	Der "eigenwillige" Erzähler—Umwege der Interpretation von Katz und Mous	43	文学	127	131	1997

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
おがわ	まさひろ	小川正廣	「運命の秤」についての一考察—ホメロスとオリエント宗教—	43	文学	127	159	1997
むらかみ	まなぶ	村上學	語り本「平家物語」の定型表現—屋代本巻第十を手懸りとして—	43	文学	127	179	1997
あべ	やすろう	阿部泰郎	中世宗教思想文献の研究(一) —仁和寺本『天照大神口決』の翻刻と解題—	43	文学	127	193	1997
くぎぬき	とおる	釘貫亨	日本語学史における「音韻」の問題	43	文学	127	207	1997
いまたか	まこと	今鷹眞	『三國志集解』補(六)	43	文学	127	227	1997
すぎやま	ひろゆき	杉山寛行	「力能扛鼎, 才氣過人」	43	文学	127	243	1997
かみお	みつお	神尾美津雄	薄明下のフェミニニティー—ゴシック・ヒロインの自己意識—	43	文学	127	257	1997
しのだ	ちわき	篠田知和基	フランスの山岳文学	43	文学	127	273	1997
かとう	くみこ	加藤久美子	Changes in Sipsongpanna in the Eighteenth Century: Focusing on 1720s-1730s	43	史学	128	1	1997
やまもと	なおと	山本直人	野生地下茎食糧化に関する事例研究	43	史学	128	19	1997
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ地域におけるフラスコ状ピット	43	史学	128	43	1997
はが	しょうじ	羽賀祥二	泳宮と喪山—美濃における古代伝説と遺蹟—	43	史学	128	69	1997
かけひ	としお	箕敏生	宣命の歴史的 position と日本古代王権	43	史学	128	93	1997
くろずみ	としお	黒積俊夫	カント倫理学の成立	43	哲学	129	1	1997
やまだ	ひろあき	山田弘明	La puissance de Dieu dans l'argument epistemologique de Descartes	43	哲学	129	29	1997
たむら	ひとし	田村均	自己犠牲の倫理的的分析	43	哲学	129	37	1997
かなやま	やすひら	金山弥平	懐疑主義に対する或る古代の批判—アリストクレス『哲学について』より—	43	哲学	129	65	1997
おりはら	ひろし	折原浩	原生的血縁・地縁(家・近隣・氏族)ゲマインシャフトとその発展傾向にかんする理解社会学的概念構成—ヴェーバー『経済と社会』の全体像構築に向けて(1)	43	哲学	129	77	1997
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	The Case-marking of the Object of the Second Infinitive Instructive in the Finnish Language	44	文学	130	1	1998
すがい	かずみ	菅井三実	対格のスキーマ的分析とネットワーク化	44	文学	130	15	1998
たじま	いこう	田島毓堂	語彙論のための用語	44	文学	130	31	1998
なかの	ひろぞう	中野弘三	副詞節の機能分析	44	文学	130	45	1998
あまの	まさちよ	天野政千代	A Diachronic and Synchronic Study of English Cases (8): Case-marking of Inverted Subjects	44	文学	130	59	1998
まつざわ	かずひろ	松沢和宏	ソシュール「一般言語学講義」の生成批評研究にむけて—「第3回講義」の変容をめぐって—	44	文学	130	83	1998
しみず	すみお	清水純夫	クライストの『ペンテジレーア』について	44	文学	130	103	1998

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
SCHLARB	H. M.	SCHLARB, H. M.	Fontane in japanischer •bersetzung.Ein kritischer •berblick (I)	44	文学	130	111	1998
むらかみ	まなぶ	村上學	八坂系平家物語巻第三の第三類本文に関する一考察—本文分類の一つの手懸りとして—	44	文学	130	131	1998
しのだ	ちわき	篠田知和基	メリュジーヌ伝承の比較	44	文学	130	151	1998
あべ	やすろう	阿部泰郎	中世宗教思想文献の研究(二)—宗性写・澄憲草『法華経并阿弥陀経釈』の解題と翻刻—	44	文学	130	173	1998
はやかわ	しょうはち	早川庄八	略歴・業績目録	44	史学	131	1	1998
もり	まさお	森正夫	略歴・業績目録	44	史学	131	7	1998
わたなべ	まこと	渡辺誠	人面・足形装飾付の香炉形土器	44	史学	131	15	1998
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代における野生地下茎食糧化の地域性と季節性	44	史学	131	31	1998
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	マヤ南部地域で“PEDESTAL”と呼ばれる石彫について	44	史学	131	47	1998
えむら	はるき	江村治樹	春秋・戦国・秦漢時代の都市の規模と分布	44	史学	131	79	1998
わかお	ゆうじ	若尾祐司	歴史のなかの飢餓と食糧暴動—ハンス・H・バス氏の名古屋報告によせて—	44	史学	131	123	1998
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	屋久島中間村におせる切替畑利用の変遷	44	史学	131	141	1998
おかもと	こうへい	岡本耕平	1970年代以降の自動車利用率の増加要因とそのジェンダー的側面—中京都市圏パーソントリップ調査データを利用した分析—	44	史学	131	155	1998
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	豊臣秀吉文書の概要について	44	史学	131	167	1998
いなば	のぶみち	稲葉伸道	南北朝時代の興福寺と国家	44	史学	131	185	1998
はが	しょうじ	羽賀祥二	日清戦争記念碑考—愛知県を例として—	44	史学	131	205	1998
あおやま	みきや	青山幹哉	中近世転換期の系図家たち	44	史学	131	233	1998
さとう	彰一	佐藤彰一	ユーグ・ル・グランの九三七年	44	史学	131	247	1998
しのみや	ゆうじ	篠宮雄二	弁財船建造過程と船大工の存在形態について	44	史学	131	271	1998
やまだ	ひろあき	山田弘明	コギト・観念・真理—マルブランシュとデカルト—	44	哲学	132	1	1998
えんどう	こう	遠藤康	中世的諸ヨーガと Yogasutra: ナーラーヤナ・ティールタの Yogasutra 解釈	44	哲学	132	25	1998
おりはら	ひろし	折原浩	宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成にかんする理解社会学的概念構成(1)—ヴェーバー『経済と社会』の全体像構築に向けて(3)	44	哲学	132	41	1998
おおや	かずお	大屋和夫	幾何学的図形の対比と同化について(その2)	44	哲学	132	61	1998
くろずみ	としお	黒積俊夫	内在論としてのカント先験哲学	44	哲学	132	73	1998
よしだ	じゅん	吉田純	『蘇齋筆記』訳注稿—経・易	44	哲学	132	97	1998

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かねこ	しょう	金子章	略歴・業績目録	45	文学	50周年 記念論 集	1	1999
みき	せいいちろう	三鬼清一郎	略歴・業績目録	45	史学	50周年 記念論 集	1	1999
おりはら	ひろし	折原浩	教授略歴・業績目録	45	哲学	50周年 記念論 集	1	1999
むらかみ	まなぶ	村上學	略歴・業績目録	45	文学	50周年 記念論 集	5	1999
わたなべ	まこと	渡辺誠	下部単孔土器の研究	45	史学	50周年 記念論 集	9	1999
やまだ	ひろあき	山田弘明	パスカルとデカルト	45	哲学	50周年 記念論 集	9	1999
おがわ	まさひろ	小川正廣	オイディプスと神託—ギリシア悲劇と民話—	45	文学	50周年 記念論 集	15	1999
やまもと	なおと	山本直人	放射性炭素年代測定法による縄文時代の研究	45	史学	50周年 記念論 集	37	1999
たむら	ひとし	田村均	自己犠牲をめぐる三つの物語—エウリピデス, ティム・オ ブライエン, 宮沢賢治—	45	哲学	50周年 記念論 集	37	1999
よしたけ	すみお	吉武純夫	アキレウスの賞品供与—(パトロクロスのための葬礼競 技における)—	45	文学	50周年 記念論 集	45	1999
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	マヤ南部地域でみられる横方向にホゾが付いた石彫	45	史学	50周年 記念論 集	55	1999
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	On the Semantic Conditions of the Nominative Marking of the Object in the Finnish Language	45	文学	50周年 記念論 集	61	1999

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かなやま	やすひら	金山弥平	プラトン自然学の始まり(上) — 『パイドン』の内にアリストテレスが見たものと見過したのもの—	45	哲学	50周年 記念論 集	73	1999
すがい	かずみ	菅井三実	日本語における空間の対格標示について	45	文学	50周年 記念論 集	75	1999
なかがわら	いくこ	中川原育子	クチャ地域の供養者像に関する考察—キジルにおける供養者像の展開を中心に—	45	哲学	50周年 記念論 集	89	1999
たじま	いくどう	田島毓堂	なぜ比較語彙研究か—なぜ語彙研究は未開だったか、なぜ必要か—	45	文学	50周年 記念論 集	93	1999
えむら	はるき	江村治樹	戦国新出土文字資料概述・補訂—貨幣部分	45	史学	50周年 記念論 集	95	1999
たきがわ	むつむ	滝川睦	演劇の検閲・夢の検閲—A Midsummer Night's Dream—	45	文学	50周年 記念論 集	107	1999
かとう	くみこ	加藤久美子	タイ族盆地政権連合国家、シブソンパンナーの統治のあり方に関する—考察—20世紀半ばにおける「課税」方法の分析—	45	史学	50周年 記念論 集	117	1999
GRUNDY	Thomas E.	GRUNDY, Thomas Edward	On Teaching the Bible as Literature: A Mythical Bias	45	文学	50周年 記念論 集	121	1999
おりはら	ひろし	折原浩	宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成にかんする理解社会学的概念構成(3)—ヴェーバー『経済と社会』の全体像構築に向けて(5)	45	哲学	50周年 記念論 集	121	1999
うえだ	ひろし	植田裕志	アレゴリーとアナロジー—ロバート・グローステスト『愛の城』—	45	文学	50周年 記念論 集	135	1999
たかはし	しんや	高橋晋也	主観的輪郭知覚のメカニズム	45	哲学	50周年 記念論 集	139	1999
すとう	よしゆき	周藤芳幸	古典期アテネの二つのディオニュシア祭—祭儀とポリス空間構造をめぐる試論—	45	史学	50周年 記念論 集	147	1999

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
くろずみ	としお	黒積俊夫	ヘーゲルの経験理論とその挫折—『意識経験学』から『精神現象学』へ—	45	哲学	50周年 記念論 集	151	1999
かねこ	しょう	金子章	外国語の詩の注釈	45	文学	50周年 記念論 集	153	1999
しみず	すみお	清水純夫	シラーの『ジェノヴァのフィエスコの反乱』について	45	文学	50周年 記念論 集	163	1999
うみつ	まさもと	海津正倫、川瀬 久美子	タイ南部の沖積低地における沖積層とマングローブ林の 発達	45	史学	50周年 記念論 集	163	1999
かわせ	くみこ	海津正倫、川瀬 久美子	タイ南部の沖積低地における沖積層とマングローブ林の 発達	45	史学	50周年 記念論 集	163	1999
なかの	ひろぞう	中野弘三	意味変化の一方向性仮説についての一考察	45	文学	50周年 記念論 集	175	1999
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	近世中期屋久島における世帯構成と生産基盤	45	史学	50周年 記念論 集	175	1999
さの	こうじ	佐野公治	羅近溪講学紀年考(一)	45	哲学	50周年 記念論 集	175	1999
しげみ	しんや	重見晋也	UNIXにおけるフランス語テキスト処理について	45	文学	50周年 記念論 集	189	1999
よしだ	じゅん	吉田純	『蘇斎筆記』訳注稿—経・書	45	哲学	50周年 記念論 集	193	1999
むらかみ	まなぶ	村上學	八坂系平家物語巻第二の第三類本文に関する一考察 —— 本文分類の一つの手懸りとして ——	45	文学	50周年 記念論 集	207	1999
いとう	けんじ	伊藤健司	名古屋市名東区にみる大都市縁辺部業務地域の特性	45	史学	50周年 記念論 集	207	1999

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かみお	みつお	神尾美津雄	贖罪の風景—地球生成物語における自然観—	45	文学	50周年 記念論 集	231	1999
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉幕府の寺社政策に関する覚書	45	史学	50周年 記念論 集	231	1999
しのだ	ちわき	篠田知和基	環境文学から見たフランス文学	45	文学	50周年 記念論 集	247	1999
はが	しょうじ	羽賀祥二	一八九一年濃尾震災と死者追悼—供養塔・記念碑・記念堂の建立をめぐる—	45	史学	50周年 記念論 集	253	1999
あおやま	みきや	青山幹哉	十八世紀系図家の描く中世像—長慶寺所蔵『山田世譜』の分析—	45	史学	50周年 記念論 集	285	1999
かみや	さとし	神谷智	地券発行下の土地売買譲渡について—近代的土地所有権再考—	45	史学	50周年 記念論 集	303	1999
いのうえ	すすむ	井上進	四部分類の成立	45	史学	50周年 記念論 集	323	1999
さとう	彰一	佐藤彰一	九世紀トゥール地方の所領構造と領民の存在形態についての覚え書	45	史学	50周年 記念論 集	345	1999
わだ	みつひろ	和田光弘	年季契約奉公人再考—メリーランド植民地における転形と社会的流動性—	45	史学	50周年 記念論 集	367	1999
おがわ	まさひろ	小川正廣	オイディプスの呪い—叙事詩と悲劇—	46	文学	136	9	2000
まちだ	けん	町田健	数量詞遊離の適格性を決定する要因について	46	文学	136	55	2000
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	On adverbial Phrases Expressing Duration or Distance in the Finnish Language	46	文学	136	71	2000
たじま	いくどう	田島毓堂	意味分類別構造分析法—語彙研究法としての—	46	文学	136	83	2000
たきがわ	むつむ	滝川睦	詩神が孕む—Othelloにおける男性同士の絆—	46	文学	136	99	2000
SEVENO- GHENO	Anne-Laure	SEVENO- GHENO, Anne- Laure	Enfance : De Tolstoi a Sarraute	46	文学	136	111	2000

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
しみず	すみお	清水純夫	シラーの『オルレアン乙女』について－民族主義と国際連帯－	46	文学	136	131	2000
なかの	ひろぞう	中野弘三	客観的法性と主観的法性	46	文学	136	145	2000
しげみ	しんや	重見晋也	フランス語テキストの保存に関する覚書き	46	文学	136	163	2000
すぎやま	ひろゆき	杉山寛行、張小鋼	青木正兒博士とその資料	46	文学	136	173	2000
ちょう	しょうこう	杉山寛行、張小鋼	青木正兒博士とその資料	46	文学	136	173	2000
かみお	みつお	神尾美津雄	アルパイン・フラヌール	46	文学	136	211	2000
しのだ	ちわき	篠田知和基	フランスの口承文芸とロマン主義	46	文学	136	235	2000
やまもと	なおと	山本直人	付着炭化物の化学処理からみた縄文土器の煮炊形態	46	史学	137	1	2000
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ南部太平洋側地域の建造物に関する一考察	46	史学	137	11	2000
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	隠岐の地誌『増補隠州記』(1688)の分析	46	史学	137	39	2000
いとう	けんじ	伊藤健司、西村雄一郎、岡本耕平、長尾謙吉	合衆国・移植工場回廊における生産活動と従業員生活－日系自動車企業の工場見学ノート－	46	史学	137	67	2000
おかもと	こうへい	伊藤健司、西村雄一郎、岡本耕平、長尾謙吉	合衆国・移植工場回廊における生産活動と従業員生活－日系自動車企業の工場見学ノート－	46	史学	137	67	2000
ながお	けんきち	伊藤健司、西村雄一郎、岡本耕平、長尾謙吉	合衆国・移植工場回廊における生産活動と従業員生活－日系自動車企業の工場見学ノート－	46	史学	137	67	2000
にしむら	ゆういちろう	伊藤健司、西村雄一郎、岡本耕平、長尾謙吉	合衆国・移植工場回廊における生産活動と従業員生活－日系自動車企業の工場見学ノート－	46	史学	137	67	2000
はが	しょうじ	羽賀祥二	戦病死者の葬送と招魂－日清戦争を例として－	46	史学	137	83	2000
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	内蔵寮の進上木簡	46	史学	137	113	2000
わだ	みつひろ	和田光弘	記念碑の創るアメリカ(前編)－「最初」の植民地・独立革命・南部－	46	史学	137	131	2000
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルトの永遠真理創造説についてのノート(上)	46	哲学	138	23	2000
たむら	ひとし	田村均	私は考える、ゆえに、何があるのか？－コギトの自然化と社会化のころみ－	46	哲学	138	35	2000
かなやま	やすひら	金山弥平	プラトン自然学の始まり(下)－『パイドン』の内にアリストテレスが見たものと見過したものと－	46	哲学	138	81	2000

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いしい	きよし	石井澄	保持感覚時間が消去と潜在制止の相対的強度に及ぼす影響 —ラットの味覚嫌悪条件づけの事態における検討—	46	哲学	138	105	2000
たかはし	しんや	高橋晋也	主観的輪郭における”明るさの変容”に関する一考察—ボトムアップかトップダウンか—	46	哲学	138	113	2000
おおや	かずお	大屋和夫	幾何学的錯視における個人差—ラップトップ・コンピュータによるデータ収集—	46	哲学	138	125	2000
くろずみ	としお	黒積俊夫	経験論哲学と哲学的経験論の間—ロッカーカント—シェリング—	46	哲学	138	137	2000
さの	こうじ	佐野公治	羅近溪講学紀年考(二)	46	哲学	138	161	2000
よしだ	じゅん	吉田純	『蘇齋筆記』訳注稿—経・詩	46	哲学	138	177	2000
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	On the Case Marking of the Theme Argument of the Negative Existential Sentence in the Finnish Language	47	文学	139	1	2001
たじま	いこう	田島毓堂	コード付けの基準 —単語コードと語素コード・比較語彙論のために(その5)—	47	文学	139	13	2001
たきがわ	むつむ	滝川睦	近代初期英国における演劇論争とHamlet	47	文学	139	39	2001
GRUNDY	Thomas E.	GRUNDY, Thomas Edward	The Jaundiced “I” of Tennyson’s “Locksley Hall”	47	文学	139	53	2001
うえだ	ひろし	植田裕志	リュトブフの詩におけるアナロジー表現について	47	文学	139	67	2001
しみず	すみお	清水純夫	シラーの『ヴァレンシュタイン』について —偉大な悪人の悲劇—	47	文学	139	81	2001
SCHLARB	H. M.	SCHLARB, H. M.	Fontane in japanischer •bersetzung.Ein kritischer •berblick (II)	47	文学	139	97	2001
あまの	まさちよ	天野政千代	A Case-Theoretic Approach to the Distribution of PRO	47	文学	139	117	2001
しげみ	しんや	重見晋也	Le <<Cercle vicieux>> dans le Baudelaire de Sartre	47	文学	139	139	2001
STRUVE-DEBEAUX	Anne	STRUVE-DEBEAUX, Anne	西洋の美術と文学にみる二つの女性神話 —イブとセミラミスについて—	47	文学	139	173	2001
くぎぬき	とおる	釘貫亨	日本語学史における「音声」の発見	47	文学	139	211	2001
かみお	みつお	神尾美津雄	ゲシュタルトとしての風景 —イギリス十八世紀の自然—	47	文学	139	229	2001
しのだ	ちわき	篠田知和基	フランス文学とディオニュソス	47	文学	139	253	2001
やまもと	なおと	山本直人	縄文後・晩期土器形式群の較正暦年代と年代比較	47	史学	140	1	2001
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	南メソアメリカ太平洋側斜面の四脚付テーブル灯台座形石彫	47	史学	140	7	2001

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
うみつ	まさもと	海津正倫	Recent Studies on the Holocene Landform Evolution of Alluvial and Coastal Plains Japan	47	史学	140	27	2001
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	地域をいかに語るか	47	史学	140	37	2001
おおにし	こうじ	大西宏治	広域から生徒を集める中学校における「身近な地域学習」の授業実践—「みんなが紹介してくれた名古屋」	47	史学	140	51	2001
いけうち	さとし	池内敏	竹島一件の再検討 —元禄六～九年の日朝交渉—	47	史学	140	61	2001
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルトの永遠真理創造説についてのノート(下)	47	哲学	141	1	2001
あらかわ	けいこ	高橋晋也、白水始、加藤絹代、荒川圭子、森由香子	色と形の結合錯誤における全体構造と局所構造の影響	47	哲学	141	17	2001
かとう	きぬよ	高橋晋也、白水始、加藤絹代、荒川圭子、森由香子	色と形の結合錯誤における全体構造と局所構造の影響	47	哲学	141	17	2001
しろみず	はじめ	高橋晋也、白水始、加藤絹代、荒川圭子、森由香子	色と形の結合錯誤における全体構造と局所構造の影響	47	哲学	141	17	2001
たかはし	しんや	高橋晋也、白水始、加藤絹代、荒川圭子、森由香子	色と形の結合錯誤における全体構造と局所構造の影響	47	哲学	141	17	2001
もり	ゆかこ	高橋晋也、白水始、加藤絹代、荒川圭子、森由香子	色と形の結合錯誤における全体構造と局所構造の影響	47	哲学	141	17	2001
ろ	とみこ	魯富子	在日コリアンと同姓組織 —全州李氏同姓組織を事例にして—	47	哲学	141	29	2001
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	On the So-called Status Construction in the Finnish Language	48	文学	142	1	2002
たじま	いこう	田島毓堂	日本語接中辞論	48	文学	142	11	2002
たきがわ	むつむ	滝川睦	Measure for Measure における中傷と恩赦	48	文学	142	23	2002
しのだ	ちわき	篠田知和基	フランスのデーモン	48	文学	142	37	2002
しみず	すみお	清水純夫	レッシングの『エミーリア・ガロッチィ』について —エミーリアの重層構造—	48	文学	142	53	2002

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
なかむら	おさむ	中村修	テーオドル・シュトルム『分身』における名誉の回復と精神の救済—運命の必然性と社会批判を超えたところにあるもの—	48	文学	142	69	2002
あまの	まさちよ	天野政千代	On the Syntactic Status of Indirect and Direct Objects in English	48	文学	142	89	2002
たなか	ともゆき	田中智之	英語史における主語位置と他動詞虚辞構文	48	文学	142	115	2002
なかむら	やすこ	中村靖子	「実存の経験」から「主体の死の後の主観性」へ辿り着くまで—	48	文学	142	135	2002
すぎやま	ひろゆき	杉山寛行、張小鋼	青木正兒博士とその資料(中)	48	文学	142	159	2002
ちょう	しょうこう	杉山寛行、張小鋼	青木正兒博士とその資料(中)	48	文学	142	159	2002
わたなべ	まこと	渡辺誠	略歴・業績目録	48	史学	143	1	2002
わたなべ	まこと	渡辺誠	時宗僧侶の阿弥衣の研究	48	史学	143	9	2002
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	南メソアメリカ太平洋側斜面における片面浮彫りについて	48	史学	143	41	2002
おおにし	こうじ	大西宏治	名古屋市緑区鳴海町における地域ボランティアによる子どもの「まち」探検プログラムの実践と総合的学習への提言	48	史学	143	67	2002
いなば	のぶみち	稲葉伸道	尾張の国真福寺の成立—中世地方寺院の一形態—	48	史学	143	81	2002
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	史料紹介「延享四年開闔解陣勅符写」	48	史学	143	105	2002
やまだ	ひろあき	山田弘明	カントと「デカルト的観念論」	48	哲学	144	1	2002
かなやま	やすひら	金山弥平	アンドリュウ・ベンジャミン「別の抽象、別の形—ヘーゲル、セザンヌ、リヒター—」(翻訳)	48	哲学	144	19	2002
にべ	のぶひこ	丹辺宣彦	初期マルクスの階級把握と唯物論のプロブレマティーク—集団形成の理論をめぐって—	48	哲学	144	35	2002
たかはし	しんや	高橋晋也	視環境心理学の試み(1)—外国人留学生から見た名古屋市地下鉄・市バスの視覚案内表示環境—	48	哲学	144	53	2002
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	Non-lexical Case Assignment in the Finnish Language	49	文学	145	1	2003
たじま	いこう	田島毓堂	比較語彙論への批判と対応	49	文学	145	13	2003
たきがわ	むつむ	滝川睦	中傷・主体性・自己劇化—Othello—	49	文学	145	27	2003
うえだ	ひろし	植田裕志	列挙のアレゴリーと記憶術	49	文学	145	37	2003
しみず	すみお	清水純夫	ゲルハルト・ハウプトマンの短編小説『踏切番ティール』について	49	文学	145	53	2003
なかむら	やすこ	中村靖子	「生まれ出ざる者」の抵抗—不在、もしくは不在の彼方で—	49	文学	145	63	2003

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
SCHLARB	H. M.	SCHLARB, H. M.	Die Darstellung des Judentums in Raabes Holunderbl-te	49	文学	145	91	2003
あまの	まさちよ	天野政千代	A Syntactic Analysis of Genitive Forms in Present-Day English	49	文学	145	105	2003
くぎぬき	とおる	釘貫亨	「喉音三行弁」論争史—近世仮名遣い論の本質規定—(下篇)	49	文学	145	125	2003
えむら	はるき	江村治樹	戦国時代尖足布・方足布の性格	49	史学	146	1	2003
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ南部太平洋側地域における人物石像	49	史学	146	47	2003
うみつ	まさもと	海津正倫	2000年9月東海豪雨野並地区水害の微地形学的検討	49	史学	146	71	2003
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉期における青蓮院門跡の展開	49	史学	146	81	2003
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	祢布ヶ森遺跡出土の題籤軸	49	史学	146	97	2003
かとう	じゅんしょう	加藤純章	略歴・業績目録	49	哲学	147	1	2003
やまだ	ひろあき	山田弘明	カントのコギト解釈	49	哲学	147	5	2003
たむら	ひとし	田村均	ルース・ベネディクトの哲学的立場—文化相対主義と西欧近代思想—	49	哲学	147	25	2003
たかはし	しんや	高橋晋也	視環境心理学の試み(2)—視覚的プレザントネスの可能性と問題点—	49	哲学	147	61	2003
たけうち	ひろゆき	竹内弘行	康有為『日本書目志』の一考察	49	哲学	147	77	2003
よしだ	じゅん	吉田純	閨家の四十年	49	哲学	147	97	2003
たなか	きみはる	田中喜美春	田中喜美春教授略歴・主要業績目録	50	文学	148	1	2004
たじま	いくどう	田島毓堂	田島毓堂教授略歴・主要業績目録	50	文学	148	5	2004
さくま	じゅんいち	佐久間淳一	Causative Psych-Predicates in the Finisch Language	50	文学	148	23	2004
たじま	いくどう	田島毓堂	『窓際のトットちゃん』語彙データ	50	文学	148	37	2004
たきがわ	むつむ	滝川睦	Queen Mabはどこからきたのか—Romeo and Juliet における Queen Mab speech をめぐって—	50	文学	148	51	2004
うえだ	ひろし	植田裕志	擬人化のアナロジー図式—中世アレゴリー文学への認知科学的アプローチ—	50	文学	148	63	2004
しみず	すみお	清水純夫	トーマス・マンの短編小説『マーリオと魔術師について』—顧客と語り手の偽善性—	50	文学	148	83	2004
なかむら	やすこ	中村靖子	メランコリー, ムネモジュネー, ユートピア—ゲオルク・トラークルの『グローデク』解釈の試み—	50	文学	148	95	2004
SCHLARB	H. M.	SCHLARB, H. M.	Raabes Hungerpastor und seine Rezeption	50	文学	148	119	2004
しげみ	しんや	重見晋也	Le Parall-lisme entre les Sept Couleurs et Polyeuacte	50	文学	148	137	2004
かみお	みつお	神尾美津雄	リアリティ・クライシス—ポール・オースターのNY三部作—	50	文学	148	155	2004
はやし	けんいちろう	林謙一郎	大理国史研究の視角	50	史学	149	1	2004

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	南メソアメリカ海岸地帯出土石碑の形	50	史学	149	21	2004
うみつ	まさもと	海津正倫、V. L. Nguyen、T. K. O. Ta	メコンデルタにおける2000年水害と地形環境	50	史学	149	57	2004
Nguyen	V. L.	海津正倫、V. L. Nguyen、T. K. O. Ta	メコンデルタにおける2000年水害と地形環境	50	史学	149	57	2004
Ta	T. K. O.	海津正倫、V. L. Nguyen、T. K. O. Ta	メコンデルタにおける2000年水害と地形環境	50	史学	149	57	2004
おかもと	こうへい	岡本耕平、奥貫圭一、森田匡俊	ハンディキャップを考慮した経路情報提供の試み	50	史学	149	71	2004
おかもと	こうへい	岡本耕平、奥貫圭一、森田匡俊	ハンディキャップを考慮した経路情報提供の試み	50	史学	149	71	2004
もりた	まさとし	岡本耕平、奥貫圭一、森田匡俊	ハンディキャップを考慮した経路情報提供の試み	50	史学	149	71	2004
あべ	やすひさ	阿部康久	大連における植民地時代の建造物と観光開発	50	史学	149	85	2004
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	杯蓋硯考—「転用」概念の再検討—	50	史学	149	103	2004
かすが	ゆたか	春日豊	戦争と財閥商社—アジア太平洋戦争下の三井物産(上)—	50	史学	149	113	2004
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルトと医学	50	哲学	150	1	2004
たむら	ひとし	田村均	私は考えるとは、何をする事なのか？—心の理論に関する発達心理学の最近の研究から—	50	哲学	150	41	2004
よしだ	じゅん	吉田純	龔自珍の小学—青春と学問と—	50	哲学	150	93	2004
もりもと	としゆき	森本俊之	笑いの機制とそれが表すもの—発話に附属する笑いを中心に—	51	文学	151	1	2005
みやち	あさこ	宮地朝子	「おく「より」」の背景—富士谷成章の学説と助詞「より」にかかる文法史—	51	文学	151	17	2005
たきがわ	むつむ	滝川睦	"But Masters, Remember That I Am an Ass"—Much Ado about Nothing における邪視と中傷—	51	文学	151	37	2005
うえだ	ひろし	植田裕志	ライオンに乗った奥方—中世アレゴリー文学における "senefiance" について	51	文学	151	51	2005
なかむら	やすこ	中村靖子	帰ってきた放蕩息子たち—『シュティラー』と『マルテの手記』を繋ぐもの—	51	文学	151	67	2005
かじわら	よしみ	梶原義実	国分寺系瓦の広域展開—日本海沿岸地域を中心に—	51	史学	152	1	2005
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ先古典期における植物遺存体に関する一考察	51	史学	152	25	2005

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
かすが	ゆたか	春日豊	戦争と財閥商社(下) —アジア太平洋戦争下の三井物産—	51	史学	152	47	2005
いけうち	さとし	池内敏	「大君」号の歴史的 성격	51	史学	152	77	2005
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルト「ソルボンヌ書簡」の研究	51	哲学	153	1	2005
たむら	ひとし	田村均	功利主義者が自己犠牲をするとき	51	哲学	153	23	2005
と	とみこ	魯富子	ハワイにおけるコリアン・コミュニティの生成と展開過程	51	哲学	153	59	2005
かみつか	よしこ	神塚淑子	霊宝経における経典神聖化の論理—原始旧経の「開劫度人」説をめぐって—	51	哲学	153	71	2005
FUJIKI	Hideaki		American Film Star Unsettling Japanese Culture: A Cross-Cultural Analysis of Clara Bow's Image in 1920s Japan	1	JSL		1	2005
TSUBOI	Hideto		Voraussetzungen zur kritischen Auseinandersetzung mit Kriegsgedichten der japanischen Moderne	1	JSL		149	2005
SAKUMA	Jun'ichi		On the Quantifying Sentence in the Finnish Language	1	JSL		31	2005
TANAKA	Tomoyuki		C, T, and Case/Agreement : A Unified Analysis of Finite and Nonfinite Clauses	1	JSL		91	2005
SHIMIZU	Sumio		Kleists „Prinz Friedrich von Homburg” – Gehorsam und Humanität –	1	JSL		159	2005
TAMURA	Hitoshi		The Modern Concept of Man and Hume on Personal Identity	1	JSL		19	2005
MIZOGUCHI	Tsunetoshi		Spatial Differentiation in the Nobi Core: Villages and Towns in Owari, Central Japan, 1672-1822	1	JSL		127	2005
OHYA	Kazuo		Simple Figures and Perceptions in Depth	1	JSL		107	2005
たきがわ	むつむ	滝川睦	“Here's a Fellow Frights /English out of His Wits”—The Merry Wives of Windsor におけるEnglishness—	52	文学	154	1	2006
しみず	すみお	清水純夫	シラーの戯曲『たくらみと恋』について—自滅する主人公たち—	52	文学	154	9	2006
さかきばら	ちづる	榊原千鶴	武家に娘が嫁ぐとき—『月庵醉醒記』所収「御文十箇条」と『幻庵覚書』を手掛かりとして—	52	文学	154	21	2006
かみお	みつお	神尾美津雄	リアリティ・クライシス—ヴァージニア・ウルフの存在の時—	52	文学	154	33	2006
なかむら	やすこ	中村靖子	ひとつの性というユートピア—トラークルの詩『少年エーリスに寄す』における魂の追憶—	52	文学	154	55	2006
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	伊勢物語・東下り章段についての試論	52	文学	154	87	2006
かじわら	よしみ	梶原義実	古代伊勢における官営瓦工場	52	史学	155	1	2006
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ先古典期文化研究に関する諸問題	52	史学	155	19	2006
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	尾張藩士朝日文左衛門の描く妻の身体と外出行動	52	史学	155	49	2006

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
はが	しょうじ	羽賀祥二	治水・治山をめぐる歴史文化—名所図会と地域環境史研究—	52	史学	155	65	2006
やまだ	ひろあき	山田弘明	カントとデカルト的証明	52	哲学	156	1	2006
たむら	ひとし	田村均	「考える私」以前—デカルト的自我と幼児の自己認識—	52	哲学	156	27	2006
ささき	しげひろ	佐々木重洋	花祭りにおける「面」の扱われ方について—愛知県北設楽郡東栄町古戸の事例から—	52	哲学	156	75	2006
たぶち	ろくろう	田淵六郎	都心高齢者のパーソナル・ネットワーク:名古屋市における調査結果から	52	哲学	156	97	2006
かみつか	よしこ	神塚淑子	隋代の道教造像	52	哲学	156	111	2006
WADA	Mitsuhiro		Running from Bondage : An Analysis of the Newspaper Advertisements of RunawaySlaves in Colonial Maryland and Georgia	2	JSL		11	2006
NAKAMURA	Yasuko		Die Sehnsucht nach dem nie gewesenen Leben : Die Aufzeichnungen von Anatol Ludwig Stiller und Malte Laurids Brigge	2	JSL		43	2006
OHYA	Kazuo		Simple Figures and Perceptions in Depth (2) : Stereo Capture	2	JSL		59	2006
SAKUMA	Jun'ichi		On the Diachronic Development of the Permissive Construction in the Finnish Language	2	JSL		1	2006
たきがわ	むつむ	滝川睦	Christopher Sly はどこへ消えたのか—The Taming of the Shrew と近代初期英国における放浪との関連性について—	53	文学	157	1	2007
うえだ	ひろし	植田裕志	異界の騎士ペルレスヴォー	53	文学	157	15	2007
しみず	すみお	清水純夫	シラーの戯曲『ヴィルヘルム・テル』について—真の主人公メルヒター—	53	文学	157	37	2007
SCHLARB	H.M.	H.M.シュラルプ	W・ラーベの作品群におけるユダヤ人像—『ライラックの花』の意義を求めて—	53	文学	157	59	2007
よしたけ	すみお	吉武純夫	カロス・タナトスとは何か: Tyraitosの戦死論	53	文学	157	87	2007
かまだ	たかゆき	鎌田隆行	バルザック『幻滅』の生成過程について—差異化と統合化—	53	文学	157	111	2007
さかきばら	ちづる	榊原千鶴	「りんき」のおさめどころ—『月庵醉醒記』中巻「男女のうはさ」にみる世俗性—	53	文学	157	123	2007
かみお	みつお	神尾美津雄	W・ゴールディングのリアリティ・モンタージュ	53	文学	157	137	2007
かじわら	よしみ	梶原義実	手工業生産からみた奈良・平安期の地方社会	53	史学	158	1	2007
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸、柴田潮音	チャルチュアパ遺跡タスマル地区B1-1建造物南側より出土した供物に関する—考察	53	史学	158	13	2007
たけうち	ひろゆき	竹内弘行	略歴・業績目録	53	哲学	159	1	2007

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
やまだ	ひろあき	山田弘明	デカルトの神—自由と決定	53	哲学	159	7	2007
たむら	ひとし	田村均	デイヴィッドソンにおけるキリスト教的フォーク・サイコロ ジー	53	哲学	159	29	2007
ささき	しげひろ	佐々木重洋	アフリカにおける「妖術告白」をめぐって—クロス・リ ヴァー諸社会の事例から—	53	哲学	159	69	2007
NAKAMURA	Yasuko		Der Körper im sprachlich evozierten Zeitraum : Ü berlegungen zur Metamorphose in Trakls An den Knaben Elis	3	JSL		49	2007
SAKUMA	Jun'ichi		On the Present Participle Passive and the First Infinitive in the Finnish Language	3	JSL		25	2007
UNEBE	Toshiya		Three Stories from the Thai Recension of the Paññāsa-j ātaka : Transliteration and Preliminary Notes	3	JSL		1	2007
おがわ	まさひろ	小川正廣	ダンテにおけるウェルギリウス—『神曲』は叙事詩か—	54	文学	160	1	2008
よしたけ	すみお	吉武純夫	スキュラの餌食:オデュッセウスの苦悩	54	文学	160	25	2008
たきがわ	むつむ	滝川睦	"O, How This Mother Swells Up My Heart!" —King Lear における放浪の諸相—	54	文学	160	39	2008
うえだ	ひろし	植田裕治	パエトンの墜落—『寓意オウィディウス』におけるアレゴ リーについて	54	文学	160	53	2008
しみず	すみお	清水純夫	レッシングの『ミス・サラ・サンプソン』について—解放され た女性—	54	文学	160	69	2008
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	清原俊蔭と小野篁—『うつほ物語』発端の基盤—	54	文学	160	81	2008
かみお	みつお	神尾美津雄	ブルジョア・リアリティの転覆—ジョゼフ・コンラッド『シーク レット・エージェント』&「ハート・オヴ・ダークネス」—	54	文学	160	91	2008
わざき	はるか	和崎春日	滞日アフリカ人のアソシエーション設立行動と集会活動 —滞日カメルーン人の協力ネットワークと階層性	54	史学	161	1	2008
みた	まさひこ	三田昌彦	施与勅書と王権—プラティーハーラ朝勅書様式に見える サーマンタ体制—	54	史学	161	21	2008
きまた	もとかず	木俣元一	「印章と刻印: 西欧中世におけるイメージの隠喩」(上)	54	史学	161	45	2008
かじわら	よしみ	梶原義実	横置型—本作り軒丸瓦の諸技法とその年代	54	史学	161	59	2008
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	ロス・ナランホスからみた先スペイン期都市の政治史に 関する—考察	54	史学	161	83	2008
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	古代の鑄銅	54	史学	161	105	2008
わだ	みつひろ	和田光弘	ジョージ・ワシントンの「帝国」—独立革命期における「帝 国」の語の使用に関する—考察	54	史学	161	129	2008
やまだ	ひろあき	山田弘明	略歴・業績	54	哲学	162	1	2008
やまだ	ひろあき	山田弘明	神と精神—デカルトの形而上学と世界観—	54	哲学	162	7	2008

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
たむら	ひとし	田村均	服従と犠牲—柏端達也『自己欺瞞と自己犠牲』をめぐって—	54	哲学	162	43	2008
かみつか	よしこ	神塚淑子	司馬承禎と天台山	54	哲学	162	79	2008
Nibe	Nobuhiko		Cities and Class Structure in the Advanced industrial Area: Industrial Globalization during 30-year Period in Aichi	4	JSL		51	2008
Goebel	Zane		Enregistering Ethnicity and Hybridity in Indonesia	4	JSL		37	2008
Sakuma	Jun'ichi		Numerical Phrases in the Finnish Language	4	JSL		1	2008
あまの	まさちよ	天野政千代	略歴・業績目録	55	文学	163	1	2009
たきがわ	むつむ	滝川睦	Coriolanusにおける放浪と女性化をめぐる不安	55	文学	163	11	2009
しみず	すみお	清水純夫	グリルパルツァーの戯曲『オトカル王の栄華と最期』について—オトカル王のヒューマニズムへのめざめ—	55	文学	163	25	2009
おがわ	まさひろ	小川正廣	古代叙事詩における戦争と平和—ホメロスとウエルギリウス—	55	文学	163	39	2009
うえだ	ひろし	植田裕治	ロオの死—『ペルレスヴォー』における編み合わせの手法について	55	文学	163	69	2009
あべ	やすろう	阿部泰郎	中世宗教思想文献の研究〔三〕—架蔵『輪王灌頂口伝』翻印と解題	55	文学	163	97	2009
かとう	くにやす	加藤国安	中国社会科学院蔵青木正児書簡について—胡適との往復書簡	55	文学	163	115	2009
さかきばら	ちづる	榊原千鶴	明治二十四年の『からすまる帖』—福羽美静にみる戦略としての近代女性教育—	55	文学	163	143	2009
さとう	しょういち	佐藤彰一	略歴・業績	55	史学	164	1	2009
わかお	ゆうじ	若尾祐司	略歴・業績	55	史学	164	17	2009
やまもと	なおと	山本直人	環状木柱列からみた縄文時代晩期の地域社会	55	史学	164	25	2009
かじわら	よしみ	梶原義実	国分寺研究における諸問題	55	史学	164	39	2009
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸、柴田潮音、南博史	チャルチュアパ遺跡(エル・サルバドル共和国)の先古典期後期に関する一考察	55	史学	164	55	2009
いなば	のぶみち	稲葉伸道	弘安寺社興行政策の源流について—鎌倉時代前半期における王朝の寺社政策の展開—	55	史学	164	81	2009
はが	しょうじ	羽賀祥二	一八八〇～九〇年代における岐阜県中濃地域の洪水について—『西白川村河岐島組文書』の紹介—	55	史学	164	99	2009
いけうち	さとし	池内敏	安龍福英雄伝説の形成・ノート	55	史学	164	125	2009
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	平安時代の梵鐘生産	55	史学	164	143	2009
たむら	ひとし	田村均	フリ・まね・演技の行為論的分析 —ゴッコ遊びの認知と行動—	55	哲学	165	1	2009
OHYA	Kazuo		Measurement of the Kanizsa Illusion Using Stereopsis	5	JSL		47	2009

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
Schlarb	Hans-Michael		Angstmechanismen. Sozialpsychologische und politische Faktoren in Effi Briest	5	JSL		31	2009
SAKUMA	Jun'ichi		Case Marking and Word Order in the Finnish Language	5	JSL		17	2009
KANAYAMA	Yahei		What is It Like to Know Platonic Forms? : Knowing Meno, the Power of Dialogue, and the Cave and the Line	5	JSL		1	2009
みやち	あさこ	宮地朝子	「ほか」の諸用法と名詞句の多様性	56	文学	166	1	2010
たきがわ	むつむ	滝川睦	近代初期英国における演劇反対論的言説とThe Two Gentlemen of Verona	56	文学	166	19	2010
しみず	すみお	清水純夫	フォンターネの長編小説『縊りは戻せず』について	56	文学	166	33	2010
なかむら	やすこ	中村靖子	「妻殺し」の夢を見る夫たち—M・フリッシュにおける非現実的なもののトポロジー—	56	文学	166	49	2010
たなか	ともゆき	田中智之	EPP再考: 英語史における主語の分布を証拠として	56	文学	166	83	2010
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	『うつほ物語』作中人物覚書—三奇人の造型をめぐる—	56	文学	166	99	2010
かとう	くにやす	加藤国安	盛唐の復古論者・李華の意識変革論	56	文学	166	113	2010
さかきばら	ちづる	榊原千鶴	「世界の花とならむ事を望む」—跡見花蹊にみる”知”の継承と明治初期の女性教育—	56	文学	166	135	2010
えむら	はるき	江村治樹	中国における古代青銅貨幣の生成と展開(六)—楚貝貨の性格—	56	史学	167	1	2010
かのう	おさむ	加納修	家臣制の象徴儀礼についての覚え書き —フェストウーカを手がかりとして—	56	史学	167	41	2010
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代晩期における気候変動と土器型式の変化	56	史学	167	59	2010
かじわら	よしみ	梶原義実	古代寺院と行基集団 —和泉地域における奈良時代寺院の動向と「行基四十九院」—	56	史学	167	69	2010
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ南端におけるオルメカ文化の影響に関する一考察	56	史学	167	87	2010
たむら	ひとし	田村均	思想史的概念に関する実験哲学的調査の報告 —「近代」、「個人主義」、「意志」—	56	哲学	168	1	2010
みずの	みほ	水野美穂	ひとはなぜ他殺するのか	56	哲学	168	25	2010
SAKUMA	Jun'ichi		The Causative Constructions in the Finnish Language	6	JSL		17	2010
たきがわ	むつむ	滝川睦	国王のスペクタクルとマスターレス・マン —Macbethにおける宴の場再考—	57	文学	169	1	2011
しみず	すみお	清水純夫	ヘッベルの戯曲『ギューゲスと彼の指輪』について —反人道的権力犯罪—	57	文学	169	15	2011
よしたけ	すみお	吉武純夫	エー・カロース・テツネーケナイ: Aiasの悲劇的課題	57	文学	169	27	2011

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
うえだ	ひろし	植田裕志	恋愛についてどのように語るか —クレチヤン・ド・トロワ『クリジエス』	57	文学	169	47	2011
はく	みながく	白明学	受身形式の多様性と構文的特徴	57	文学	169	69	2011
かとう	くにやす	加藤国安	子規「五台山下の路」論 —子規文庫の仏教世界	57	文学	169	83	2011
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	竹取物語の和歌	57	文学	169	113	2011
ひび	よしたか	日比嘉高	写実小説のジレンマ —島崎藤村とモデル問題	57	文学	169	125	2011
すとう	よしゆき	周藤芳幸	採掘場のヘレニズム —前3世紀エジプト領域部の文化変容をめぐって—	57	史学	170	1	2011
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代の打欠石錘の用途に関する一考察	57	史学	170	19	2011
かじわら	よしみ	梶原義実	エルサルバドル共和国におけるスペイン瓦の生産について	57	史学	170	47	2011
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカにおける巨石人頭像と大型人頭像	57	史学	170	65	2011
みた	まさひこ	三田昌彦	チャウルキヤ朝宗主勅書様式論	57	史学	170	87	2011
なかがわら	いくこ	中川原育子	キジル第81窟のスターナ太子本生壁画について	57	史学	170	109	2011
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉後期の幕府寺社裁判制度について	57	史学	170	131	2011
はが	しょうじ	羽賀祥二	一八九一年濃尾地震と地域社会の動向 —尾張北部・西部地域の被害と対応について—	57	史学	170	151	2011
わだ	みつひろ	和田光弘	デジタル史料のなかのワシントン —礼儀・プレジデント・懐中時計	57	史学	170	179	2011
おおいし	かずよし	大石和欣	「精神の所有物」の継承～ナショナル・トラストと環境思想	57	哲学	171	1	2011
うねべ	としや	畝部俊也	『シヴァターンダヴァ・ストートラ』和訳研究	57	哲学	171	19	2011
SAKUMA	Jun'ichi		“Deficient” Case Marking System of the Finnish Language	7	JSL		33	2011
KAJIWARA	Yoshimitsu		Producción de la Teja Castellana en la República de El Salvador	7	JSL		15	2011
ICHIKAWA	Akira		Producción de la Teja Castellana en la República de El Salvador	7	JSL		15	2011
TAMURA	Hitoshi		“Will” and “Ishi” : Explanation of Action in Cross-Cultural Perspectives	7	JSL		1	2011
たかはし	とおる	高橋亨	略歴・業績目録	58	文学	172	1	2012
たきがわ	むつむ	滝川睦	Twelfth NightにおけるViolaのフィギュレノポジツィオン	58	文学	172	13	2012
なかむら	やすこ	中村靖子	「汝、偶像をつくるなかれ」 —フリッシュの掌編「ストーリー」に関する情動の生態学的考察—	58	文学	172	25	2012
たなか	ともゆき	田中智之	再構成と非定形節における機能範疇の出現	58	文学	172	69	2012
やすい	えいこ	安井永子	接続詞「でも」の会話分析研究 —悩みの語りに対する理解・共感の提示において—	58	文学	172	89	2012

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	明石入道論	58	文学	172	103	2012
えむら	はるき	江村治樹	略歴・業績	58	史学	173	1	2012
かすが	ゆたか	春日豊	略歴・業績	58	史学	173	11	2012
えむら	はるき	江村治樹	河南竜山・二里頭・殷周都市の特質 —2011年、中国古代都市遺跡調査報告—	58	史学	173	17	2012
すとう	よしゆき	周藤芳幸	都市アレクサンドリアと初期ヘレニズム時代の東地中海世界 —セーマ・大灯台・図書館—	58	史学	173	49	2012
わだ	みつひろ	和田光弘	18世紀アメリカに関するデジタル史料と未刊行手稿資料(1) —ワシントン・懐中時計・差押さえ令状—	58	史学	173	67	2012
やまもと	なおと	山本直人	建物から見た手取川扇状地の縄文晩期社会	58	史学	173	113	2012
かじわら	よしみ	梶原義実	伊勢地域における古代寺院の選地	58	史学	173	131	2012
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	テワンテベック地峡以南におけるオルメカ文明の影響の波及に関する一考察	58	史学	173	149	2012
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉中・後期における王朝の神社政策と伊勢神宮	58	史学	173	177	2012
いけうち	さとし	池内敏	以酏庵輪番制廃止論議	58	史学	173	199	2012
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	国司と神宝	58	史学	173	225	2012
たむら	ひとし	田村均	虚構の語りと言語行為論	58	哲学	174	1	2012
ささき	しげひろ	佐々木重洋	仮面と物質性: 仮面論の再考に向けて	58	哲学	174	31	2012
やべ	しんご	谷部真吾	祭りの変化と社会状況 —見付天神裸祭りにおける1960~61年の変化を事例として—	58	哲学	174	53	2012
SUTO	Yoshiyuki		AKORIS: An Archaeology of the Chora in Ptolemaic Egypt	8	JSL		19	2012
SAKUMA	Jun'ichi		Objecthood of the Elative Argument of the Finnish Language	8	JSL		33	2012
KATO	Kumiko		Tributes and Corvée Imposed by Moeng Cheng Hung of Sipsongpanna in the First Half of the 20th Century : Analyses from a Tai Manuscript	8	JSL		1	2012
おがわ	まさひろ	小川正廣	メゼンティウスと日本鬼子(リーベン・クイズ) —ウェルギリウスの叙事詩と日本兵の歴史的体験に関する比較考察—	59	文学	175	1	2013
たきがわ	むつむ	滝川睦	着衣と脱衣の詩学 —Shakespeare喜劇における—	59	文学	175	35	2013
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	伊勢物語・二条后章段の諸相	59	文学	175	55	2013
みぞぐち	つねとし	溝口常俊	略歴・業績	59	史学	176	1	2013
わだ	みつひろ	和田光弘	18世紀アメリカに関するデジタル史料と未刊行手稿資料(2) —ワシントン・モリス・軍票—	59	史学	176	15	2013
やまもと	なおと	山本直人	縄文晩期の手取川扇状地における外来系土器の移入形態	59	史学	176	61	2013

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ南東部太平洋側の石彫上面にある凹みについての一考察	59	史学	176	73	2013
いなば	のぶみち	稲葉伸道	弘長三年東寺観智院金剛蔵所蔵「仁和寺興隆儉約等條々」について	59	史学	176	99	2013
はが	しょうじ	羽賀祥二	天皇制と稲作儀礼	59	史学	176	123	2013
たむら	ひとし	田村均	虚構制作の根源性 —ケンダル・ウォルトンの虚構論—	59	哲学	177	1	2013
うねべ	としや	畝部俊也	パンニャーサ・ジャータカに説かれる捨身の目的 —「声聞、独覚の栄達(sampatti)を求めず」をめぐって—	59	哲学	177	35	2013
かみつか	よしこ	神塚淑子	国立国会図書館所蔵の敦煌道教写本	59	哲学	177	59	2013
SAKUMA	Jun'ichi		Reflexive Verbs and Anti-causativity in the Finnish Language	9	JSL		21	2013
KANAYAMA	Yasuhisa (Yahei)		Recognition, Concept Formation and Knowledge: Preliminary Consideration for the Theory of Recollection in Plato's Phaedo	9	JSL		1	2013
NAKAMURA	Yasuko		Die Ethologie des "Affekts" : Von Spinoza bis Freud	9	JSL		33	2013
おがわ	まさひろ	小川正廣	ウェルギリウス『アエネイス』の結末と戦争の罪責	60	文学	178	1	2014
たきがわ	むつむ	滝川睦	女王と毒入りワインの杯 —Hamletにおける忘却と記憶術—	60	文学	178	37	2014
なかむら	やすこ	中村靖子	「証拠不十分につき、無罪」 —マックス・フリッシュ『青髭』における「妻殺しの夢」のあと—	60	文学	178	51	2014
やすい	えいこ	安井永子	語りの開始にともなう他者への指さし —多人数会話における指さしのマルチモーダル分析—	60	文学	178	85	2014
うえだ	ひろし	植田裕志	『クリジェス』における"cuere"について	60	文学	178	101	2014
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	老いらくの恋 —『伊勢物語』第六十三段とその周辺—	60	文学	178	129	2014
すとう	よしゆき	周藤芳幸	南部エジプト大反乱と東地中海世界	60	史学	179	1	2014
わだ	みつひろ	和田光弘	18世紀アメリカに関するエフェメラ —ワシントン・受領証・手形—	60	史学	179	17	2014
かじわら	よしみ	梶原義実	国分尼寺の造営過程に関する基礎的考察	60	史学	179	57	2014
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ南東部太平洋側の動物形象祭壇についての一考察	60	史学	179	69	2014
いなば	のぶみち	稲葉伸道	鎌倉末期の王朝の寺社政策 —正安三年～元亨元年期について—	60	史学	179	103	2014
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	古代の漆工	60	史学	179	125	2014
たむら	ひとし	田村均	権力の下での行為 —日本人戦犯の心理と行為の演技論的考察—	60	哲学	180	1	2014
かみつか	よしこ	神塚淑子	仏典『温室経』と道典『洗浴経』	60	哲学	180	57	2014
よしだ	じゅん	吉田純	「尚書集注音疏術」と『説文解字注』の符合挙例	60	哲学	180	85	2014

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
Sonoda	Akiko		Henry C. Carey, Publisher and Economist, on International Copyright	10	JSL		13	2014
Sakuma	Jun'ichi		On the Tripartite System of Case Marking in the Finnish Language	10	JSL		1	2014
かとう	くにやす	加藤國安	略歴・業績	61	文学	181	1	2015
おがわ	まさひろ	小川正廣	ホロメスの環は閉じられない —古代叙事詩の再生をめぐる—(1)	61	文学	181	9	2015
たきかわ	むつむ	滝川睦	『十二夜』における寡婦としてのオリヴィア	61	文学	181	37	2015
なかむら	やすこ	中村靖子	「監獄はただ心の中に……」 —マックス・フリッシュのスイス批判—	61	文学	181	53	2015
たなか	ともゆき	田中智之	古英語における目的語移動と左周縁部	61	文学	181	71	2015
すぎぶち	よういち	杉淵洋一	谷川徹三に継承された有島武郎の審美眼	61	文学	181	89	2015
しげみ	しんや	重見晋也	『コレージュ・スピリチュエル』としての『ボードレール』	61	文学	181	113	2015
たむら	かよこ	田村(大田)加代子	『説文解字』『許斂』の「庶業其繁」句について —「其」字の解釈をめぐる—	61	文学	181	127	2015
やました	ひろあき	山下宏明	堀田善衛の「家」と文学 —『酔漢』を読む—	61	文学	181	149	2015
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	〈女はらから〉の物語史	61	文学	181	165	2015
ひび	よしたか	日比嘉高	〈芸術性〉をいかに裁くか —三島由紀夫「宴のあと」、高橋治「名もなき道を」、柳美里「石に泳ぐ魚」—	61	文学	181	181	2015
ながい	しんぺい	永井真平	「草莽」の変遷 —折口信夫におけるその意味—	61	文学	181	203	2015
かわぐち	ひろし	川口洋史	「小歴1144年(1782)における王朝および官僚の叙任に関する協議書写し」テキストと注釈 —ラタナコーシン朝ラーマー世王政権についての—史料—	61	史学	182	1	2015
まえだ	ともみ	前田朋美	グスタフ・クリムトの《ベートーヴェン・フリーズ》の素描について —線描写における可能性—	61	史学	182	35	2015
やまもと	なおと	山本直人	サステイナブル・コミュニティとしての縄文時代後晩期の地域社会	61	史学	182	57	2015
おくぬき	けいいち	奥貫圭一	小地域データによる上海市の年齢別人口分布の考察	61	史学	182	75	2015
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	メソアメリカ南東部太平洋側のヒトの顔が彫られた祭壇についての—考察	61	史学	182	91	2015
はが	しょうじ	羽賀祥二	濃尾震災記念堂の建立と維持	61	史学	182	117	2015
わだ	みつひろ	和田光弘	ワシントン「告別演説」の日付に関する—考察	61	史学	182	141	2015
しまだ	よしひと	嶋田義人	略歴・業績	61	哲学	183	1	2015
たむら	ひとし	田村均	善と個人 —個人における共同的な善への服従について—	61	哲学	183	15	2015
みやはら	いさむ	宮原勇	フッサール初期時間論の基本概念とアポリア(I)	61	哲学	183	45	2015

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
はしもと	さとし	橋本哲	ヒュームとヴィトゲンシュタイン — 懐疑論に対するストローソンの自然主義を批判する—	61	哲学	183	75	2015
うねべ	としや	畝部俊也	梵文『仏頂尊勝陀羅尼經』と諸訳の対照研究	61	哲学	183	97	2015
かわい	だいすけ	川合大輔	1910年代後半における土田杏村の思想と科学の両輪	61	哲学	183	147	2015
しまだ	よしひと	嶋田義人	存在と無、普遍的人間(オム)と理性	61	哲学	183	173	2015
Kato	Kumiko		Qing China's View of Its Border and Territory in Southernmost Yunnan in the 1830s: Analyses of Historical Sources Concerning Sipsongpanna	11	JSL		1	2015
Sakuma	Jun'ichi		On the Pseud-object in the Finnish Language	11	JSL		19	2015
Sonoda	Akiko		Why Dickens Resumed his Association with American Publishers in 1851	11	JSL		29	2015
おがわ	まさひろ	小川正廣	ホメロスの環は閉じられない：古代叙事詩の再生をめぐって(2)	62	文学	184	1	2016
よしたけ	すみお	吉武純夫	〈カロスなる生の終り〉と幸福なる者の条件：Hdt.1.32.5-9について	62	文学	184	37	2016
たじま	いこう	田島毓堂	『分類語彙表』元版・新版のコードの比較	62	文学	184	53	2016
まつざわ	かずひろ	松澤和宏	フローベール『ボヴァリー夫人』における報われない美德	62	文学	184	69	2016
なかむら	やすこ	中村靖子	フロイトの方法：観察と思弁のあいだで	62	文学	184	83	2016
たなか	ともゆき	田中智之	英語史におけるコントロール不定詞の発達について	62	文学	184	107	2016
ちん	しん	陳晨	楊逸の『ワンちゃん』を読む：孤独を拾い上げて、「ワンちゃん」に向かう	62	文学	184	125	2016
あさお	よしひこ	浅尾仁彦	接辞・接語・複合の左右非対称性：心理言語学的説明に向けて	62	文学	184	141	2016
うえだ	ゆうじ	植田裕志	物語をどのように終わらせるのか：『ペルレスヴォー』の場合	62	文学	184	157	2016
たむら	かよこ	田村(大田)加代子	『説文解字』「許絺」段注についての一考察：「文者錯畫也」をめぐって(上)	62	文学	184	191	2016
やました	ひろあき	山下宏明	堀田善衛『聖者の行進』を読む：全集の編集をめぐって	62	文学	184	215	2016
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	労ある秋の夕暮れ：『うつほ物語』「内侍督」の表現	62	文学	184	233	2016
ひび	よしたか	日比嘉高	国際スポーツ・イベントによる主体化：一九三二年のロサンゼルス・オリンピックと田村(佐藤)俊子「侮蔑」	62	文学	184	245	2016
いなば	のぶみち	稲葉伸道	略歴・業績	62	史学	185	1	2016
かわぐち	ひろし	川口洋史	ラタナコーシン朝前期における大臣の変遷：官歴を主な手がかりとして	62	史学	185	9	2016
やまもと	なおと	山本直人、渋谷綾子、上條信彦	残存デンプン粒分析からみた縄文時代の植物質食料：石川県の遺跡を対象として	62	史学	185	51	2016
かじわら	よしみ	梶原義実	讃岐地域における寺院選地	62	史学	185	83	2016

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	“様式化したジャガー頭部”石彫について(1): チャルチュアパ遺跡群エル・トラピチュ地区出土石彫を中心に	62	史学	185	101	2016
いけうち	さとし	池内敏	訳官使考	62	史学	185	125	2016
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	奈良時代の木工にみる都鄙間技術交流	62	史学	185	149	2016
はしもと	さとし	橋本哲	ワイトゲンシュタインの「確実性」について	62	哲学	186	1	2016
なるせ	しょう	成瀬翔	心的ファイルとメタ表示	62	哲学	186	35	2016
かみつか	よしこ	神塚淑子	六朝道教と『莊子』: 『真誥』・靈宝經・陸修静	62	哲学	186	55	2016
Kato	Kumiko	加藤久美子	Chinese and Burmese Involvements in the Politics of Sipsongpanna in 1837: Descriptions in Captain McLeod's Journal	12	JSL		1	2016
Sakuma	Jun'ichi	佐久間淳一	On the Reflexive Suffix and Its Predicative Function in Finnish	12	JSL		15	2016
Ichikawa	Akira	市川彰	Cuándo y Cómo Fue la Erupción del Volcán Ilopango, El Salvador: Síntesis desde la Óptica Arqueológica	12	JSL		23	2016
おがわ	まさひろ	小川正廣	略歴・業績	63	文学	187	1	2017
まちだ	けん	町田健	略歴・業績	63	文学	187	11	2017
たきかわ	むつむ	滝川睦	シェイクスピア劇における宴の変容: 『ハムレット』と『テンペスト』	63	文学	187	15	2017
ささき	みのる	佐々木稔	ボードレールと二月革命後の社会主義: 詩篇「驕慢の罰」の思想的射程	63	文学	187	31	2017
なかむら	やすこ	中村靖子	種としての人間のゆくさき: フロイト、ラマルク、レム	63	文学	187	55	2017
ひぐち	めぐみ	樋口恵	群衆形成における聴覚的効果: エリアス・カネッティ『虚栄の喜劇』を例に	63	文学	187	77	2017
さの	せいこ	佐野誠子	隋唐における仏教冥界遊行譚の変化: 閻羅王と金剛経そして創作の萌芽	63	文学	187	93	2017
たむら	かよこ	田村(大田)加代子	『説文解字』「許紱」段注についての一考察: 「文者錯畫也」をめぐって(中)	63	文学	187	113	2017
おおいだ	はるひこ	大井田晴彦	流離とみやび: 津の国の行平・業平兄弟	63	文学	187	135	2017
やました	ひろあき	山下宏明	『太平記』を読む 一: 『平家物語』を抱きこむ『太平記』	63	文学	187	149	2017
やまもと	なおと	山本直人	縄文時代の植物質遺物の較正年代と土器内面炭化物の炭素・窒素安定同位体比: 石川県の遺跡を対象として	63	史学	188	1	2017
かじわら	よしみ	梶原義実	信越地方の国分寺瓦	63	史学	188	25	2017
いとう	のぶゆき	伊藤伸幸	“様式化したジャガー頭部”石彫について(2): メソアメリカ南東部太平洋側における意味を考える	63	史学	188	47	2017
ふるおや	ともひろ	古尾谷知浩	国の「庁」とクラ	63	史学	188	73	2017

ひらがな(姓)	ひらがな(名)	著者名	論題	巻号	篇	通号	ページ	年
いけうち	さとし	池内敏	十八世紀対馬における日朝交流：享保十九年訳官使の事例	63	史学	188	89	2017
いなば	のぶみち	稲葉伸道	建武政権の寺社政策について	63	史学	188	117	2017
ふじき	ひであき	藤木秀朗	「国民」への動員：総力戦と「新興娯楽」による社会主体の更新	63	史学	188	147	2017
うねべ	としや	畝部俊也	略歴・業績	63	哲学	189	1	2017
たなか	しげよし	田中重好	略歴・業績	63	哲学	189	5	2017
たむら	ひとし	田村均	懷疑家フィロはなぜ宇宙的知性を認めたのか：ヒューム哲学とキリスト教の関係について	63	哲学	189	19	2017
なるせ	しょう	成瀬翔	社会的現実と虚構論	63	哲学	189	61	2017
かみつか	よしこ	神塚淑子	京都国立博物館所蔵敦煌道経：『太上洞玄靈宝妙経衆篇序章』を中心に	63	哲学	189	75	2017
Sakuma	Jun'ichi	佐久間淳一	On the Resultative Function of the So-called Reflexive Suffixes in Finnish	13	JSL		1	2017
Kanayama	Yasuhisa (Yahei)	金山弥平	Approach to Time in Ancient Greek Philosophy	13	JSL		11	2017
Miyahara	Isamu	宮原勇	The Mental Lexicon and the Architecture of Encyclopedia	13	JSL		27	2017
Ichikawa	Akira	市川彰	Secuencia Constructiva de La Campana (Estructura-5), San Andrés, El Salvador	13	JSL		45	2017